



高崎健康福祉大学

Takasaki University of Health and Welfare

2016

平成 28 年度

シラバス

健康福祉学部 社会福祉学科



平成 28 年度 社会福祉学科 シラバス目次

基礎教養ゼミ（教養基礎）	1
日本語表現法（教養基礎）	3
日本国憲法（教養基礎）	4
法学（教養基礎）	5
経済学（教養基礎）	6
社会学（教養基礎）	7
生涯健康論（教養基礎）	8
生涯学習概論（教養基礎）	10
生命と環境の科学（教養基礎）	11
国際関係論（教養基礎）	12
体育理論（教養基礎）	14
体育実技（教養基礎）	15
キャリア形成論（教養基礎）	17
哲学（人間理解）	19
倫理学（人間理解）	20
心理学（人間理解）	21
文学と人間（人間理解）	22
芸術論（人間理解）	23
ボランティア・市民活動論（人間理解）	24
人権論（人間理解）	26
人間関係論（人間理解）	27
ジェンダー論（人間理解）	28
共生の倫理（人間理解）	29
チーム医療アプローチ論（人間理解）	30
国際医療事情（人間理解）	31
Introduction to Healthcare Sciences（人間理解）小澤澗司、町田修三、クリストファー・ターン、村上孝、今井純、長谷川恵子	33
英語ⅠA（リテラシー）	35
英語ⅠB（リテラシー）	36
英語ⅠC（リテラシー）	37
英語ⅡA（リテラシー）	38
英語ⅡB（リテラシー）	39
英語ⅡC（リテラシー）	41
英語ⅢA（リテラシー）	42
英語ⅢB（リテラシー）	43
英語ⅢC（リテラシー）	44
英語ⅣA（リテラシー）	46
英語ⅣB（リテラシー）	47
英語ⅣC（リテラシー）	48
Integrated EnglishⅠ（リテラシー）	49
Integrated EnglishⅡ（リテラシー）	50
ドイツ語（リテラシー）	51
フランス語（リテラシー）	52
ポルトガル語（リテラシー）	53
中国語（リテラシー）	54
ハンガール語（リテラシー）	55
コンピュータ入門Ⅰ（リテラシー）	56
コンピュータ入門Ⅱ（リテラシー）	57

平成 28 年度 社会福祉学科シラバス

コンピュータ実習Ⅰ（リテラシー）	58
コンピュータ実習Ⅱ（リテラシー）	59
世界の社会福祉発達史（専門教養科目）	60
国際保健医療論（専門教養科目）	61
世界の歴史と日本（専門教養科目）	62
人間行動学（専門教養科目）	63
健康運動実技（専門教養科目）	64
宗教と倫理（専門教養科目）	66
レクリエーション論（専門教養科目）	67
現代社会と福祉Ⅰ（専門導入科目）	69
現代社会と福祉Ⅱ（専門導入科目）	70
相談援助の基盤と専門職Ⅰ（専門導入科目）	71
相談援助の基盤と専門職Ⅱ（専門導入科目）	72
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ（専門導入科目）	73
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ（専門導入科目）	74
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度（専門導入科目）	75
障害者に対する支援と障害者自立支援制度（専門導入科目）	77
人体の構造と機能及び疾病（専門導入科目）	78
社会調査の基礎（専門導入科目）	79
認知症の理解（専門導入科目）	80
障害の理解（専門導入科目）	81
発達と老化の理解（専門導入科目）	83
精神疾患とその治療Ⅰ（専門導入科目）	85
精神保健の課題と支援Ⅰ（専門導入科目）	86
福祉基礎実習（専門導入科目）	87
福祉基礎演習（専門基幹科目）	88
相談援助演習Ⅰ（専門基幹科目）	89
相談援助演習Ⅱ（専門基幹科目）	90
相談援助演習Ⅲ（専門基幹科目）	91
総合演習Ⅰ（専門基幹科目）	92
総合演習Ⅱ（専門基幹科目）	93
総合演習Ⅲ（専門基幹科目）	94
総合演習Ⅳ（専門基幹科目）	95
総合演習Ⅴ（専門基幹科目）	96
総合演習Ⅵ（専門基幹科目）	97
社会保障Ⅰ（専門展開科目）	98
社会保障Ⅱ（専門展開科目）	99
地域福祉の理論と方法Ⅰ（専門展開科目）	100
地域福祉の理論と方法Ⅱ（専門展開科目）	101
低所得者に対する支援と生活保護制度（専門展開科目）	103
相談援助の理論と方法Ⅰ（専門展開科目）	104
相談援助の理論と方法Ⅱ（専門展開科目）	105
相談援助の理論と方法Ⅲ（専門展開科目）	106
相談援助の理論と方法Ⅳ（専門展開科目）	107
福祉行財政と福祉計画（専門展開科目）	108
福祉サービスの組織と経営（専門展開科目）	109
保健医療サービス（専門展開科目）	110
権利擁護と成年後見制度（専門展開科目）	111
就労支援サービス（専門展開科目）	112
更生保護制度（専門展開科目）	113
相談援助演習Ⅳ（専門展開科目）	114

相談援助演習Ⅴ（専門展開科目）	115
相談援助実習指導Ⅰ（専門展開科目）	116
相談援助実習指導Ⅱ（専門展開科目）	117
相談援助実習指導Ⅲ（専門展開科目）	118
相談援助実習（専門展開科目）	119
精神疾患とその治療Ⅱ（専門展開科目）	120
精神保健の課題と支援Ⅱ（専門展開科目）	121
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）（専門展開科目）	122
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（専門展開科目）	123
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（専門展開科目）	124
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ（専門展開科目）	125
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ（専門展開科目）	126
精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ（専門展開科目）	127
精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ（専門展開科目）	128
精神障害者の生活支援システム（専門展開科目）	129
精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ（専門展開科目）	130
精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ（専門展開科目）	131
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ（専門展開科目）	132
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ（専門展開科目）	133
精神保健福祉援助実習指導Ⅲ（専門展開科目）	134
精神保健福祉援助実習（専門展開科目）	135
介護の基本Ⅰ（専門展開科目 介護福祉コース）	137
介護の基本Ⅱ（専門展開科目 介護福祉コース）	139
介護の基本Ⅲ（専門展開科目 介護福祉コース）	141
介護の基本Ⅳ（専門展開科目 介護福祉コース）	142
介護の基本Ⅴ（専門展開科目 介護福祉コース）	143
介護の基本Ⅵ（専門展開科目 介護福祉コース）	144
生活支援技術Ⅰ（専門展開科目 介護福祉コース）	145
生活支援技術Ⅱ（専門展開科目 介護福祉コース）	146
生活支援技術Ⅲ（専門展開科目 介護福祉コース）	147
生活支援技術Ⅳ（専門展開科目 介護福祉コース）	148
生活支援技術Ⅴ（専門展開科目 介護福祉コース）	149
介護過程Ⅰ（専門展開科目 介護福祉コース）	150
介護過程Ⅱ（専門展開科目 介護福祉コース）	151
介護過程Ⅲ（専門展開科目 介護福祉コース）	152
介護過程Ⅳ（専門展開科目 介護福祉コース）	153
介護過程Ⅴ（専門展開科目 介護福祉コース）	154
介護総合演習Ⅰ（専門展開科目 介護福祉コース）	155
介護総合演習Ⅱ（専門展開科目 介護福祉コース）	156
介護総合演習Ⅲ（専門展開科目 介護福祉コース）	157
介護総合演習Ⅳ（専門展開科目 介護福祉コース）	159
介護実習Ⅰ（専門展開科目 介護福祉コース）	160
介護実習Ⅱ（専門展開科目 介護福祉コース）	161
介護実習Ⅲ（専門展開科目 介護福祉コース）	162
医療的ケア論Ⅰ（専門展開科目 介護福祉コース）	164
医療的ケア論Ⅱ（専門展開科目 介護福祉コース）	165
医療的ケア論Ⅲ（専門展開科目 介護福祉コース）	166
医療的ケア演習（専門展開科目 介護福祉コース）	167
ケアマネジメント論（専門関連科目）	168
地方自治論（専門関連科目）	169
看護概論（専門関連科目）	170

リハビリテーション論（専門関連科目）	172
レクリエーション実技（専門関連科目）	173
福祉レクリエーション論（専門関連科目）	175
福祉レクリエーション援助論（専門関連科目）	176
福祉レクリエーション援助技術（専門関連科目）	177
障害者福祉論（専門関連科目）	179
地域政策論（専門関連科目）	180
医療福祉と行動科学（専門関連科目）	181
こども論（専門関連科目）	182
カウンセリング論（専門関連科目）	183
トータルボディトレーニング（専門関連科目）	184
こころとからだのしくみⅠ（専門関連科目）	186
こころとからだのしくみⅡ（専門関連科目）	187
障害者スポーツ論（専門関連科目）	188
介護概論（専門関連科目）	190
卒業研究（卒業論文）（専門関連科目）	191
教師論（教職関係科目）	192
教育心理学（教職関係科目）	193
特別活動論（教職関係科目）	194
道德教育の研究（教職関係科目）	196
教育基礎論（教職関係科目）	198
教育制度論（教職関係科目）	199
福祉科教育法（教職関係科目）	200
公民科教育法（教職関係科目）	202
生徒指導論（教職関係科目）	204
進路指導論（教職関係科目）	205
教育相談（教職関係科目）	206
介護実習（教職関係科目）	207
教職指導Ⅰ（教職関係科目）	208
教職指導Ⅱ（教職関係科目）	209
高等学校教育実習（教職関係科目）	210
教職実践演習（高）（教職関係科目）	211
生涯学習社会と図書館（司書科目）	213
図書館概論（司書科目）	214
図書館制度・経営論（司書科目）	215
図書館情報技術論（司書科目）	216
図書館サービス概論（司書科目）	217
情報サービス論（司書科目）	218
児童サービス論（司書科目）	220
情報サービス演習（司書科目）	222
図書館情報資源概論（司書科目）	224
情報資源組織論（司書科目）	225
情報資源組織演習（司書科目）	226
図書館サービス特論（司書科目）	228
図書館情報資源特論（司書科目）	229
学校経営と学校図書館（司書教諭科目）	230
学校図書館メディアの構成（司書教諭科目）	231
学習指導と学校図書館（司書教諭科目）	232
読書と豊かな人間性（司書教諭科目）	233
情報メディアの活用（司書教諭科目）	234

基礎教養ゼミ（教養基礎）

担当者

案田順子、町田修三、根岸恵子、小泉英明

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 必修 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

「生徒」から「学生」へと、短期間で意識改革を要求される大学生活。入学直後からの「とまどい」を払拭し大学生活を充実させるために、学習方法の修得、大学生活の心得と改善の理解、さらには将来へのキャリアデザインの構築を図る。

到達目標

大学初年次生としての基礎的な学習方法を実践でき、発展的自己学習方法を目指すことができる。基礎学力確認試験を通じ、自分の現時点での実力を確認でき、自己学習の方向性を具体的に把握できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 大学で何を学ぶか（意義と目的）
- 第 2 回 書くためのスキル I（ノートテキング）
- 第 3 回 基礎力の確認（計算・言葉・作文）
- 第 4 回 コミュニケーションスキル I（アクティブラーニング）
- 第 5 回 解くためのワーク I（計算）
- 第 6 回 考えるためのワーク I（言葉）
- 第 7 回 書くためのスキル II（論文・レポート作成法）
- 第 8 回 解くためのワーク II（数的処理①）
- 第 9 回 コミュニケーションスキル II（プレゼンテーション）
- 第 10 回 考えるためのワーク II（敬語）
- 第 11 回 キャリアデザイン
- 第 12 回 解くためのワーク III（数的処理②）
- 第 13 回 考えるためのワーク III（自己紹介・他者紹介）
- 第 14 回 実力テスト（文章読解・数的理解）・解説
- 第 15 回 安全教育講話

評価方法

授業参加度 30%、学期末筆記試験 30%、提出物 40%で総合的に評価する。詳しい評価基準は該当授業時に提示する。

使用教材

使用教材は、授業時に各担当教員から配布する。

授業外学習の内容

毎回異なるテーマで教員も入れ替わるが、同一教員のプリントはまとめてファイルしておくこと。課題（作文・数的処理）をしっかりとこなすこと。

備考

受講ルール：私語・携帯電話の使用および飲食は厳禁とする。

キーワード：「初年次生」「学習方法」「学習意欲」

学習上の助言：大学生活での「不安」を「解消」するために多方面から指導するので、たとえ眠くなっても眠

ってはいられないでしょう。

日本語表現法（教養基礎）

担当者

案田 順子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

日本人の極端な日本語能力低下が問題視されている中で、「書きことば」における表現力を向上させるために、まず自分の「考え」をまとめ「書く」に至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、「考え」をいかに「文章化」するかを修得する。同時に他者の「考え」を発言や文面から把握、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。

到達目標

日本語の基礎的知識を、表現・文法・語彙の三側面から把握し、活用することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 「考え」をまとめるための 5 段階
- 第 2 回 日本語表現の基礎知識Ⅰ 「公的」と「私的」
- 第 3 回 日本語表現の基礎知識Ⅱ 慣用句
- 第 4 回 日本語表現の基礎知識Ⅲ ことわざ・故事成語
- 第 5 回 日本語表現の基礎知識Ⅳ 四字熟語
- 第 6 回 日本語表現の基礎知識Ⅴ 比喩法
- 第 7 回 日本語表現のミスⅠ 主述関係
- 第 8 回 日本語表現のミスⅡ 修飾語・被修飾語
- 第 9 回 日本語表現のミスⅢ 重複表現
- 第 10 回 日本語表現のミスⅣ 副詞の誤用
- 第 11 回 日本語表現のミスⅤ 助詞の誤用
- 第 12 回 文章の組み立て方Ⅰ 起承転結
- 第 13 回 文章の組み立て方Ⅱ 5WIH
- 第 14 回 文章の組み立て方Ⅲ キーワード・キーセンテンス
- 第 15 回 文章の組み立て方Ⅳ 字数制限

評価方法

筆記試験（80%）・授業参加度（20%）によって、総合的に評価する。評価方法の基準については、講義時に通達する。

使用教材

『文章表現テクニック』（教育弘報研究所）

授業外学習の内容

自ら学ぶ姿勢を身につけるために授業後は必ずノートを整理し、課題を実施しておく。

備考

受講ルール:私語・携帯電話の使用および飲食は厳禁とする。

キーワード:「日本語」「自己表現」「基礎知識」「再確認」

学習上の助言:「日本語」の基礎を再確認し、実力をつけるラストチャンスと考え、授業には積極的に、しかしながら謙虚な姿勢で参加するように。担当者メールアドレス:janda@takasaki-u.ac.jp

日本国憲法（教養基礎）

担当者

金井 洋行

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

憲法に関する基本的な知識を習得することを目的とするが、特に社会人として要求される価値規範意識を醸成する。身近な生活の中から人権の保護や社会への参加の問題を探り出し、憲法上の課題を理解する

到達目標

- ・ 憲法が解決すべき紛争について、その歴史的・社会的背景を認識できる。
- ・ 政治の世界で起きるべき事について、具体的な憲法規定と結びつけられる。
- ・ 憲法学習を通じて、市民相互間のあり方と公的部門のあり方を考察できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 憲法とは何か ①憲法学習の意義②憲法の本質
- 第 2 回 国家・国民・政府－憲法を構成する基本要素の内容
- 第 3 回 日本国憲法の制定 ①日本国憲法の制定の経緯②日本国憲法の特徴
- 第 4 回 日本国憲法の理念 ①日本国憲法の全体構造②基本的人権の保障と統治機構の関係
- 第 5 回 基本的人権の本質 ①基本的人権の意味②人権の享有主体
- 第 6 回 個人主義と幸福追求権 ①個人主義の意味②人間の人格的権利の特徴
- 第 7 回 法の下での平等 ①平等の法的意味②合理的区別の問題点
- 第 8 回 精神的自由権 ①人間の精神活動の法的意味②報道の自由の課題
- 第 9 回 経済的自由権 ①人間の経済活動の法的意味②経済規制の立法の課題
- 第10回 社会権と教育権①文化的に生きる権利の意味②教育を受ける権利と学習権
- 第11回 国会と立法 ①国会の特徴②法律を制定することの意味
- 第12回 内閣と行政 ①内閣と内閣総理大臣の特徴②行政活動の統制
- 第13回 裁判所と司法 ①裁判所の構成と機能②司法権の意義と限界
- 第14回 民主制の選挙 ①民主主義の本質②選挙制度の問題点
- 第15回 憲法改正と憲法保障 ①憲法改正の手段と限界②憲法を守るための理念と制度

評価方法

授業に対する姿勢（25%） 期末試験（知識と思考の審査）（75%）

使用教材

授業時に指示する。

授業外学習の内容

テキスト内の演習課題は必ず行うこと。レジュメ次回「考えてみよう」を行っておくこと。

備考

法学（教養基礎）

担当者

金井 洋行

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

法の存在意義を法が権利と義務の変動の関係を規律しているという観点から理解する。法律関係の基本的システムを習得し、社会生活を営む者に要求される法規範意識を身に付ける。

到達目標

- ・身近に生じる生活上の課題から派生する法的問題を探ることができる。
- ・法的問題を解決するための法制度や法解釈の基礎を理解できる。
- ・法の仕組みや解釈の手法を通して、社会人としてのものの考え方ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 法とは何か ①法の意義②法の機能
第 2 回 成人と法 ①人間の年齢の法的意味②人間の能力の法的意味
第 3 回 就職と法 ①採用の法的意味②選定の法的問題
第 4 回 労働と法 ①労働契約の法的意味②労働条件の保護の課題
第 5 回 結婚と法 ①婚姻の要件と障害②夫婦の権利義務関係
第 6 回 親子と法 その 1①子の出産をめぐる法律問題②親子関係の形成—嫡出性の問題
第 7 回 親子と法 その 2①親権関係②扶養関係
第 8 回 教育と法 ①義務教育の意義②就学過程において生じる法律問題
第 9 回 社会活動と法 ①社会生活上の団体の意味②団体生活において生じる法律問題
第10回 社会負担と法 ①租税や社会保険料の意味②公共生活上の法律問題
第11回 国際化と法 ①出入国の管理②涉外事件における法律問題
第12回 財産関係と法 ①物権取引において生じる法律問題②契約締結において生じる法律問題
第13回 犯罪と法 ①犯罪と刑罰の法的意味②科罰手続の問題
第14回 争い事と法 ①紛争の法的処理の方法②裁判の仕組み
第15回 老年期と法 ①老年期の介護と医療②人間の死の法的意味

評価方法

授業に対する姿勢を重視する。(25%) 期末試験（知識と思考力の審査）(75%)

使用教材

授業時に指示する。

授業外学習の内容

テキスト内の演習課題は必ず行うこと。レジュメ次回「考えてみよう」を行っておくこと。

備考

経済学（教養基礎）

担当者

町田 修三

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、ほとんどの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても、経済知識なしで投票に行くのは危険な気さえする。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。

到達目標

- ①日本経済の現状を説明できる。
- ②新聞やテレビのニュースが難なく理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 日本経済の流れ（世界との比較のなかで）
- 第 3 回 経済政策の 2 大潮流－マーケット or ケインズ
- 第 4 回 需要と供給（需要曲線の意味）
- 第 5 回 市場メカニズムと価格（どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう？）
- 第 6 回 価格の変動（どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう？）
- 第 7 回 国民所得（国の経済力はどう測るんだろう？GDP って何？）
- 第 8 回 国民所得（あなたが 1 万円使うと GDP はいくら増える？）
- 第 9 回 財政（日本の借金は大丈夫？消費税は何%に？）
- 第 10 回 景気と失業（不景気で学生の就職はどうなる？）
- 第 11 回 金融（日本銀行は何をするところ？）
- 第 12 回 経済政策のしくみ（アベノミクスは何をした？）
- 第 13 回 為替レートのメカニズム（円高、円安ってどうして起こるの？）
- 第 14 回 世界と日本（日本の貿易は黒字？赤字？）
- 第 15 回 まとめと確認のためのテスト

評価方法

筆記試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物 20%

使用教材

授業外学習の内容

本講義の理解を深めるためには、新聞やテレビで日々のニュースに触れることが効果的である。テキストを利用した予復習は課さないかわりに、日常的に新聞を読みテレビニュースを視聴すること。

備考

社会学（教養基礎）

担当者

安達 正嗣

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

社会学とは、中間集団を媒介として、社会と個人との関係を追究する学問である。中間集団とは、家族・地域・学校・職場などである。今日、社会学を学ぶことは、社会福祉分野に関わる者にとっては不可欠である。大きな人口変動や社会変動のなかにある現代社会の理解なくしては、社会福祉士の資格を取得できないというだけでなく、社会福祉そのものを理解することはできないのである。

到達目標

現代の生活人として、そして職業人として生きていくために、社会学の観点から現代社会の基礎的問題の理解の理解ができる基礎的能力を身につけることができるようになる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 社会学とは
- 第 2 回 社会システム
- 第 3 回 法と社会システム
- 第 4 回 経済と社会システム
- 第 5 回 社会変動
- 第 6 回 人口からみた社会変動
- 第 7 回 生活のとらえ方
- 第 8 回 家族と生活
- 第 9 回 地域と生活
- 第 10 回 社会的行為
- 第 11 回 社会的役割
- 第 12 回 社会集団と組織
- 第 13 回 社会的ジレンマ・社会関係資本・社会的連帯
- 第 14 回 社会問題のとらえ方・日本社会と社会問題
- 第 15 回 共生社会と権利・まとめ

評価方法

小テスト（毎回、講義の開始時に前回の講義内容について数問のテストをします。遅刻しないこと。）50%
学期末テスト 50%

使用教材

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム—社会学』中央法規

授業外学習の内容

毎回、授業の最初に前回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと。

備考

私語は、厳禁です。

生涯健康論（教養基礎）

担当者

鈴木 忠

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約 10 年も短い。本講義では、健康寿命の延伸のための生涯にわたる健康増進法について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎能力を身に付けることを目的としている。

到達目標

各回の講義内容欄に〈 〉内に示す語句（キーワード）について理解し、説明できるようになる。

講義内容と講義計画

第 1 回 健康の定義と健康評価指標

WHO の提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、〈平均寿命〉、〈平均余命〉、〈健康寿命〉、〈最長寿命〉などの呼び方があり、これから重要なのは、健康寿命であることを理解する。

第 2 回 健康を維持するための構造と働き

健康を維持するための主たる生理機構は、〈物質代謝〉である。物質代謝に関わる体の構造とその働きについて理解する。

第 3 回 恒常性維持システムの役割と相互作用

物質代謝に関連する構造がバランスよく正常に機能するように統括する恒常性維持（〈ホメオスタシス〉）システムは、脳神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。その働きと相互作用について理解する。

第 4 回 食物と健康

物質代謝のスタートは食物からの栄養摂取である。食物には健康に欠かすことのできない〈栄養素〉を含むものと健康を害する因子を含む食物とがあることを理解する。

第 5 回 〈運動と健康〉

運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。

第 6 回 〈心のケアと健康〉

ストレスが、恒常性維持システムのバランスに悪影響を及ぼし、健康を害するメカニズムを理解し、ストレスを解消するための心のケアが健康維持にいかに重要であるかを理解する。

第 7 回 喫煙による健康障害

たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの〈喫煙と健康障害〉のメカニズムについて理解する。〈受動喫煙の影響〉についても考える。

第 8 回 生活環境と健康

放射能、排気ガス、温室効果ガス等の〈生活環境と健康〉についても考える。

第 9 回 21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）

2000 年より、健康寿命の延伸を目指す健康づくり運動がスタートした。①食物・栄養、②運動及び③心の安静を〈健康維持の 3 本柱〉とし、これまでの早期発見・早期治療による二次予防及び確実な診断と治療・リハビリによる三次予防に対して、病気の発生そのものを防ぐ一次予防を重視する〈予防医学〉のスタートである。

第10回 特定健康診断の重要性及びメタボリックシンドローム

特定健康診断の結果の値を、発病予防のための健康管理の指標とできることを理解する。さらに、＜定期健康診断＞によって、疾患の早期発見あるいは疾患前状態を発見することで、二次予防にも繋がることを理解する。また、＜内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）＞の怖さを理解し、その予防法について考える。

第11回 生活習慣病の危険因子としての糖尿病

＜糖尿病＞には、I型とII型があり、第12回で学習する冠状動脈や脳動脈における血液循環障害発生の危険因子となるのみならず、微小血管循環障害による腎障害、視力障害及び神経障害という＜三大合併症＞を引き起こす。人工透析が必要となる腎不全及び失明の原因の第1位は糖尿病である。危険因子としての糖尿病とその予防法について理解する。

第12回 生活習慣病（心疾患・脳卒中）と発症を予防する生活習慣

死亡原因の2位及び3位の＜心疾患（狭心症・心筋梗塞症）＞及び＜脳卒中＞は、＜血液循環障害＞による。これらの疾患の本態を知り、生活習慣との関係を理解し、その予防のための生活習慣を考える。

第13回 生活習慣病（がん）と発症を予防するための生活習慣

日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣＜がん発症危険因子＞を知る。また、＜がん予防のための生活習慣＞及び早期発見・早期治療のための＜がん検診＞の重要性について

理解する。

第14回 微生物感染症と感染・発症予防

日本人の死亡原因の第4位は肺炎と呼ばれる微生物感染症である。各種保健医療施設においては、入所（入院）者の＜院内感染症＞発症予防は、最重要課題である。輸血などの医療行為が微生物感染症の発生要因＜医原性感染症＞となる場合があること、感染症発生の予防法について理解する。

第15回 地域における健康支援チーム構成員とその役割：まとめ

これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる＜健康支援チームによるチーム医療＞が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。

評価方法

授業参加度（予習してきたの発表、質問、質問に対する回答等）：30点、レポート：30点、期末試験：40点

使用教材

テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。

授業外学習の内容

- ・講義は、できるだけ質疑・応答を中心として進めていくのでシラバスの中に示したキーワードについての予習をしてこよう。
- ・グループに分け、各グループごとに課題を与え、発表してもらおうので、全員で協力してまとめること。

備考

。

生涯学習概論（教養基礎）

担当者

森部 英生、小西 尚之

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

教育水準の高度化や人々の意識、生活形態の急激な変化にともない、「生涯学習」が進展・定着する中で、「生涯学習」「生涯学習社会」とは何かを踏まえ、公民館・図書館・博物館をはじめとする社会教育施設社会における様々な学びの場での人々の学習について、学生グループの報告を交えてその理論・実際を学ぶ。

到達目標

生涯学習の意義、「生涯学習社会」の意義、社会教育と生涯学習の関係、公民館・図書館・博物館・美術館・青年の家の意味と実際、等のテーマを取り上げ、公教育における生涯学習の意義とその実際の活動について、学生の理解を深めるとともに、生涯学習の実践力を身につけることをめざす。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 「生涯教育」と「生涯学習」
- 第 3 回 「生涯学習社会」とは何か
- 第 4 回 「学習権」とは何か
- 第 5 回 社会教育と生涯学習
- 第 6 回 公民館とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第 7 回 公民館の補充
- 第 8 回 図書館とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第 9 回 図書館の補充
- 第 10 回 博物館とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第 11 回 博物館の補充
- 第 12 回 美術館とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第 13 回 美術館の補充
- 第 14 回 青年の家・少年自然の家とはどんな所か(学生グループ報告予定)
- 第 15 回 青年の家・少年自然の家の補充

評価方法

期間中行う 3 階の小テストに約 70%、授業に対する貢献度に約 30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。また、途中 3 回実施予定の小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

人間が人間らしく生きる上で、いつでも・どこでも自由に学ぶことは不可欠です。生涯学習はこうした理念に立つものです。これまで自分が行ったことのある博物館・動物園等の施設を思い返し、また、関係する文献・TV番組・新聞記事等にも目を配って、その意義を確認してほしいと思います。

生命と環境の科学（教養基礎）

担当者

奥 浩之

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・今後の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。

到達目標

本講義を受講することにより、各自が生命や環境に関する事項についてニュースなどを鵜呑みにするのではなく、様々な文献や資料を参照することで自律的に理解・判断できるようになり、レポートなどの形式でまとめられるようになることを学習目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 生命と環境－地球における元素の循環
- 第 2 回 生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化
- 第 3 回 生命と環境－化学進化と生命における元素の役割
- 第 4 回 生命と生体分子－DNA 二重らせんと X 線構造解析
- 第 5 回 生命と生体分子－タンパク質の立体構造・分子グラフィックス
- 第 6 回 生命と生体分子－様々なヘム蛋白質・医薬品との相互作用（CYP450）
- 第 7 回 環境と資源－炭素資源・石油化学産業・医薬品産業
- 第 8 回 環境と資源－シュールガス、シュールオイル
- 第 9 回 環境と健康－バイオマス・バイオディーゼル
- 第10回 生命と医薬品－生体材料（血管の接着剤）
- 第11回 生命と医薬品－生体材料（痛くない注射針）
- 第12回 生命と医薬品－日本において開発された画期的なくすり
- 第13回 地球環境と健康－グローバル化、インフルエンザ、新興再興感染症
- 第14回 地球環境と健康－さまざまな感染症の予防ワクチン
- 第15回 地球環境と健康－ワクチン成分と研究開発

評価方法

レポート課題 50%、授業参加度 50%

使用教材

使用しない（講義にて用いるスライドを配布予定）

授業外学習の内容

2 週に一度、講義に関連した自主学習としてレポート作成を課題とする予定。

備考

国際関係論（教養基礎）

担当者

片桐 庸夫

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

皆さんが生活する今日の世界とはどんなものかを理解することを目的としている。まず今日の世界の基本となっている戦後の冷戦について理解する。次に冷戦の何が変わって今日の世界が出来ているか理解する。それを通じ国際テロ、民族紛争、領土紛争、宗教対立といった現代世界の特徴と戦後日本の外交や国際貢献をめぐる課題について学ぶ。

到達目標

今日の世界情勢と日本外交や国際貢献問題について基本的に理解し、テレビや新聞のホットな話題やニュースを理解出来るようにすること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 授業の展開の方法、出席の取り方、試験の方法、成績評価の方法等についてのガイダンスを行う。
- 第 2 回 「冷戦の特異性」の意味、大規模な戦争後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立について理解する。
- 第 3 回 「呉越同舟」の例えの典型的事例である戦勝同盟国間の対立の例としてのウイーン会議について理解する。
- 第 4 回 国際コミュニケーションにとって大切な言語、宗教、文化、国家体制といった共通の価値観の意味について理解する。
- 第 5 回 米ソ間の価値観の欠如、イデオロギー対立、体制間対立について理解する。
- 第 6 回 米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化について理解する。
- 第 7 回 冷戦の定義、核の下での平和、冷戦後の現代世界の特徴について理解する。
- 第 8 回 終戦とアメリカの初期対日占領政策の特徴、日本の改革について理解する。
- 第 9 回 冷戦のアジアへの波及にともなうアメリカの対日占領政策の修正、日本国憲法、天皇制存置、象徴天皇制の関連性について理解する。
- 第 10 回 ジョージ・ケナンの Five Power Centers 構想、日本の再軍備について学ぶ。
- 第 11 回 サンフランシスコ講和条約による日本の独立回復、同条約の問題点、日米安保条約の問題点、不公平性などについて理解する。
- 第 12 回 戦後日本外交の課題である『「戦後」の克服』の意味、日ソ国交正常化、国連加盟、未解決の北方領土問題について理解する。
- 第 13 回 日米安保改定による日米パートナーシップ関係の意味、日本の経済大国化について理解する。
- 第 14 回 沖縄返還、日中国交正常化、それらにともなう『「戦後」の克服』について理解する。
- 第 15 回 中国の台頭と日本外交のゆくえ及び国際貢献の在り方について考える。

評価方法

小テスト結果と授業態度等を総合的に評価する。

使用教材

テキストを用いず、授業中にプリントを配布する。

授業外学習の内容

中国の軍事力増強や南シナ海制海権確立の動き、中国やロシアとの領土問題、沖縄基地移転の問題等についての新聞やテレビのニュース、ドキュメント番組等を見て、日頃から国際問題や日本の課題等についての関心を

育んでいて欲しい。

備考

体育理論（教養基礎）

担当者

大家 千枝子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 1 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 1 単位、健康栄養学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力や生活を見つめるとともに、健康づくり・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。

到達目標

- 1 自らの健康・体力を評価し、健康であることの大切さを理解することができる。
- 2 適切な運動プログラムを作成することができる。
- 3 ヒトの基本動作を理解し、自身の動きを評価することができる。
- 4 運動中に起こりうる事故を理解し、事故が起こらないように注意することができる。
- 5 現代社会における体育・スポーツの意義について理解することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 健康とは
- 第 2 回 体力を知る (1) 体力テスト
- 第 3 回 体力を知る (2) 体力テスト (続き)
- 第 4 回 体力とは、体力テストの評価
- 第 5 回 我が国における健康づくり施策 (1)
- 第 6 回 我が国における健康づくり施策 (2)
- 第 7 回 健康づくり運動 (1) 有酸素運動
- 第 8 回 健康づくり運動 (2) 筋力トレーニング
- 第 9 回 健康づくり運動 (3) ストレッチングほか
- 第10回 運動と栄養
- 第11回 運動とこころの健康
- 第12回 スポーツとは何か
- 第13回 スポーツと文化
- 第14回 体育・スポーツの歴史
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への参加度 30%、各授業時における提出物など 35%、最終課題 35%

使用教材

特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

必要に応じて授業終了時に配布する課題についてレポートを作成すること。

備考

初回のガイダンスで、具体的に受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどを明確に示す。

体育実技（教養基礎）

担当者

大家 千枝子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年前期 選択 1 単位

講義目標

体を動かす具体的な体験をとおして理論と実践とを結びつける。

到達目標

- 1 知識・理解の観点：各スポーツ種目の歴史、ルール、マナーを理解する。
- 2 思考・判断の観点：安全に効率よく練習およびゲーム運営を思考・判断できる。
- 3 関心・意欲の観点：種目特性によって異なる身体感覚について関心をもつ。
- 4 態度の観点：積極的に取り組む。また、施設、器具を大切に扱う。
- 5 技能・表現の観点：基本スキルの獲得。相手の力量にあわせ、楽しみながらゲームができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス（体育館）
- 第 2 回 ストレッチとレジスタンストレーニング（体育館）
- 第 3 回 バレーボール（体育館）
- 第 4 回 バレーボール（体育館）
- 第 5 回 テニス（テニスコート）
- 第 6 回 テニス（テニスコート）
- 第 7 回 テニス（テニスコート）
- 第 8 回 フットサル（フットサルコート）
- 第 9 回 フットサル（フットサルコート）
- 第10回 フットサル（フットサルコート）
- 第11回 バasketボール（体育館）
- 第12回 バasketボール（体育館）
- 第13回 バドミントン（体育館）
- 第14回 バドミントン（体育館）
- 第15回 バドミントン（体育館）

評価方法

授業態度・授業への参加度 60%、レポート課題 30%、授業記録の管理 10%

使用教材

自作プリントを適宜配布する。また参考書を適宜紹介する。

授業外学習の内容

からだをしっかりと目覚めさせ、着替えや食後の消化にかかる時間などを確保するためにも、余裕をもって朝早く起きる習慣を身につける。また継続して運動を実施できるよう課外時間に大学体育施設（フィットネスルームを含む）を積極的に利用する。時間がとれない場合は、日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動の中で身体活動量を増やす工夫をする。

備考

受講上の注意点：1. トレーニングシャツ、パンツ、シューズ（体育館は室内用、テニスコート・フットサルコ

ートは屋外用)を着用すること(ジーンズや普段着での受講は不可)、ケガを未然に防ぐために、時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアス等の貴金属類は外して参加すること。2. 原則として見学は認めない。また実技授業をすすめる上で配慮を必要とする学生は初回のガイダンス当日までに担当教員へ申し出ること。3. 貴重品の管理は各自で行うこと。4. 授業で実施するスポーツ種目の器具は大学で用意しますが、テニスやバドミントンのラケットなど個人で所有する器具があれば、積極的に持参すること。5. 天候により施設変更することがあります。教務課掲示板で確認してください。

キャリア形成論（教養基礎）

担当者

小泉 英明

開講学科と時期・単位

医療除法学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

社会の仕組みはもとより、経済、雇用など私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変わり、仕事の質や内容までも大きく変化しています。本講座では、社会（企業・組織）が大学生に求める「能力」について理解を深め、社会で実際に役立つ人材となるよう支援します。さらに、様々な事例紹介によって社会・職場適応力を養い、近い将来、社会人として適切なスタートを切ることができるよう“自身”の強化プラン策定と目標管理を促し、将来のキャリア形成につなげられるよう支援することも目標としています。

到達目標

- ① 社会に通用する就業観、勤労観を持つ
- ② 自己を正しく理解し、適切なキャリアデザインを描くことができるよう、基礎力と社会適応力を身につける
- ③ コミュニケーション能力、論理的思考力、創造的思考力、問題解決能力など、社会から必要とされる力を身につける
- ④ 効果的な就職活動を遂行できるよう、自己変革のための目標管理を行う

講義内容と講義計画

- 第 1 回 キャリアとは何？／キャリア形成のために必要なこと
- 第 2 回 先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材
- 第 3 回 セルフ・ディベロップメントⅠ（自己の理解）
- 第 4 回 コミュニケーション力
- 第 5 回 実践コミュニケーション力〔演習〕
- 第 6 回 気づく力
- 第 7 回 考える力Ⅰ（ロジカル・シンキングとクリティカル・シンキング）
- 第 8 回 考える力Ⅱ（クリエイティブ・シンキング）
- 第 9 回 創造力を伸ばすには〔演習〕
- 第10回 問題解決能力
- 第11回 働く意味／就業力と仕事力
- 第12回 社会における人間関係
- 第13回 セルフ・ディベロップメントⅡ（目標設定／キャリア・マニフェスト）
- 第14回 セルフ・ディベロップメントⅢ（将来のキャリア形成に向けて）
- 第15回 ストレス・マネジメント／まとめ

評価方法

最終レポート（60%）、各授業時における提出物（30%）、受講態度（10%）

使用教材

授業時にプリントを配布する

授業外学習の内容

授業外学習：配布プリントをもとに、毎回、復習をすること。配布物はしっかりファイルし、毎回持参すること。授業内外の課題は必ず提出すること。※分からないことがあったら積極的に質問してください。

備考

社会の出来事を理解できるよう、新聞等のニュースに目を通して受講すること。

哲学（人間理解）

担当者

大石 桂子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

「他者とどう関わっていけばよいか」「生きることに意味はあるのか」「絶対に正しいことはあるのか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち研究するのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わるものとして考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や統計なども手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。

到達目標

各トピックの基本的な問題点を理解し、様々に議論されてきた内容について知識を得る。また、現代的な視点から自己の主張を持ち、それを表現する力を養う。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 自分と他者 (1) 「人に認められたい」のは本能？
- 第 3 回 自分と他者 (2) 「本当の自分」はあるのか
- 第 4 回 自分と他者 (3) 人と人の関係性
- 第 5 回 ディスカッション
- 第 6 回 平等と共生 (1) 誰もが信じられる正しさはあるか
- 第 7 回 平等と共生 (2) 環境は人の心にどう影響するのか
- 第 8 回 自由はあるのか—正しい自己決定のために
- 第 9 回 心と身体 (1) 人間である条件とは理性か
- 第10回 心と身体 (2) 心と体の関係性—脳死を考える
- 第11回 エンハンスメント (1) 変化する「病」
- 第12回 エンハンスメント (2) 「弱さ」を否定する社会
- 第13回 「空気」を意識する
- 第14回 責任 (1) 責任の範囲はどこまで？
- 第15回 責任 (2) 「何もしなかった」ことに責任は問われるか

評価方法

定期試験（60%）、ミニ・レポート（40%）に、講義への参加態度を加えて総合的に評価する。

使用教材

講義中にプリントを配布。

授業外学習の内容

復習としてノート・資料を読み直し、ミニ・レポートを作成すること。

備考

本講義では知識の修得だけではなく、各自が「哲学する」ために、ミニ・レポートを課しているため、主体的に取り組んでほしい。

倫理学（人間理解）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

現代の医療をめぐる問題を取りあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。

到達目標

医療に関連する論理的諸問題について正確な知識を習得し、自分の考えを表現することができる。また、自分と対立する考えについても理解を深める。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション：生命倫理学について
- 第 2 回 不妊治療（1）人工授精
- 第 3 回 不妊治療（2）体外受精、代理母
- 第 4 回 遺伝子操作（1）ヒトゲノム計画
- 第 5 回 遺伝子操作（2）遺伝子診断技術と優生思想
- 第 6 回 人工妊娠中絶：パーソン論
- 第 7 回 遺伝子操作（3）クローン技術
- 第 8 回 遺伝子操作（4）幹細胞研究と将来世代のための倫理
- 第 9 回 終末期医療（1）告知をめぐる問題
- 第10回 終末期医療（2）インフォームド・コンセント
- 第11回 終末期医療（3）安楽死とホスピスケア
- 第12回 臓器移植（1）生体臓器移植
- 第13回 臓器移植（2）死後移植と臓器移植法改正
- 第14回 エンハラスメント：薬剤の使用をめぐる問題
- 第15回 総括

評価方法

授業への参加とその態度（20%）、小テスト・期末レポート（80%）から評価する。

使用教材

講義中に資料を配布する。

授業外学習の内容

なるべく平易な表現を用いて講義を行う。予習は必ずしも求めないが、配付された資料を読込むなど復習は必ず行うこと。講義中、一つの問題をめぐる様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んでほしい。

備考

心理学（人間理解）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、支援に必要な基礎的知識の習得を目指す。こころのしくみに関して心理的諸機能を概観し、心の発達や健康について理解したうえで、心理的支援の方法と実際を学ぶ。

到達目標

心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。人の成長・発達と心理との関係について説明できる。日常生活と心の健康との関係について説明できる。心理的支援の方法と実際について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 こころのしくみの理解 (1) : 心理学における主要な理論
- 第 2 回 こころのしくみの理解 (2) : 心と脳/情動・情緒
- 第 3 回 こころのしくみの理解 (3) : 欲求・動機づけと行動
- 第 4 回 こころのしくみの理解 (4) : 感覚・知覚・認知
- 第 5 回 こころのしくみの理解 (5) : 学習・記憶・思考/知能・創造性
- 第 6 回 こころのしくみの理解 (6) : 人格・性格/自己概念・自己実現
- 第 7 回 こころのしくみの理解 (7) : 集団
- 第 8 回 こころのしくみの理解 (8) : 適応/人と環境
- 第 9 回 人の成長・発達と心理 : 発達の概念
- 第10回 日常生活と心の健康 : ストレスとストレッサー
- 第11回 心理的支援の方法と実際 (1) : 心理検査の概要
- 第12回 心理的支援の方法と実際 (2) : カウンセリングの概念と範囲
- 第13回 心理的支援の方法と実際 (3) : カウンセリングとソーシャルワークとの関係
- 第14回 心理的支援の方法と実際 (4) : 心理療法の概要と実際
- 第15回 まとめ

評価方法

宿題 30% (復習課題 15%、予習課題 15%)、学期末テスト 50%、学期末レポート 20%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。

使用教材

精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー「心理学ー心理学理論と心理的支援」へるす出版

授業外学習の内容

毎回、復習課題および予習課題を宿題として課すので、授業外での学習を怠らないこと。宿題の提出は C-learning による。

備考

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士国家試験受験資格の該当科目
社会福祉学科学生に対する注意：専門導入科目「発達と老化の理解」は、心理学を同時履修中であることを前提に進めていく。また、専門関連科目「カウンセリング論」も、心理学を履修済みであることを前提として授業を進める。

文学と人間（人間理解）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

現代人の基礎教養として、日本の名作文学を朗読 CD とビデオで味わうことで、文章表現による心のコミュニケーションを図ることができる。

到達目標

視聴覚教材を活用して「文学と人間」への洞察を深めることで、歴史の諸相における人間と人間生活の理解に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 坪内逍遙『小説神髓』、二葉亭四迷『浮雲』
- 第 2 回 森鷗外『舞姫』『高瀬舟』
- 第 3 回 幸田露伴『五重塔』、樋口一葉『たけくらべ』
- 第 4 回 尾崎紅葉『金色夜叉』、徳富蘆花『不如帰』
- 第 5 回 泉鏡花『高野聖』、島崎藤村『破戒』
- 第 6 回 夏目漱石『坊っちゃん』『草枕』
- 第 7 回 伊藤左千夫『野菊の墓』、田山花袋『田舎教師』
- 第 8 回 学習の整理と展望（まとめのレポート①）
- 第 9 回 森鷗外『雁』、夏目漱石『こころ』
- 第10回 芥川龍之介『羅生門』『鼻』『杜子春』『地獄変』
- 第11回 有島武郎『或る女』、武者小路実篤『友情』
- 第12回 川端康成『伊豆の踊子』、小林多喜二『蟹工船』
- 第13回 林芙美子『放浪記』、谷崎潤一郎『春琴抄』
- 第14回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』、中島敦『山月記』
- 第15回 学習の整理と展望（まとめのレポート②）

評価方法

まとめのレポート 2 回分を各 50 点で加算し、それに授業参加度を加味して総合評価する。

使用教材

小田切進『日本の名作』（中央公論新社）定価（本体 720 円＋税）

授業外学習の内容

授業では、視聴覚教材を活用して作品の梗概を理解させ、人物相関図の板書とテキストの読解から作品鑑賞を深める。これをきっかけに、さらに各自が興味・関心を抱いて原作を読み、発展させた読書につなげること。

備考

芸術論（人間理解）

担当者

石原 綱成

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

芸術とは人間の内面の表出です。すなわち人間の心を映し出す「鏡」といっても良いでしょう。その表出されたもの、すなわち芸術作品がいかなる思想に基づいて現われたかを知ることが、人間性そのものを知ることになります。講義は、西洋近代における芸術概念の成立、そして 20 世紀における芸術概念の変容を見ることを通して、芸術の起源と役割をめぐる問題について考察します。また様々な地域の視覚芸術を比較検討することで、私たち「現代人」の芸術思想を浮き彫りにして見ましょう。

到達目標

芸術概念及び芸術に関連するさまざまな概念の成立・受容・変容という観点から、特に西洋近代以降におけるメディアとしての芸術の歴史を展望することによって、芸術論及び芸術学についての理解を深めることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 芸術の起源①ギリシャ・ローマ
- 第 3 回 芸術と宗教②ヨーロッパ中世とキリスト教
- 第 4 回 芸術論のと神々宗教芸術概観
- 第 5 回 キリスト教芸術の特色①旧約聖書と芸術
- 第 6 回 キリスト教芸術の特色②新約聖書と芸術
- 第 7 回 芸術思想をめぐる①ルネサンスの芸術思想
- 第 8 回 芸術思想をめぐる②デューラーの芸術思想
- 第 9 回 カントの芸術思想と感性学『判断力批判』概観
- 第10回 芸術観の変容と近代哲学の関係
- 第11回 仏教芸術をめぐる①仏の世界
- 第12回 仏教芸術をめぐる②極楽と地獄
- 第13回 現代芸術の美学①遠近法への懐疑
- 第14回 現代芸術の美学②中心の喪失
- 第15回 総復習と総括

評価方法

授業の参加状況と授業中のレポート、学期末試験を総合的に判断して評価する。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

- ・ 次回の授業のプリントを配布するので、専門用語等事前に予習しておくこと。
- ・ 今までの授業の理解度を確認するために小テストを行うのでよく復習しておくこと。

備考

興味・関心を持って積極的に参加して欲しい。質問は大歓迎

ボランティア・市民活動論（人間理解）

担当者

金井 敏

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

ボランティア・市民活動は、自主的な貢献活動として福祉分野に限らず環境や情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在となっている。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践することができる力を養成する。

到達目標

ボランティア・市民活動の実践例を理解するとともに、ボランティア・市民活動支援センターを活用し活動に参加し、活動ニーズを体得できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い
- 第 2 回 ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割
- 第 3 回 子どもの明日をサポートする～子ども劇場の取り組み
- 第 4 回 人々はどのようにボランティアに取り組んだか～欧米と日本の歴史
- 第 5 回 ボランティアと NPO～学生でも創れる NPO 法人～
- 第 6 回 障害スポーツ・レクリエーションのすすめ
- 第 7 回 小中高校の福祉教育・ボランティア学習はこれでいいか
- 第 8 回 バリアフリー社会と心のバリアフリー
- 第 9 回 新しい支え合いの必要性～20 年後のあなたとへ
- 第 10 回 動物は人間のパートナー～動物愛護協会の取り組み
- 第 11 回 被災地に届け！災害支援ボランティア活動
- 第 12 回 分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会（共同募金・地域通貨）
- 第 13 回 地域支えあいのボランティア～ふれあい・いきいきサロン～
- 第 14 回 地域支えあいのボランティア～民生委員・児童委員の活躍～
- 第 15 回 ボランティア・市民活動から学べたこと

評価方法

- ・学期末に課すレポートによる評価（60 点相当）
- ・ボランティア実践＝実践から得た成果など学習内容の報告書による評価（25 点相当）
- ・授業のリアクションペーパーによる評価（15 点相当）
- ・授業開講数の 2/3 以上の出席について、評価対象とする。
- ・15 分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・私語などのため授業を妨げる場合は、退出およびマイナス評価をする場合がある。

使用教材

テキストは使用しない。レジュメ・関係資料は授業にて配布する。

授業外学習の内容

- ・上記のボランティア実践に取り組むこと。
- ・次回のテーマに沿ったボランティア・市民活動について予習しておくこと。

備考

- ・ ボランティア・市民活動は，社会に関心をもつ学生が実際の社会と関わりを持つことができるとともに，自分自身の可能性にチャレンジすることができる，とても良い機会です。
- ・ ボランティア実践では，社会が求めているニーズに応えることを通じて，人々の問題を把握するとともに，その解決策を考えることもできます。このような体験は，将来の就職活動でも大いに活かすことができます。VSC を活用して参加すること。
- ・ 考えて行動する学生を目指して，一緒に学びましょう！

人権論（人間理解）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

人権ないし基本的人権は、制度的・最終的には、憲法を頂点として構築されている人権法制によって保障される。この授業では、この点に着目し、憲法に定められている諸々の人権条項を概説するほか、国際的な人権文書にも言及し、同時に、単にそれら条文の開設に留まることなく、それら法条に関連する裁判事件を取り上げながら人権感覚を磨くことにする。

到達目標

もっぱら法的な側面から人権を眺めるとともに、日常生活における種々の差別や人権侵害の問題を、実例ないし裁判事例を通して学び、人権感覚を鋭くして、社会における人権尊重とその現実化をめざす。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 基本的人権の沿革
- 第 3 回 明治憲法における人権保障
- 第 4 回 日本国憲法における人権保障
- 第 5 回 人権の主体 第 1 回小テスト
- 第 6 回 幸福追求権
- 第 7 回 法の下での平等
- 第 8 回 請願権と国家賠償法
- 第 9 回 思想及び良心の自由
- 第 10 回 信教の自由 第 2 回小テスト
- 第 11 回 表現の自由
- 第 12 回 学問の自由
- 第 13 回 両性の平等
- 第 14 回 生存権
- 第 15 回 まとめ 第 3 回小テスト

評価方法

3 回の小テストに約 70%、授業に対する貢献度等に約 30%を配分し、これらを総合して評価する

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回テーマについて然るべき予習をしておくこと。また、5 回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

この授業は、憲法に定める種々の人権条項を概観するものですが、単に条文を解説するだけでなく、それぞれの条文にまつわる裁判事件（人権裁判）を多く引用していきます。特に保育者・教育者をめざす学生諸君に有益だろうと考えます。豊かな人権間隔を養うことをめざして授業に臨んで下さい。

人間関係論（人間理解）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

「人間関係論」とはホーソン実験によって得られた発見をもとに、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その間の因果関係を体系化した理論である。当然のことながら、これらのことを講じるが、本科目においては、人間発達学部が保育者・教育者を養成する場であるということも鑑みて、子ども同士、保育者・教育者と子ども、保育者・教育者と保護者の関係についても焦点を当てる。また、子どもの相互のかかわりと関係作りなどについての理解を深めるなど、人間関係の発達の側面についても講じる。

到達目標

「人間関係論」の基礎的な知識を学ぶとともに、日常生活における人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各領域の基礎的な知見を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 「人間関係論」の成立
- 第 3 回 職場と人間関係
- 第 4 回 社会的ジレンマ
- 第 5 回 乳幼児期の人間関係（1）
- 第 6 回 乳幼児期の人間関係（2）
- 第 7 回 乳幼児期の人間関係（3）
- 第 8 回 児童期の人間関係
- 第 9 回 青年期の人間関係
- 第10回 恋愛関係論（1）
- 第11回 恋愛関係論（2）
- 第12回 保育・教育現場の人間関係
- 第13回 差別と偏見
- 第14回 日本社会における人間関係：「空気を読む」ことについて
- 第15回 まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。なお、授業を妨害し、他の受講者の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

教科書は特に指定しません。必要に応じて、資料を配付します。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。本科目では、いくつかの課題に取り組んでいただく予定ですので、授業に対する積極的な態度が望まれます。

ジェンダー論（人間理解）

担当者

前田 由美子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

性別による社会の制度化を歴史的・文化的・社会的視点からとらえ直し、その制度化のもたらした問題を人権の問題として深く理解する。

到達目標

性別に関して存在する偏った社会の慣習や考え方によって妨げられている能力の発揮や、不自由な人生選択の実態を知り、その克服の方策を考えることで、自らの人生設計と社会創造に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体の説明
- 第 2 回 ジェンダーという概念
- 第 3 回 生き物としての性とその多様性
- 第 4 回 性的指向 セクシュアリティ
- 第 5 回 性役割と性規範
- 第 6 回 性的同一性（ジェンダー・アイデンティティ）
- 第 7 回 性別と経済社会
- 第 8 回 母親と子どもの関係
- 第 9 回 父親と子どもの関係
- 第10回 労働と性別秩序
- 第11回 過労問題 ワーク・ライフ・バランス
- 第12回 男性問題
- 第13回 セクシュアル・ハラスメント
- 第14回 ドメスティック・バイオレンス
- 第15回 まとめ

評価方法

講義日ごとに、ミニレポートを提出。約 25%ずつで 4 日間。

使用教材

プリント、映像資料、文献資料など

授業外学習の内容

配布された授業内容に関連する文献資料などをよく読み、課題にそってまとめること。

備考

共生の倫理（人間理解）

担当者

瓜巢 一美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

福祉論、国際理解教育などを基礎にして、多民族、多文化共生社会を身近なところから考える。

到達目標

多文的、分断的な社会生活状況の中で、学習を通して、すべての人間が共に生まれ、育ちあい、学びあい、働きあい、暮らしていることの認識を深め、実践する共生を自覚する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 学習（研究）の方針・文献紹介・評価等について
- 第 2 回 共生の倫理 1) 共生の概念 2) 共生と倫理
- 第 3 回 多文化社会と共生の広がり
- 第 4 回 社会生活と共生の課題
- 第 5 回 都市化における多文化社会生成
- 第 6 回 都市の生活における課題（多文化社会の現状）
- 第 7 回 地域と多文化社会（事例を通して）
- 第 8 回 教育に共生
- 第 9 回 障害者との共生の倫理
- 第10回 障害者との施設生活
- 第11回 高齢者との施設生活
- 第12回 共生のあり方・必要（家族・地域・職場）
- 第13回 多民族、多文化等の共生にむけて
- 第14回 学習のふりかえり・研究のあり方
- 第15回 学習のふりかえり

評価方法

筆記試験 60%、授業への参加 10%、小レポート 30%（テストの範囲は原則として事前に口頭で伝えたい）

使用教材

参考文献を指示し、小レポートのテーマとすることもある。講義の要点をメモにし、その要点を中心にレポートする。

授業外学習の内容

前回の授業に提起された課題を学習しておくこと。図書館や現地踏査などで学習を深めておく。

備考

チーム医療アプローチ論（人間理解）

担当者

全学科担当教員

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 1 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 1 単位、健康栄養学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。

到達目標

1. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。
2. 各専門職の役割と活動について理解できる。
3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回：チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について
第 2 回：チーム医療における看護師・保健師の役割と活動
第 3 回：チーム医療における理学療法士の役割と活動
第 4 回：チーム医療における薬剤師の役割と活動
第 5 回：チーム医療における管理栄養士の役割と活動
第 6 回：チーム医療における社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の役割と活動
第 7 回：チーム医療における保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭の役割と活動
第 8 回：チーム医療における診療情報管理士の役割と活動

評価方法

評価方法：授業参加への積極性（40 点）、レポート（60 点）

- ・ レポート他職種 of 役割と活動を理解した上で、チーム医療を促進するために自分が目指す専門職としての役割と課題についてまとめる。
- ・ 各学科の単位認定者が各学科の学生のレポートを採点する。

使用教材

授業時に配布する資料

授業外学習の内容

自身が専攻する専門職の役割や活動およびチーム医療について事前に、自己学習を行うこと。

備考

健康・福祉・医療・教育のスペシャリストを目指している学生の皆さんは将来、人々の健康を維持・増進する役割を担います。各専門職が力を存分に発揮して協働して福祉・医療・教育を実践するチーム医療を推進することが求められます。他学科の学生と交流をしながら多職種の活動と役割を学習しましょう。

キーワード：専門職、チーム医療、チームアプローチ

国際医療事情（人間理解）

担当者

クリストファー・ターン、町田修三

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的として設置された科目である。特に本学学生は医療系を専攻する者が多いため、海外の医療に関する様々な事項を経験的に学ぶことに重点を置いている。具体的な内容としては、海外諸国の健康・医療教育、健康・医療の実態、医療制度、病医院や医師・コメディカル等の供給体制、病医院や医療施設の世界比較等について学ぶ。国際化を促進するため、学生には英語で日本の文化や医療の説明をしたり、医療に関する基礎的なディスカッションをしたりすることを取り入れる。また、本講義では、学生が実際に海外に赴き実体験として国際医療事情を見聞することを強く推奨する。

到達目標

- ・ 諸外国の医療教育を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療の実態を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療制度を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の病医院について学び、日本との違いを説明できる。
- ・ 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 医療の国際化とは
- 第 3 回 日本の医療教育、医療制度、医療事情
- 第 4 回 日本の医療教育、医療制度、医療事情を英語で説明してみよう
- 第 5 回 先進国（アメリカ、イギリス、ドイツ）の医療教育
- 第 6 回 先進国の医療事情 I
- 第 7 回 先進国の医療事情 II
- 第 8 回 先進国の病院
- 第 9 回 その他の先進国（北欧、カナダ、オーストラリアなど）の医療事情 I
- 第 10 回 その他の先進国の医療事情 II
- 第 11 回 中進国（台湾、シンガポール、中国など）、途上国（ベトナム、インドネシア、タイなど）の医療教育
- 第 12 回 中進国、途上国の医療事情 I
- 第 13 回 中進国、途上国の医療事情 II
- 第 14 回 学生プレゼンテーション
- 第 15 回 学生プレゼンテーションとまとめ

評価方法

最終レポート（50%）、提出物（20%）、発表、討論など授業参加度（30%）。
海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス（30%）、研修レポート（30%）、研修中のパフォーマンス（40%）

使用教材

特に指定はない。各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと。

授業外学習の内容

本講義では学生主体の研究と発表やディスカッションを多く取り入れる。毎回十分な準備をしてくること。海外研修に参加する者は、受身ではなく積極的な参加意欲を常に意識すること。

備考

Introduction to Healthcare Sciences (人間理解)

担当者

小澤瀨司、町田修三、クリストファー・ターン、村上孝、今井純、長谷川恵子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。

到達目標

- ・医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる。
- ・理解した内容について、第三者に説明できる。
- ・医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる。
- ・医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction of the course
- 第 2 回 Medical globalization and Japan's healthcare system
- 第 3 回 Healthcare system of foreign countries
- 第 4 回 U.S. healthcare in the media I
- 第 5 回 U.S. healthcare in the media II
- 第 6 回 Using Medline Plus to obtain medical information in English I
- 第 7 回 Using Medline Plus to obtain medical information in English II
- 第 8 回 Immunity and diseases I
- 第 9 回 Immunity and diseases II
- 第10 回 Immunity and diseases III
- 第11 回 Living environment and skin diseases
- 第12 回 Genes and cancer : basic understanding of the disease
- 第13 回 Mental health
- 第14 回 Mental health and social skills
- 第15 回 Summary and concluding remarks

評価方法

担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度や講義終了時に課す提出物または小レポートにより、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する。

使用教材

担当教員が授業中に配布する。

授業外学習の内容

教材は毎回次週のものをもつて配布するので、理解度を担保するためにも必ず予習しておくこと。分からない単語は調べておくこと。

備考

英語 I A (リテラシー)

担当者

岩田 道子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

平易な英語によって書かれた、厳選されたトピックを読むことで、現代社会についての議論を英文で理解するとともに、大学生に必須の語彙力を身につける。また、テキストにしたがって、簡単な問題を解きながら、自らの考えを英語で表現する方法についても学ぶ。

到達目標

大学生初級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 Chapter 1 The Youngsters Behind YouTube ①
- 第 3 回 Chapter 1 The Youngsters Behind YouTube ②
- 第 4 回 Chapter 2 When to Use Female Nouns ①
- 第 5 回 Chapter 2 When to Use Female Nouns ②
- 第 6 回 Chapter 3 Your Negative Attitude Can Hurt Your Career ①
- 第 7 回 Chapter 3 Your Negative Attitude Can Hurt Your Career ②
- 第 8 回 Review Test
- 第 9 回 Chapter 4 The Colorful World of Synesthesia ①
- 第10回 Chapter 4 The Colorful World of Synesthesia ②
- 第11回 Chapter 5 What is Creative Thinking? ①
- 第12回 Chapter 5 What is Creative Thinking? ②
- 第13回 Chapter 6 Listen Up ①
- 第14回 Chapter 6 Listen Up ②
- 第15回 Review

評価方法

授業参加度 (10%) と小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%) から総合的に評価する。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると、試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Linda Lee and Erilk Gundersen, *Select Readings Second Edition: Pre-Intermediate* (Oxford University Press, 2011)

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

英語 I B (リテラシー)

担当者

岡田 和子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

平易な英語によって書かれた、厳選されたトピックを読むことで、現代社会についての議論を英文で理解するとともに、大学生に必須の語彙力を身につける。また、テキストにしたがって、簡単な問題を解きながら、自らの考えを英語で表現する方法についても学ぶ。

到達目標

大学生初級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける

講義内容と講義計画

- 第 1 回 文法確認 (関係代名詞・関係副詞 1)
- 第 2 回 文法確認 (関係代名詞・関係副詞 2)
- 第 3 回 Burn Out (1)
- 第 4 回 Burn Out (2)
- 第 5 回 文法確認 (不定詞)
- 第 6 回 Heaven helps those help themselves (3)
- 第 7 回 Heaven helps those help themselves (4)
- 第 8 回 文法確認 (受動態)
- 第 9 回 Vital Signs (1)
- 第10回 Vital Signs (2)
- 第11回 文法確認 (間接疑問)
- 第12回 Observation (1)
- 第13回 Observation (2)
- 第14回 Other Topics
- 第15回 まとめ

評価方法

平常点 (出席状況・授業参加度・課題遂行度) と期末試験の得点を総合的に評価する。授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると、期末試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

ジム・クヌーセン (2001) 『Tender Loving Care - TLC: 介護医療の心得』南雲堂

授業外学習の内容

課題英文の音読・暗記と筆記練習

備考

うろ覚えは禁物です。

英語 I C (リテラシー)

担当者

クリストファー・ターン

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

英語をコミュニケーションの道具としてとらえ、英語によるコミュニケーション能力基礎の確立を目指す。この目的のために、まずジェスチャーや **one word English**、**one phrase English** から始めて、便利かつ最低限必要な英語表現を繰り返し練習する。複雑な文法や話法を無視してこうした練習を繰り返すことで、気楽に感じたことをそのまま口に出すくせをつけさせたい。授業は主に教員が自ら用意した教材を用いて行うが、ゲーム、ペアワーク、写真、ビデオ、音楽等を多く利用して、学生が積極的に授業に参加できるような雰囲気をつくっていききたい。発表の機会が増えると思う。学生の習熟度に応じ、講義のレベルを調整していく。

到達目標

英語による日常的なコミュニケーション能力を獲得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 インTRODクシヨン、自己紹介
- 第 2 回 ジェスチャー、ボディラングウェッジを用いてのコミュニケーション
- 第 3 回 サバイバル・イングリッシュ I (ビデオ)
- 第 4 回 サバイバル・イングリッシュ II (ゲーム)
- 第 5 回 便利な **one phrase English I** (ペアワーク、音楽)
- 第 6 回 便利な **one phrase English II** (ペアワーク、写真、ゲーム)
- 第 7 回 英語の話し方、意思の伝え方 (ゲーム)
- 第 8 回 英語と日本語のちがひ (ゲーム、ペアワーク)
- 第 9 回 外国について知ろう (地理、人々、文化) (ビデオ)
- 第10回 外国や日本について話そう
- 第11回 英語だけで1時間過ごしてみよう I (Q&A 方式)
- 第12回 英語だけで1時間過ごしてみよう II (何かを説明してみる)
- 第13回 外国人と話してみる
- 第14回 英語で何かにチャレンジしてみよう
- 第15回 まとめ

評価方法

授業参加度(10%)、小テスト/課題遂行度(30%)、試験(60%)。なお、授業回数の3分の1以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

プリントを配布する。

授業外学習の内容

教員の指示に従い、e-learning に取り組むこと。

備考

英語ⅡA（リテラシー）

担当者

アンドリュー・カズンズ

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

This class's goal is to help students to enjoy basic conversational English for travel, work etc. Lessons consist of both written and spoken exercises. I don't generally give the students homework, but I advise them to work though the extra exercises given at the back of the textbook.

到達目標

To acquire basic conversational skills in English.

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction, Unit 1 Please Call Me Beth.
- 第 2 回 Unit 2 What Do you Do?
- 第 3 回 Unit 3 How Much Is It?
- 第 4 回 Unit 4 I Really Like Hip-Hop.
- 第 5 回 Unit 5 I Come from a Big Family.
- 第 6 回 Unit 6 How Often Do You Exercise?
- 第 7 回 Unit 7 We Had a Great Time!
- 第 8 回 Unit 8 What's Your Neighborhood Like?
- 第 9 回 Unit 9 What Does She Look Like?
- 第10 回 Unit 10 Have You Ever Ridden a Camel?
- 第11 回 Unit 11 It's a Very Exciting Place!
- 第12 回 Unit 12 It Really Works!
- 第13 回 Unit 13 May I Take Your Order?
- 第14 回 Unit 14 The Biggest and the Best!
- 第15 回 Unit 15 I'm Going to a Soccer Match.

評価方法

Assessment will be via a written 60 minute exam on the 15th lesson, which is based on material students will have studied in units 1-12 of the text book.

使用教材

Jack C. Richard, *Interchange 4th Edition Level 1*, Cambridge UP.

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

英語ⅡB（リテラシー）

担当者

ベアリー・キース

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

本講義の目的は学生の英語力を総合的に向上させることとともに学生の語彙力を高めることである。また、英語の本（多読教材）を読むことによって異文化理解や学生の教養を涵養する。英語を流暢に読めるように、読む速度を高めることに主眼を置く。具体的に、英語読本の「多読」を始め、語彙学習や速読訓練やリーディング・サークルでそれらについてグループ・ディスカッションし、自らの意見や解釈を発表することが主である。

到達目標

1. 英語を読む速度が早くなる（一分間 250 語を目指す）。
2. グループ・ディスカッションし、自らの意見や解釈を発表することができる。
3. 英単語の語彙力を 200 以上増やすこと。

講義内容と講義計画

第 1 回	Reading for Speed & Fluency 1; Vocabulary Test; Oxford Reading Level Test, Moodle Orientation
第 2 回	Reading for Speed & Fluency 2; Hand in Vocabulary Test & Oxford Reading Level Test Results
第 3 回	Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 3; Book Spot 1
第 4 回	Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 4; Reading Circle #1-1
第 5 回	Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 5; Reading Circle #1-2
第 6 回	Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 6; Book Spot 2
第 7 回	Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 7; Reading Circle #2-1
第 8 回	Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 8; Reading Circle #2-2
第 9 回	Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 9; Book Spot 3
第 10 回	Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 10; Reading Circle #3-1
第 11 回	Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 11; Reading Circle #3-2; Reading list for Final Test
第 12 回	Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 12; Book Spot 4
第 13 回	Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 13; Reading Circle #4-1; Sign-up for Final Test
第 14 回	Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 14; Reading Circle #4-2; Hand in Oxford Reading Level #2; Confirm Final Test
第 15 回	Reading for Speed & Fluency 15; Final Test & Reflection Paper

評価方法

多読プログラム 40%、平常点（単語小テスト、授業活動）30%、期末テスト 20%、リフレクション・ペーパー 10%

使用教材

テキスト：*Reading for Speed & Fluency 1*, 単語帳, 配布プリント

授業外学習の内容

リーディング・サークルの活動について、事前に読んでおいて、自らのディスカッションで発表する内容を責任もって発表すること。また、英語読本を授業時間以外にも読むこと。

備考

授業に単語帳や辞書必携。講義の妨害となる私語、お喋り、途中退席等は厳禁。

英語ⅡC（リテラシー）

担当者

ジム・ヘイ

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

挨拶、ゲーム、歌、ヒヤリング、文法復習を通して英語を楽しく学ぼう。

到達目標

英語による、基礎的なコミュニケーション能力を獲得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction, rules, Greetings review
- 第 2 回 TV Reporter pair work unit
- 第 3 回 同上
- 第 4 回 be 動詞
- 第 5 回 Greetings unit
- 第 6 回 同上
- 第 7 回 He, she, it
- 第 8 回 過去形
- 第 9 回 songs, poems
- 第10回 “My Town” listening unit
- 第11回 "ing" form
- 第12回 body parts unit
- 第13回 body parts songs
- 第14回 opposites unit and games
- 第15回 “Words Game” team contest

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

プリント配布。

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

ノートをきちんととること。すべて記録し、聴き、話し、見て、覚えること。

英語ⅢA（リテラシー）

担当者

アンドリュー・カズンズ

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

This class's goal is to help students to enjoy basic conversational English for travel, work etc. Lessons consist of both written and spoken exercises. I don't generally give the students homework, but I advise them to work though the extra exercises given at the back of the textbook.

到達目標

To acquire basic conversational skills in English.

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction, Unit 1 Please Call Me Beth.
- 第 2 回 Unit 2 What Do you Do?
- 第 3 回 Unit 3 How Much Is It?
- 第 4 回 Unit 4 I Really Like Hip-Hop.
- 第 5 回 Unit 5 I Come from a Big Family.
- 第 6 回 Unit 6 How Often Do You Exercise?
- 第 7 回 Unit 7 We Had a Great Time!
- 第 8 回 Unit 8 What's Your Neighborhood Like?
- 第 9 回 Unit 9 What Does She Look Like?
- 第10 回 Unit 10 Have You Ever Ridden a Camel?
- 第11 回 Unit 11 It's a Very Exciting Place!
- 第12 回 Unit 12 It Really Works!
- 第13 回 Unit 13 May I Take Your Order?
- 第14 回 Unit 14 The Biggest and the Best!
- 第15 回 Unit 15 I'm Going to a Soccer Match.

評価方法

Assessment will be via a written 60 minute exam on the 15th lesson, which is based on material students will have studied in units 1-12 of the text book.

使用教材

Jack C. Richard, *Interchange 4th Edition Level 1*, Cambridge UP.

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

英語ⅢB（リテラシー）

担当者

ジム・ヘイ

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

挨拶、ゲーム、歌、ヒヤリング、文法復習を通して英語を楽しく学ぼう。

到達目標

英語による基礎的なコミュニケーション能力を獲得する。

講義内容と講義計画

第 1 回 Introduction, rules, Greetings review

第 2 回 TV Reporter pair work unit

第 3 回 同上

第 4 回 be 動詞

第 5 回 Greetings unit

第 6 回 同上

第 7 回 He, she, it

第 8 回 過去形

第 9 回 songs, poems

第10回 "My Town" listening unit

第11回 "ing" form

第12回 body parts unit

第13回 body parts songs

第14回 opposites unit and games

第15回 "Words Game" team contest

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

プリントを配布する。

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

ノートをきちんととること。すべて記録し、聴き、話し、見て、覚えること。

英語ⅢC（リテラシー）

担当者

ベアリー・キース

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

本講義の目的は学生の英語力を総合的に向上させることとともに学生の語彙力を高めることである。また、英語の本（多読教材）を読むことによって異文化理解や学生の教養を涵養する。英語を流暢に読めるように、読む速度を高めることに主眼を置く。具体的に、英語読本の「多読」を始め、語彙学習や速読訓練やリーディング・サークルでそれらについてグループ・ディスカッションし、自らの意見や解釈を発表することが主である。

到達目標

1. 英語を読む速度が早くなる（一分間 250 語を目指す）。
2. グループ・ディスカッションし、自らの意見や解釈を発表することができる。
3. 英単語の語彙力を 200 以上増やすこと。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Reading for Speed & Fluency 1; Vocabulary Test; Oxford Reading Level Test, Moodle Orientation
- 第 2 回 Reading for Speed & Fluency 2; Hand in Vocabulary Test & Oxford Reading Level Test Results
- 第 3 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 3; Book Spot 1
- 第 4 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 4; Reading Circle #1-1
- 第 5 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 5; Reading Circle #1-2
- 第 6 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 6; Book Spot 2
- 第 7 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 7; Reading Circle #2-1
- 第 8 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 8; Reading Circle #2-2
- 第 9 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 9; Book Spot 3
- 第10回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 10; Reading Circle #3-1
- 第11回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 11; Reading Circle #3-2; Reading list for Final Test
- 第12回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 12; Book Spot 4
- 第13回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 13; Reading Circle #4-1; Sign-up for Final Test
- 第14回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 14; Reading Circle #4-2; Hand in Oxford Reading Level #2; Confirm Final Test
- 第15回 Reading for Speed & Fluency 15; Final Test & Reflection Paper

評価方法

多読プログラム 40%、平常点（単語小テスト、授業活動）30%、期末テスト 20%、リフレクション・ペーパー 10%

使用教材

テキスト：Reading for Speed & Fluency 1, 単語帳, 配布プリント

授業外学習の内容

リーディング・サークルの活動について、事前に読んでおいて、自らのディスカッションで発表する内容を責任もって発表すること。また、英語読本を授業時間以外にも読むこと。

備考

授業に単語帳や辞書必携。講義の妨害となる私語、お喋り、途中退席等は厳禁。

英語ⅣA（リテラシー）

担当者

柳澤 順一

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、異文化理解にも役立つビデオ教材を用いて、学生の英語力（「読む」・「聞く」・「話す」能力）を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

英語による日常的コミュニケーション能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Course Introduction; Video Watching 1
- 第 2 回 E-learning Training; Video Watching 2
- 第 3 回 Chapter 1: Where Do I Get the Bus?
- 第 4 回 Chapter 2: Do You Have a Reservation, Ma'am?
- 第 5 回 Chapter 3: Could You Repeat That?
- 第 6 回 Review of Chapters 1-3; Video Watching 3
- 第 7 回 Chapter 4: I'll Take the Wrangler Convertible
- 第 8 回 Chapter 5: Would You Like Soup or Salad?
- 第 9 回 Chapter 6: Where's the Fitting Room?
- 第10回 Review of Chapters 4-6; Video Watching 4
- 第11回 Chapter 7: Would You Mind Taking My Picture?
- 第12回 Chapter 8: Good to See You!
- 第13回 Chapter 9: I Enjoyed My Stay
- 第14回 Review of Chapters 7-9; Video Watching 5
- 第15回 Completing E-learning Portfolio; Preparation for the Final Exam

評価方法

出席 10%、平常点 40%（毎回の吹き込み・ディクテーション、プリント提出など）、定期試験 50%

使用教材

Viva! San Francisco – Survival English Video, Ohyagi, H. & Kiggell, T., Macmillan Language House

授業外学習の内容

授業中にテキスト対応の動画（WMV）、音声（MP3）およびテキスト・ファイルを学生用端末に配布するので、それを保存の上、自宅または PC ルームでしっかり復習をしてください。特に予習は必要としません。

備考

英語IVB（リテラシー）

担当者

岡田 和子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

平易な英語によって書かれた、厳選されたトピックを読むことで、現代社会についての議論を英文で理解するとともに、大学生に必須の語彙力を身につける。また、テキストにしたがって、簡単な問題を解きながら、自らの考えを英語で表現する方法についても学ぶ。

到達目標

大学生初級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける

講義内容と講義計画

- 第 1 回 文法確認（関係代名詞・関係副詞 1）
- 第 2 回 文法確認（関係代名詞・関係副詞 2）
- 第 3 回 Burn Out (1)
- 第 4 回 Burn Out (2)
- 第 5 回 文法確認（不定詞）
- 第 6 回 Heaven helps those help themselves (3)
- 第 7 回 Heaven helps those help themselves (4)
- 第 8 回 文法確認（受動態）
- 第 9 回 Vital Signs (1)
- 第10回 Vital Signs (2)
- 第11回 文法確認（間接疑問）
- 第12回 Observation (1)
- 第13回 Observation (2)
- 第14回 Other Topics
- 第15回 まとめ

評価方法

平常点（出席状況・授業参加度・課題遂行度）と期末試験の得点を総合的に評価する。授業回数の3分の1以上欠席すると、期末試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

ジム・クヌーセン（2001）『Tender Loving Care - TLC: 介護医療の心得』南雲堂

授業外学習の内容

課題英文の音読・暗記と筆記練習

備考

うろ覚えは禁物です。

英語IVC（リテラシー）

担当者

飛田 ルミ

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

本講義では、平易な英語で書かれた福祉関連のテキストを読むことで、福祉に関する情報を英語で得る訓練を行う。また、テキスト中の英語表現や文法事項を習得することで、英文読解力だけでなく、受講者の英語表現力の向上も目指す。

到達目標

福祉に関する初級レベルのリーディング・スキルを獲得する。

講義内容と講義計画

第 1 回 ガイダンス Unit 1 高齢者福祉—マクロレベル的観点
第 2 回 Unit 1 高齢者福祉—マクロレベル的観点 Unit 2: 高齢者から学ぶ
第 3 回 Unit 2: 高齢者から学ぶ Unit 4: ピア・カウンセリング Listening Corner 1
第 4 回 Unit 4: ピア・カウンセリング Unit 5 子供の虐待 プレゼンテーション
第 5 回 Unit 5 子供の虐待 Unit 6 在米被爆者 プレゼンテーション
第 6 回 Unit 6 在米被爆者 プレゼンテーション
第 7 回 Listening Corner 2 Unit 7 社会的企業とは何か プレゼンテーション
第 8 回 Unit 7 社会的企業とは何か Unit 8 アルコールの功罪 プレゼンテーション
第 9 回 Unit 8 アルコールの功罪 Unit 9 アジアの社会福祉 プレゼンテーション
第10回 Unit 9 アジアの社会福祉 プレゼンテーション
第11回 Listening Corner 3 Unit 10 市町村合併 プレゼンテーション
第12回 Unit 10 市町村合併 Unit 11 遺伝子診断の光と影 プレゼンテーション
第13回 Unit 11 遺伝子診断の光と影 Unit 12 トラウマ後の成長 プレゼンテーション
第14回 Listening Corner 4 総括 プレゼンテーション
第15回 期末試験

評価方法

期末試験 60% 平常点 40% （出席率、発表課題、授業内での発言など）

使用教材

英語で学ぶ福祉と社会 English for Human Welfare Studies（朝日出版社）

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

Integrated English I (リテラシー)

担当者

クリストファー・ターン

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 1 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 1 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 1 単位

講義目標

本講義では、海外英語研修参加希望者を対象に、海外での生活における様々な場面を想定した英会話練習を行う。また、海外英語研修の事前準備についての説明も行う。但し、海外英語研修参加希望者以外も履修可。

到達目標

英語による日常会話レベルのコミュニケーション能力を獲得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 What is communication?
- 第 2 回 Cognitive Psychology: Get to know yourself
- 第 3 回 Social skills
- 第 4 回 The power of imagination and innovation
- 第 5 回 Learning to control a conversation
- 第 6 回 Listening strategies
- 第 7 回 Basic English: Self introduction and first steps for communicating in English
- 第 8 回 Creating your own English database
- 第 9 回 Meet a foreigner
- 第 10 回 Speech basics: Talking to an audience
- 第 11 回 Presentation 1 (power point)
- 第 12 回 Presentation 2 (power point)
- 第 13 回 Make your own textbook 1
- 第 14 回 Make your own textbook 2
- 第 15 回 Conclusion

評価方法

授業内パフォーマンス 90%、提出物 10%

使用教材

開講時に指示する。

授業外学習の内容

毎回プレゼンテーションをしてもらうので、準備をしたうえで授業に臨むこと。

備考

Integrated English II (リテラシー)

担当者

真下 裕子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 1 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 1 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 1 単位

講義目標

実践問題演習を通して、TOEIC テストの全貌と特徴、傾向と対策をおさえるとともに、スコアアップのための受験のストラテジーも修得する。

到達目標

TOEIC テスト 500 点以上を目指す。

講義内容と講義計画

第 1 回 Introduction (TOEIC テストの概略説明と学習法)

第 2 回 Part 1

第 3 回 Part 2

第 4 回 Part 3

第 5 回 Part 4

第 6 回 Part 5

第 7 回 Part 6

第 8 回 Part 7

第 9 回 Part 1, 2

第 10 回 Part 3, 4

第 11 回 Part 5, 6

第 12 回 Part 7

第 13 回 模擬テスト (リスニング)

第 14 回 模擬テスト (リーディング)

第 15 回 模擬テスト解答と解説

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、模擬テスト (60%)。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

開講時に指示する。

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行い、授業で学んだことの復習を徹底すること。

備考

必ず辞書とノートを持参すること。

ドイツ語（リテラシー）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

初習者がドイツ語に親しみ、講義終了後も学習を持続していくための足がかりを築く。

到達目標

ドイツ語を正確に発音し、聞き取ることができる。また、初級文法を用いて基本的な会話を行い、読み書きすることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーションー日常のなかのドイツ語と、ドイツ語のアルファベットー
- 第 2 回 Lektion1 ドイツ語の発音
- 第 3 回 ドイツ語の発音についての補足 (1)
- 第 4 回 ドイツ語の発音についての補足 (2)
- 第 5 回 Lektion2 一般動詞の人称変化 (1)
- 第 6 回 Lektion2 一般動詞の人称変化 (2)
- 第 7 回 Lektion3 sein と haben (ドイツ語の be 動詞と have) (1)
- 第 8 回 Lektion3 sein と haben (ドイツ語の be 動詞と have) (2)
- 第 9 回 Lektion4 ドイツ語の名詞には性別がある (1)
- 第10回 Lektion4 ドイツ語の名詞には性別がある (2)
- 第11回 Lektion5 助動詞を用いて表現の幅を広げる (1)
- 第12回 Lektion5 助動詞を用いて表現の幅を広げる (2)
- 第13回 夏の旅行会話
- 第14回 Lektion6 名詞の格変化 (1)
- 第15回 Lektion6 名詞の格変化 (2)

評価方法

授業への参加とその態度 (20%)、小テスト・期末テスト (80%) で評価する。

使用教材

羽根田知子・熊谷知実『ネコと学ぶドイツ語』、三修社。¥2,400

授業外学習の内容

予習は諸君の自主性に任せる。ただし、復習は必ず行うこと。

備考

特になし。

フランス語（リテラシー）

担当者

カディオオンボ・アナスタシア

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

フランス語に興味を持ってもらう

到達目標

初級文法を用いて基本的な会話を行ない、読み書きができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 アルファベットとつづり字記号、発音
- 第 2 回 リエゾンとアンシュヌマン
- 第 3 回 名詞（性）と冠詞
- 第 4 回 母音の発音
- 第 5 回 子音の発音
- 第 6 回 あいさつ表現
- 第 7 回 依頼の表現
- 第 8 回 *be* 動詞（*être*）
- 第 9 回 *have*（*avoir*）動詞
- 第 10 回 第 1 群規則動詞（*-er* 動詞）
- 第 11 回 否定文
- 第 12 回 時刻・年齢の表現
- 第 13 回 第 2 群規則動詞（*-ir* 動詞）
- 第 14 回 形容詞①
- 第 15 回 形容詞②

評価方法

筆記試験、授業参加度、ノート提出

使用教材

授業外学習の内容

時々、印刷したものを配布します

備考

ポルトガル語（リテラシー）

担当者

伊勢島セリア明美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位、

講義目標

ポルトガル語の基礎文法を習得することを目標とします。

到達目標

初歩の会話ができるようになることを到達目標とします。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Meu nome é Maria. (アルファベット、挨拶、自己紹介のしかた)
- 第 2 回 Ela não é japonesa. (出身地等を伝える表現、否定文、疑問文、前置詞 de)
- 第 3 回 Meu pai é médico. (職業等の言い方、家族、所有形容詞)
- 第 4 回 Sua mãe é alta? (形状を表す表現、形容詞①、形容詞の変化)
- 第 5 回 Quantos anos você tem? (年齢等の表現、数詞①、名詞の性と数、動詞 ter)
- 第 6 回 O Japão é mais frio que o Brasil. (比較の表現、形容詞②、定冠詞)
- 第 7 回 Você gosta de música? (好みを伝える、動詞 gostar、動詞 preferir)
- 第 8 回 Ela quer descansar. (願望の表現、不定冠詞、動詞 querer)
- 第 9 回 Meu celular está na bolsa. (存在を表す表現、動詞 estar、前置詞 em)
- 第10回 Eu vou ao banco. (行き先を伝える、動詞 ir、前置詞 a、前置詞 de)
- 第11回 Você fala português? (時間の表現、数詞②、-ar 動詞)
- 第12回 Eu corro todas os dias. (時の表現①、-er 動詞、前置詞 com)
- 第13回 Quando eles partem? (曜日、-ir 動詞、前置詞 em)
- 第14回 O que você fez ontem? (時の表現②、月の名前、完全過去形)
- 第15回 まとめ

評価方法

ミニ会話の発表 (50%)、小テスト (50%)

使用教材

プリントを配布します。

授業外学習の内容

前回授業内容に係る会話の発表を実施しますので、復習をしておいて下さい。

備考

“頭”と“心”の柔軟性をもって学習に挑んで頂ければと思います。

中国語（リテラシー）

担当者

渡邊 賢

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な構文を身に付ける。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。

到達目標

15 回という限られた時間で最も基礎的かつ不可欠な事項を習得し、その後、継続して自力学習が可能な能力を育成することを目指す。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス：授業の展開の仕方、中国およびその言語に関する概略的な説。
- 第 2 回 発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。
- 第 3 回 発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声（子音）」の唇音・舌尖音・舌根音などを学習する。
- 第 4 回 発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声（子音）」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。
- 第 5 回 発音の基礎Ⅳ：「軽声」および四声の組み合わせの学習。発音の基礎の総復習。
- 第 6 回 教科書基本編レッスン 1・レッスン 2：簡単なあいさつの学習。
- 第 7 回 教科書基本編レッスン 3・レッスン 4：名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習
- 第 8 回 教科書基本編レッスン 5・レッスン 6：指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習
- 第 9 回 教科書基本編レッスン 7・レッスン 8：中国語の主述構造（主謂構造）などについての学習。
- 第 10 回 教科書基本編レッスン 9・レッスン 10：疑問代詞、数詞などの学習。
- 第 11 回 教科書基本編レッスン 11・レッスン 12：数量や時刻を尋ねる疑問代詞などについての学習。
- 第 12 回 発音と語法の総復習Ⅰ
- 第 13 回 発音と語法の総復習Ⅱ
- 第 14 回 発音と語法の総復習Ⅲ
- 第 15 回 まとめ

評価方法

評価は、授業時毎回の小試験を 50%、学期末筆記試験の成績を 50%とする。

使用教材

小幡敏行「大学一年生のための合格る中国語」朝日出版社

授業外学習の内容

机に向かって学習するには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10 分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。また習慣的学習を身に着けたい。

備考

中国語の一語は、日本語の子音にあたる「声」と母音にあたる「韻」と、および高低のトーンである「調」とから構成され、この三者が正確に発音されなければ、相手に伝わる「コトバ」にはなり得ない。したがって授業は、最も基礎的な構文の徹底した反復学習によって中国語の発音ができる口を作ることに力点を置いて展開する。外国語の発音の習得は、困難なことでは決してないが、習慣的な学習の蓄積と、ある程度の忍耐が肝要である。履修者にはこの点を心得てほしい。

ハングル語（リテラシー）

担当者

河 正一

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

本授業は、はじめて韓国語を勉強する学生を対象にし、韓国語の文字であるハングルの正確な読み書きができることはもとより、基本文型を身に付けさせて簡単な日常会話ができることを目的とする。取り分け、初級レベルの韓国語運用能力を身につける。

到達目標

正確な発音、正確な文字表記を修得する。
韓国語の基本語彙・表現を修得する。
基本的な韓国語の 4 技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力を向上させる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 韓国語について（概論）
- 第 2 回 母音、子音
- 第 3 回 激音、濃音
- 第 4 回 パッチム
- 第 5 回 二重母音
- 第 6 回 発音の変化
- 第 7 回 私は韓アルムです。
- 第 8 回 それは何ですか。
- 第 9 回 アルムさんはお兄さんがいますか。
- 第 10 回 食堂はどこにありますか。
- 第 11 回 週末は主にどう過ごしますか。
- 第 12 回 1 時限目は何時からですか。
- 第 13 回 お姉さんと故郷へ帰ります。
- 第 14 回 韓国料理は少し辛くありませんか。
- 第 15 回 まとめ

評価方法

宿題 30%、小テスト 20%、中間・期末試験 50%

使用教材

李淑炫（2011）『チェミナ韓国語—自然に身につく会話と文法 韓国語初級テキスト』白帝社

授業外学習の内容

必ず予習・復習を行うこと。
授業では、毎回小テストを行う。
授業が始まる前に前回の宿題を提出する。

備考

質問等がある場合は hajeong007@gmail.com までに連絡すること。メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語：名前」を必ず記入すること。

コンピュータ入門 I (リテラシー)

担当者

田村 拓郎

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

本講義では、受講者が、J 検 情報活用試験の 3 級レベルの内容が理解できるようになることを目的とする。

到達目標

コンピュータが扱う数、コンピュータでのデータ表現、計算の基本となる論理演算や論理回路などを学ぶことを通じて、コンピュータの動作の本質・背景を理解することができるようになることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 情報システム、コンピュータシステムとは、コンピュータの歴史
- 第 2 回 コンピュータシステムの特徴、コンピュータの種類
- 第 3 回 情報処理の手順、フローチャート
- 第 4 回 コンピュータが扱うデータ、情報の単位、ビット、バイト、文字コード (標準コード)
- 第 5 回 数の表現 (10 進数、2 進数、8 進数、16 進数)、小数の表現
- 第 6 回 基数変換 (10 進数 \leftrightarrow 2 進数 \cdot 8 進数 \cdot 16 進数)
- 第 7 回 その他の基数変換 (2 進数 \leftrightarrow 8 進数 \cdot 16 進数、小数の基数変換)
- 第 8 回 固定小数点数と浮動小数点数
- 第 9 回 四則演算、補数 (1 の補数と 2 の補数)
- 第 10 回 負数の表現、補数による減算
- 第 11 回 論理演算 (AND, OR, NOT, EOR, NAND, NOR)、論理記号、ベン図、真理値表
- 第 12 回 論理回路、MIL 記号
- 第 13 回 加算回路、乗算回路、除算回路
- 第 14 回 コンピュータシステムの基本構成、中央処理装置の機能、データと命令
- 第 15 回 前期のまとめ

評価方法

筆記試験及び課題の提出 : 90%、授業への参加度 : 10%
詳細は講義時にアナウンスする。

使用教材

J 検 情報活用試験の 1 級~3 級レベルのテキストを使用する。

授業外学習の内容

毎回課題を出すので解いてくること

備考

J 検 (文部科学省後援) の資格取得を奨励する。講義の内容・進度は状況に応じて一部変更・省略等することがある。

コンピュータ入門Ⅱ（リテラシー）

担当者

田村 拓郎

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

本講義では、入門Ⅰに引き続き、受講者が、J 検 情報活用試験の 1 級～3 級レベルの内容が理解できるようになることを目的とする。

到達目標

コンピュータとその周辺を理解するために、受講者が、コンピュータのハードウェア及び各種の情報関連機器などに関して、基礎的な知識を身につけることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 パソコンの仕組み、入出力装置、記憶装置、演算装置、制御装置、CPU
- 第 2 回 CPU の仕組み、メモリの種類と特徴、問題演習
- 第 3 回 記憶媒体の種類と用途、磁気ディスク容量の計算、問題演習
- 第 4 回 ハードディスクの仕組みと活用、IDE、SCSI、データのバックアップ
- 第 5 回 インターフェース、バス、周辺機器との接続ポート、スロット、各種規格
- 第 6 回 ディスプレイの仕組みと種類、光の 3 原色、画像データ容量の計算
- 第 7 回 プリンタの仕組みと種類、色の 3 原色、用紙、プロッタ、イメージセッタ
- 第 8 回 各種入力装置、ポインティングデバイス、キーボード、スキャナ、OMR、OCR
- 第 9 回 ソフトウェアの種類、システムソフト、応用ソフト、OS の機能、システム開発
- 第10回 これまでのまとめと総合問題演習
- 第11回 ファイルの概念、ディレクトリ、FAT、各種データ形式、パソコンの保守管理
- 第12回 ネットワークアーキテクチャ（OSI）、ネットワークプロトコル
- 第13回 インターネット（歴史、ARPANET、TCP/IP、DNS、SMTP、POP）
- 第14回 ネットワークにおけるセキュリティ、プライバシー保護、著作権
- 第15回 後期のまとめ

評価方法

筆記試験及び課題の提出：90%、授業への参加度：10%
詳細は講義時にアナウンスする。

使用教材

自作教材を使用する。

授業外学習の内容

毎回課題を出すので解いてくること

備考

J 検（文部科学省後援）の資格取得を奨励する。講義の内容・進度は状況に応じて一部変更・省略等することがある。

コンピュータ実習 I (リテラシー)

担当者

田村 拓郎

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

情報社会の現在および未来を生きて活躍して行くために必要な情報通信技術(ICT)の基礎知識・スキルを身につける。

到達目標

- ①ワープロソフトを使った各種実践的文書の作成を通して、コンピュータやインターネットを駆使し実社会で ICT を積極的に活用できるようになる。
- ②実社会で情報通信技術 (ICT) を積極的に活用応用できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義概要および本学コンピュータシステムの使用法について
- 第 2 回 Word による基礎的文書の作成
- 第 3 回 文章の入力・変換・訂正・ファイルの保存などの基本機能について
- 第 4 回 文章の中に表を挿入した文章の作成と編集
- 第 5 回 文章の中に図形を挿入した文書の作成と編集
- 第 6 回 文章の中に画像を取り込んだ文書の作成と編集
- 第 7 回 使用テキストの例題・実習問題作成 (1)
- 第 8 回 使用テキストの例題・実習問題作成 (2)
- 第 9 回 各種実践的文書の作成 (1) : 通知書・行事案内書など
- 第10回 各種実践的文書の作成 (2) : 学校新聞・社内報など
- 第11回 各種実践的文書の作成 (3) : チラシ・広告など
- 第12回 各種実践的文書の作成 (4) : 地図など
- 第13回 オートシェイプ機能を使ったアート技法 (1) : 草花の描画
- 第14回 オートシェイプ機能を使ったアート技法 (2) : 人物の描画
- 第15回 オートシェイプ機能を使ったアート技法 (3) : 風景の描画

評価方法

授業参加度 20%、課題提出 60%、課題の出来具合 20%で評価する。
具体的評価方法は授業で説明・明示する。

使用教材

「30 時間でマスターOffice2010」(実教出版)
テキストは毎回使用するので、必ず持参すること。

授業外学習の内容

指定したテキストを事前に読んでおくこと。
演習課題の提出が遅れる場合は、授業時間外にコンピュータ室を積極的に利用すること。自宅のパソコンで仕上げても良い。

備考

コンピュータ実習Ⅱ（リテラシー）

担当者

田村 拓郎

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 選択 1 単位

講義目標

- ①情報社会の現在および未来を生きて活躍して行くために必要な情報通信技術（ICT）の基礎知識・スキルを身につける。
- ②数学的な論理的思考能力を養う。

到達目標

- ①表計算ソフトおよびプレゼンテーションソフトを使いこなすことができる。
- ②実社会において表計算、プレゼンテーションが積極的に活用応用できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Excel による表計算処理概論
- 第 2 回 表計算処理の基礎演習 (1) データ入力等
- 第 3 回 表計算処理の基礎演習 (2) 各種計算式、各種書式の変更等
- 第 4 回 表計算処理の基礎演習 (3) 関数（合計、平均、最大、最小等）
- 第 5 回 表計算処理の基礎演習 (4) 関数（条件判定、順位付け等）
- 第 6 回 各種グラフの作成 (1)
- 第 7 回 各種グラフの作成 (2)
- 第 8 回 実践的表計算処理 (1) スポーツ記録処理問題
- 第 9 回 実践的表計算処理 (2) 生産販売統計処理問題
- 第10回 実践的表計算処理 (3) 大学進学率の推移問題
- 第11回 実践的表計算処理 (4) 成績一覧表処理問題
- 第12回 PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基礎
- 第13回 PowerPoint におけるアニメーションの基礎
- 第14回 PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成（自由テーマ）
- 第15回 上記作成のプレゼンテーション

評価方法

授業参加度 20%、課題提出 60%、課題の出来具合 20%で評価する。
具体的評価方法は授業で説明・明示する。

使用教材

「30 時間でマスターOffice2010」（実教出版）
テキストは毎回使用するので必ず持参すること。

授業外学習の内容

指定したテキストを事前に読んでおくこと。
演習課題の提出が遅れる場合は、授業時間外にコンピュータ室を積極的に利用すること。自宅のパソコンで仕上げても良い。

備考

世界の社会福祉発達史（専門教養科目）

担当者

戸澤 由美恵

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

人々の生活を守るために存在する社会福祉が、その国の中でどのように発展してきたのか、各国の歴史的経緯を含めて理解する。

到達目標

各国の歴史的経緯をふまえた社会福祉の制度と現状を考えることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 アジアの社会福祉－マレーシア①その国と人々の生活を知ろう
- 第 3 回 マレーシア②福祉の歴史を学ぼう
- 第 4 回 マレーシア③現在の福祉を知ろう
- 第 5 回 西欧の社会福祉－英国①その国と人々の生活を知ろう
- 第 6 回 英国②福祉の歴史を学ぼう
- 第 7 回 英国③現在の福祉を知ろう
- 第 8 回 まとめ
- 第 9 回 北米の社会福祉－アメリカ合衆国①その国と人々の生活を知ろう
- 第10回 アメリカ合衆国②福祉の歴史を学ぼう
- 第11回 アメリカ合衆国③現在の福祉を知ろう
- 第12回 北欧の社会福祉－スウェーデン①その国と人々の生活を知ろう
- 第13回 スウェーデン②福祉の歴史を学ぼう
- 第14回 スウェーデン③現在の福祉を知ろう
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 80%、ミニ・レポートや授業参加姿勢等 20%

使用教材

テキストは使用せず、資料は適宜プリントして配布する。

授業外学習の内容

自筆ノートを作成し、毎週の内容を整理・復習すること。講義時に配布された資料に書き込みなどをしてノート又はルーズリーフに貼り付ける（1 ページに 3 枚以内）。自分で調べた資料等の貼り付けも認める。ホチキス止めは認めない。定期試験時にはこの自筆ノートのみを持ち込み可とする。

備考

国際保健医療論（専門教養科目）

担当者

望月 経子、李 孟蓉

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ国際協力の必要性和意義を理解し、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識する。保健医療分野での国際協力の理論と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得する。

到達目標

1. 国際保健医療協力の概念を理解する。
2. 保健医療分野での国際協力の必要性和意義を理解する。
3. 世界の健康問題がわかり、それらに対する国際的戦略および課題を理解する。
4. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解する。
5. 在留外国人への健康支援を考察する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 国際保健医療協力の概念
- 第 2 回 グローバル化の中での健康問題と国際保健医療協力の歴史 (1) (日本)
- 第 3 回 グローバル化の中での健康問題と国際保健医療協力の歴史 (2) (世界)
- 第 4 回 保健医療関連の国際機関の取り組みと日本における国際協力
- 第 5 回 世界の保健医療事情
- 第 6 回 異文化の理解
- 第 7 回 国際保健医療協力の実際 (1) 世界各地で活躍する保健医療関係者の活動紹介①
- 第 8 回 国際保健医療協力の実際 (1) 世界各地で活躍する保健医療関係者の活動紹介②
- 第 9 回 国際保健医療協力の実際 (2) 青年海外協力隊の活動①
- 第 10 回 国際保健医療協力の実際 (2) 青年海外協力隊の活動②
- 第 11 回 国際保健医療活動の実際 (3) 専門家の活動
- 第 12 回 国際 NGO の活動
- 第 13 回 災害援助
- 第 14 回 在日外国人と多文化共生
- 第 15 回 まとめ

評価方法

レポート (70%)、授業参加度 (30%)

使用教材

配布する資料

授業外学習の内容

授業資料は毎回使用します。授業の後にミニレポートを課します。授業を踏まえて記述してもらいますので、それまでの授業内容も復習して考えをまとめておいてください。

備考

授業の中でグループワーク/ディスカッションと発表を設けます。積極的な参加を期待しています。

世界の歴史と日本（専門教養科目）

担当者

山本 麻子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

本講座では、イギリスの諸側面をケーススタディとして扱いながら、他の国々に言及し、日本の諸側面と比較する。

到達目標

特に情報、技術、福祉等々の分野で将来活躍する者にとって大切である、物事を多角的に考え、実践することのできる能力を発展させることを目指す。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 序：歴史を学ぶ意義
- 第 2 回 現代のイギリスの動向
- 第 3 回 イギリスの教育（1）
- 第 4 回 イギリスの教育（2）
- 第 5 回 産業革命のころ（1）
- 第 6 回 産業革命のころ（2）
- 第 7 回 婦人の地位（1）
- 第 8 回 婦人の地位（2）
- 第 9 回 英語の歴史（1）
- 第10回 英語の歴史（2）
- 第11回 シェイクスピアの時代の前後（1）
- 第12回 シェイクスピアの時代の前後（2）
- 第13回 マガナカルタなど（1）
- 第14回 マガナカルタなど（2）
- 第15回 まとめ

評価方法

扱ったテーマについてのレポートを評価基準とする。また平常点も考慮する。

使用教材

教科書は指定しないが、講義に必要な資料は適宜プリントし、配布する。

授業外学習の内容

扱うテーマについて、これまで学んだことや知っていることを授業中質問するので、そのつもりで授業にのぞんでほしい。

備考

人間行動学（専門教養科目）

担当者

上原 徹、佐藤 大仁

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

学生が、行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することができる。

到達目標

学生が、医療などの対人支援において、ケアを受ける人の心理や行動を理解し、適切な対人的交流のための知識と技術、姿勢を身につけ、他職種と機能的に連携する視点を持てるようになること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 青年期の心理と性格
- 第 2 回 対人行動
- 第 3 回 集 団
- 第 4 回 異文化と自己
- 第 5 回 ヒューマンファクター——労働の心理学
- 第 6 回 きずなの発達
- 第 7 回 自己の形成と発達
- 第 8 回 現代女性のライフサイクルとライフコース
- 第 9 回 医療における人間関係
- 第10回 健 康
- 第11回 学習と学習支援
- 第12回 知 覚
- 第13回 記 憶
- 第14回 思 考
- 第15回 疲労・メンタルヘルスと現代の職場

評価方法

レポートを中心とし、授業中の態度を参考に、総合的に評価する。

使用教材

福村出版 「行動科学への招待〔改訂版〕 現代心理学のアプローチ」米谷、米澤、尾入、神藤 編著

授業外学習の内容

教科書の講義に関係する部分を読むこと。

備考

臨床の第一線で勤務している医師を分担講師として招いているので、真摯な態度で授業に臨むこと。授業中の不必要な私語は厳に慎むこと（評価に影響する）。

健康運動実技（専門教養科目）

担当者

堀 美奈子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 1 単位、社会福祉学科 2 年後期 選択 1 単位、健康栄養学科 2 年後期 選択 1 単位

講義目標

健康・体力づくりのための運動について基本的な知識を身につける。なかでも、ダンスの要素を取り入れたリズムカルな有酸素運動としてのエアロビックエクササイズを理解し、さまざまなプログラムの違いによる運動強度を体感する。

到達目標

技術の向上や美的表現をめざすものではなく、個人の技術・体力レベルに応じたプログラムを理解し、各自の目標とする運動強度の範囲内で運動ができるようになる。また安全性に関して十分に配慮できる能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス（筆記用具用意、室内シューズ着用）&実技
- 第 2 回 ストレッチ講義・実技、ボールエクササイズ講義、実技
- 第 3 回 ストレッチ講義・実技、ボールエクササイズ講義、実技
- 第 4 回 エアロビックエクササイズ講義・実技 初心者編
- 第 5 回 エアロビックエクササイズ講義・実技 初心者編
- 第 6 回 エアロビックエクササイズ講義・実技 中高齢者編
- 第 7 回 エアロビックエクササイズ講義・実技 中高齢者編
- 第 8 回 エアロビックエクササイズ講義・実技 慢性疾患者編
- 第 9 回 エアロビックエクササイズ講義・実技 慢性疾患者編
- 第10回 ダンベル・チューブ・チェアーエクスサイズ実技
- 第11回 ダンベル・チューブ・チェアーエクスサイズ実技
- 第12回 健康運動実技のまとめ
- 第13回 健康運動実技のまとめ
- 第14回 健康運動実技のまとめ
- 第15回 健康運動実技のまとめ

評価方法

授業態度・授業への参加度 80%、レポート課題 20%

使用教材

自作プリントを適宜配布する。また参考書を適宜紹介する。

授業外学習の内容

現代人の日常生活は一般的に運動不足の傾向にあることを自覚し、継続して運動を実施できるよう課外時間に大学体育施設（フィットネスルームを含む）を積極的に利用する。時間がとれない場合は、日常生活における通学、家事、労働、趣味などの生活活動の中で身体活動量を増やす。

備考

受講上の注意点：

1. トレーニングシャツ、パンツ、室内用シューズを着用すること（ジーンズや普段着での受講は不可）。

2. 実技授業をすすめる上で配慮を必要とする学生は初回のガイダンス当日までに担当教員へ申し出ること。
 3. 貴重品の管理は各自で行うこと。
- ※施設・指導者数の関係上、受講時間・人数を調整することがあります。

宗教と倫理（専門教養科目）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。

到達目標

講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 『聖書』の思想：一神教の系譜
- 第 3 回 善人とは何かー『旧約聖書』（『ヨブ記』）より（1）「応報主義」の論理
- 第 4 回 善人とは何かー『ヨブ記』より（2）生誕の災い
- 第 5 回 善人とは何かー『ヨブ記』より（3）自己の在り方を省みる
- 第 6 回 善人とは何かー『ヨブ記』より（4）現代の事例から考える
- 第 7 回 善人とは何かー『ヨブ記』より（5）「応報主義」を超えるもの
- 第 8 回 旧約から新約へ：イエスの教え
- 第 9 回 悪人とは何かー『歎異抄』より（1）『歎異抄』について
- 第10回 悪人とは何かー『歎異抄』より（2）罪の意識
- 第11回 悪人とは何かー『歎異抄』より（3）浄土思想の展開（1）
- 第12回 悪人とは何かー『歎異抄』より（4）浄土思想の展開（2）
- 第13回 悪人とは何かー『歎異抄』より（5）「悪人正機説」
- 第14回 悪人とは何かー『歎異抄』より（6）悪の不可避性とそれゆえの無力
- 第15回 総括

評価方法

授業への参加とその態度（30%）、課題・期末レポート（70%）から評価する。

使用教材

講義中に資料を配布する

授業外学習の内容

なるべく平易な表現を用いて講義を行う。特に予習は求めないが、配付された資料を読むなど復習は必ず行うこと。「宗教」は非日常的なものとして敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、私たちが日常を省みるためのもの機会を提供してくれる。自分が普段、どのような判断や行動をしているか常に考えつつ、講義に臨んでほしい。

備考

レクリエーション論（専門教養科目）

担当者

大家 千枝子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

レクリエーションという世界に関心・興味を持つ学生のための入門的な授業。

到達目標

- 1 知識・理解の観点：レクリエーションの意義、歴史、使命、仕組み、制度、現代社会の課題を確認する。またそのうえでレクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解を深める。
- 2 思考・判断の観点：楽しさを原動力としたレクリエーション事業の類別ができる。
- 3 関心・意欲の観点：自らの経験を振り返りながらレクリエーション活動に積極的に関わり、問題意識をもつことができる。
- 4 態度の観点：積極的にレクリエーション事業に取り組むことができる。
- 5 技能・表現の観点：レクリエーション事業の計画・実施・評価を考える上で必要な資料や情報を収集し、適切な方法で表現できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス、レクリエーションとは
- 第 2 回 レクリエーションの基礎理論
- 第 3 回 レクリエーションの意義
- 第 4 回 レクリエーション運動を支える制度
- 第 5 回 レクリエーション支援の理論
- 第 6 回 ライフスタイルとレクリエーション
- 第 7 回 少子高齢化社会の課題とレクリエーション
- 第 8 回 レクリエーション事業論
- 第 9 回 レクリエーション事業とは
- 第 10 回 事業計画Ⅰ 集団を介して個人にアプローチする事業の作り方 (1)
- 第 11 回 事業計画Ⅰ 集団を介して個人にアプローチする事業の作り方 (2)
- 第 12 回 事業計画Ⅱ 市民を対象とした事業の作り方 (1)
- 第 13 回 事業計画Ⅱ 市民を対象とした事業の作り方 (2)
- 第 14 回 安全管理
- 第 15 回 まとめ

評価方法

レポート課題 50%、授業態度・授業への参加度 30%、授業内での発表 20%

使用教材

自作プリントを適宜配布する。また参考書を適宜紹介する。

授業外学習の内容

授業終了時に配布する課題についてレポートを作成すること。また、日頃から新聞やニュース、地域情報などをチェックし、学外のさまざまな分野で行われているレクリエーション活動に関心・興味をもつ。また、地元や身近な地域で開催されるレクリエーション事業に積極的に参加する。

備考

授業ごとの課題の配布、提出がある。授業を欠席した学生はその週のうちに課題を研究室まで取りに来ること。
(健康福祉学部 1 号館 3 階 302) また、積極的に C-Learning を活用する授業のため、ネット環境を整えておくこと。(無理な場合は大学 PC 室を利用してください) 受講上の注意：社会福祉学科の学生で「福祉レクリエーション・ワーカー」の資格取得を希望者は必ず履修すること。

現代社会と福祉 I (専門導入科目)

担当者

安達 正嗣

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

現代社会と福祉との関係を具体的に明らかにするなかで、生活と福祉（具体的には家族、地域、社会・組織、社会構造の変容などとの関連）について解説することによって、社会福祉や福祉政策について包括的かつ体系的に明らかにする。

到達目標

現代社会のなかで、福祉や福祉政策がどのように展開してきたのか、そして今後はどのように展開していくのかを理解できる能力を身につけることができるようになる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 視点と枠組み ①社会福祉の新たな展開
- 第 2 回 視点と枠組み ②福祉政策理解の枠組み
- 第 3 回 社会の変化と福祉 ①近代社会の展開
- 第 4 回 社会の変化と福祉 ②福祉国家と現代社会
- 第 5 回 福祉と福祉政策 ①社会福祉のとらえ方
- 第 6 回 福祉と福祉政策 ②福祉政策・社会福祉士
- 第 7 回 福祉の思想と哲学 ①市場の論理と倫理
- 第 8 回 福祉の思想と哲学 ②福祉の思想の展開
- 第 9 回 社会政策と福祉政策 ①社会政策のなかの福祉政策
- 第10回 社会政策と福祉政策 ②社会政策・福祉政策の体系
- 第11回 福祉政策の発展過程 ①近代化と福祉政策
- 第12回 福祉政策の発展過程 ②戦後改革と高度経済成長期の福祉政策
- 第13回 少子高齢化時代の福祉政策 ①福祉政策の調整と進展
- 第14回 少子高齢化時代の福祉政策 ②1990 年代以降の福祉政策
- 第15回 まとめ

評価方法

小テスト（毎回、講義の開始時に前回の講義内容について数問のテストをします。遅刻しないこと。）50%
学期末テスト 50%

使用教材

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』中央法規

授業外学習の内容

毎回、授業の最初に前回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。

備考

私語は厳禁です。

現代社会と福祉Ⅱ（専門導入科目）

担当者

安達 正嗣

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

現代社会と福祉Ⅰの内容をふまえながら、社会保障制度、介護保険制度、障害者自立支援制度、介護実践に関連する諸制度などといった福祉政策や福祉制度について、包括的かつ体系的に明らかにする。

到達目標

現代社会のなかで、とくに福祉政策や福祉制度がどのように展開してきたのか、そして今後はどのように展開していくのかを理解できる能力を身につけることができるようになる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 福祉政策における必要と資源 ①必要と福祉政策
- 第 2 回 福祉政策における必要と資源 ②必要の判定と福祉政策の資源
- 第 3 回 福祉政策の理念・主体・手法 ①理念のとらえ方と資源の配分システム
- 第 4 回 福祉政策の理念・主体・手法 ②福祉政策の手法と政策決定過程・評価
- 第 5 回 福祉政策の関連領域 ①人権・保健医療・所得
- 第 6 回 福祉政策の関連領域 ②雇用・教育・住宅
- 第 7 回 社会福祉制度の体系 ①社会福祉制度の構造
- 第 8 回 社会福祉制度の体系 ②社会福祉制度と福祉サービス
- 第 9 回 福祉サービスの提供 ①福祉サービスの提供＝利用過程
- 第10回 福祉サービスと援助活動 ①運営管理部門
- 第11回 福祉サービスと援助活動 ②相談援助の原則・視点・考え方と方法
- 第12回 福祉サービスと援助活動 ③地域福祉への展開
- 第13回 福祉政策の国際比較 ①欧米の福祉政策
- 第14回 福祉政策の国際比較 ②東アジアの福祉政策
- 第15回 福祉政策の課題と展望 地域福祉と包摂的福祉政策

評価方法

小テスト（毎回、講義の開始時に前回の講義内容について数問のテストをします。遅刻しないこと。）50%
学期末テスト 50%

使用教材

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』中央法規

授業外学習の内容

毎回、授業の内容の最初に前回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。

備考

私語は厳禁です。

相談援助の基盤と専門職 I (専門導入科目)

担当者

松沼 記代

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

相談援助や介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基本的なコミュニケーションについて理解する。また、相談援助の形成過程や理念について学修する。

到達目標

相談援助の概念と範囲、理念について理解し、相談援助を活用する専門職について理解できる。また、その基盤となる人間関係やコミュニケーションについて理解できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 相談援助を基盤とする福祉専門職の役割と意義－社会福祉士・精神保健福祉士
- 第 2 回 相談援助の定義と構成要素
- 第 3 回 相談援助の理念と実践 I ①「ソーシャルワーカーと価値」
- 第 4 回 相談援助の理念と実践 I ②「人間関係の形成－自己覚知と他者理解」
- 第 5 回 相談援助の理念と実践 I ③「コミュニケーションの基礎」
- 第 6 回 相談援助の理念と実践 I ④「言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション」
- 第 7 回 相談援助の理念と実践 I ⑤「記述によるコミュニケーション」
- 第 8 回 相談援助の理念と実践 II ①「クライアント（利用者）の尊厳と自己決定」
- 第 9 回 相談援助の理念と実践 II ②「自己決定と自立を促すための支援方法」
- 第 10 回 相談援助の理念と実践 II ③「ノーマライゼーションを実現するための支援方法」
- 第 11 回 相談援助の形成過程 I ①「ソーシャルワークの源流」
- 第 12 回 相談援助の形成過程 I ②「ソーシャルワークの基礎確立期」
- 第 13 回 相談援助の形成過程 II ①「ソーシャルワークの発展期」
- 第 14 回 相談援助の形成過程 II ②「ソーシャルワークの展開期から統合化へ」
- 第 15 回 まとめ

評価方法

学期末筆記試験 (80%)、小テスト (10%)、授業参加度 (10%)

使用教材

「相談援助の基盤と専門職」／〔監修〕社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規（最新版）
教科書を中心に進めるが、資料を適時配布する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

社会福祉士国家試験指定科目および介護福祉士養成課程指定科目「人間関係とコミュニケーション」読替科目

相談援助の基盤と専門職Ⅱ（専門導入科目）

担当者

松沼 記代

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

相談援助の概念と範囲、理念について理解し、相談援助を活用する専門職について理解する。また、相談援助や介護を実践する際の理念や倫理、さらに基本的態度としてのコミュニケーション技術について学ぶ。

到達目標

- ①相談援助の概念について理解する。
- ②相談援助を基盤とする専門職について理解する。
- ③人間関係やコミュニケーションについて理解する。
- ④相談援助専門職の倫理について理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 人間の尊厳と自立
- 第 2 回 相談援助専門職の倫理と倫理的ジレンマ
- 第 3 回 総合的・包括的な相談援助の全体像
- 第 4 回 総合的・包括的な相談援助を支える理論
- 第 5 回 相談援助実践における専門職の概念と範囲
- 第 6 回 ソーシャルワークに関する諸外国の動向
- 第 7 回 エンパワメントとセルフヘルプ
- 第 8 回 権利擁護の実際の活動 各種団体の役割と実際
- 第 9 回 介護サービスと人権擁護－介護における尊厳の保持・自立支援
- 第10回 障害者サービスと人権擁護－自立支援と人権尊重の方法
- 第11回 司法分野におけるソーシャルワークの現状
- 第12回 相談援助における専門職機能 ①予防機能
- 第13回 相談援助における専門職機能 ②総合的支援機能
- 第14回 相談援助における専門職機能 ③社会資源開発機能
- 第15回 まとめ

評価方法

学期末筆記試験（80%）、小テスト（10%）、授業参加度（10%）

使用教材

相談援助の基盤と専門職／〔監修〕社会福祉養成講座編集委員会／中央法規（最新版、前期からの継続）

授業外学習の内容

次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

社会福祉士国家試験指定科目、介護福祉士養成課程指定科目

高齢者に対する支援と介護保険制度 I（専門導入科目）

担当者

原田 欣宏

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

高齢者の生活を理解するためには、高齢者に特徴的な健康に関する理解が重要である。あわせて、高齢者福祉制度の概観を理解することが、援助の実践の中で専門職が必要な支援をどのように連携して行われているか理解することにつながるため、本講義において学ぶ。

到達目標

- ① 高齢者の身体的特徴と、その介護方法について説明することができる
- ② 高齢者福祉政策の歴史について、措置から契約制度に変化した理由を説明することができる
- ③ 介護保険制度について、利用を希望する人が実際にサービス提供を受けるまでの流れを説明することができる
- ④ 介護保険制度のサービス体系について説明することができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 高齢者と社会的理解、高齢者の身体的理解 高齢者と健康—統計からみる高齢者の生活と疾病の特徴、身体的老化と疾病、障害
- 第 2 回 高齢者の精神的理解、高齢者の総合的理解① 高齢者の症状の現れかたの特徴（3 大疾病、痛み、かゆみ）
- 第 3 回 高齢者の精神的理解、高齢者の総合的理解② 高齢者の症状の現れかたの特徴（不眠、冷え、認知症、ストレス、その他）
- 第 4 回 少子高齢化社会と社会的問題
- 第 5 回 高齢者保健福祉の起源と生成
- 第 6 回 高齢者福祉保険制度の発展
- 第 7 回 高齢者保健福祉制度・施策の体系老人福祉法
- 第 8 回 高齢者の医療の確保に関する法律
- 第 9 回 高齢者虐待防止法、その他の関係法規
- 第 10 回 介護保険法の目的、理念
- 第 11 回 保険財政
- 第 12 回 介護保険の仕組み①
- 第 13 回 介護保険の仕組み②
- 第 14 回 介護保険の仕組み③
- 第 15 回 まとめ

評価方法

試験 90%、レポート 10%、授業態度も加味する

使用教材

高齢者への支援と介護保険制度（2015 年 4 月 1 日改訂版発行）みらい

授業外学習の内容

次回の授業を行う部分について教科書を読み、不明な専門用語を調べること。

備考

高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ（専門導入科目）

担当者

原田 欣宏

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

高齢者福祉の基幹的な制度である介護保険制度を、具体的に活用する方法を学ぶことで、現在起こっている高齢者の生活問題への理解を深めることができる。

到達目標

- ①実際に介護保険制度におけるサービスを利用することのメリット、デメリットを説明することができる
- ②高齢者福祉における国、都道府県、市町村の役割について説明することができる
- ③専門職の役割として、チームアプローチの実際について説明することができる
- ④社会福祉士と介護福祉士の支援の視点の違いを説明することができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 介護保険サービスの体系 ①居宅サービス
- 第 2 回 介護保険サービスの体系 ②施設サービス
- 第 3 回 介護保険サービスの体系 ③地域密着型サービス
- 第 4 回 高齢者を支援する組織と役割 ①行政機関、指定サービス事業者、国保連
- 第 5 回 高齢者を支援する組織と役割 ②地域包括支援センター
- 第 6 回 高齢者を支援する組織と役割 ③社協、ボランティア、NPO
- 第 7 回 高齢者支援の方法と実際、連携の実際
- 第 8 回 高齢者を支援する専門職の役割と実際、チームアプローチ
- 第 9 回 介護の概念や対象
- 第10回 介護過程 ①社会福祉士と介護福祉士の視点を比較
- 第11回 介護過程 ②社会福祉士と介護福祉士の視点を比較
- 第12回 介護各論 ①
- 第13回 介護各論 ②
- 第14回 介護各論 ③
- 第15回 まとめ

評価方法

試験 90%、レポート 10%、授業態度も加味する

使用教材

高齢者への支援と介護保険制度（2015 年 4 月改訂版発行）みらい

授業外学習の内容

自習の授業で行う部分について教科書を読み、不明な専門用語を調べる

備考

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度（専門導入科目）

担当者

大川 健次郎

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

- ①児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て・ひとり親家庭、児童虐待及び DV の実態を含む）について理解できるようにする。
- ②児童・家庭福祉制度の発展過程について理解できるようにする。
- ③児童の権利について理解できるようにする。
- ④相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉に関わる他の法制度について理解できるようにする。

到達目標

- ①現代社会における児童と家庭を取り巻く状況を理解し、今後の支援・制度の向かう方向性について理解できる。
- ②児童・家庭福祉制度の発展過程を理解し、現代の制度との変遷、根底に繋がる理念について理解できる。
- ③児童の権利の変遷と概念を理解し現在の児童の権利の位置づけを説明できる。
- ④児童・家庭福祉に関わる他の制度を活用し、相談援助活動に援用できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（ひとり親家庭、児童虐待及び DV、地域における子育て支援及び青少年の実態を含む）と実際
- 第 2 回 児童・家庭福祉制度の発展過程と児童の定義と権利
- 第 3 回 児童福祉法の理念と概要
- 第 4 回 児童・家庭福祉の相談機関（児童相談所の役割と実際の理解を含む）
- 第 5 回 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
- 第 6 回 児童虐待対策（児童虐待の防止等に関する法律の理解を含む）
- 第 7 回 ひとり親家庭に関する福祉（母子及び父子並びに寡婦福祉法、児童扶養手当法、売春防止法の理解を含む）
- 第 8 回 子ども・子育て新制度（保育）
- 第 9 回 ドメスティックバイオレンスへの対応（DV 法の理解を含む）
- 第10回 母子保健(母子保健法の理解を含む)
- 第11回 健全育成（少子化対策の流れ、児童手当法の理解を含む）
- 第12回 子育て支援（次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法の理解を含む）
- 第13回 障害児に関する福祉（特別児童扶養手当に関する理解を含む）
- 第14回 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際
- 第15回 以上を踏まえて家族・福祉に関する基本的知識と支援技術の学習

評価方法

筆記試験 70% 授業参加度 30%

使用教材

新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 中央法規出版

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと

備考

障害者に対する支援と障害者自立支援制度（専門導入科目）

担当者

根岸 洋人

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

障害を持つ人々の存在は太古の昔から知られている。そしてその処遇は、その時代背景とともに変化してきている。現代を生きる我々には何が必要とされ、どんな課題が積み上げられているのだろうか。本講義では障害者福祉に関する基本的事項を理解し、歴史的背景にたつ現代の問題点を学修していく。

到達目標

1. 障害のある人の暮らしを理解し、現代社会の問題点と関連づけ説明することができる
2. 障害者福祉の制度を理解し、その意義、問題点を指摘できる
3. 歴史や制度を関連づけて障害のある人の自立とその支援方法を説明できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 障害者の生活実態
- 第 3 回 障害別の視点から ①知的障害（知的障害者福祉法とその関連制度）
- 第 4 回 障害別の視点から ②身体障害（身体障害者福祉法とその関連制度）
- 第 5 回 障害別の視点から ③精神障害（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律）
- 第 6 回 障害別の視点から ④発達障害（発達障害者支援法とその関連制度）
- 第 7 回 障害者福祉制度の発展過程
- 第 8 回 障害者自立支援法
- 第 9 回 障害者基本法とその理念
- 第 10 回 障害者福祉の関連制度
- 第 11 回 障害者と地域生活（多職種間の連携、ネットワーク、連携と協働）
- 第 12 回 障害者と就労（地域移行や就労の実態を含む）
- 第 13 回 障害者と家族（家族への支援）
- 第 14 回 諸外国の障害者福祉施策
- 第 15 回 まとめ

評価方法

期末試験を実施し評価を行う。配分は以下の通りとする。

1. 授業時の C-learning による参加 10%
2. 期末試験 1（論述式） 40%
3. 期末試験 2（国家試験形式準拠） 50%

使用教材

授業中に指示する

授業外学習の内容

次回の授業内容を確認し、疑問点を整理しておくこと

備考

人体の構造と機能及び疾病（専門導入科目）

担当者

上原 徹

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

学生が、人体の構造と機能について理解する。人の成長と発達、心身の構造と機能、主な疾病や障害の概要、リハビリテーションや ICF、健康の概念、DSM-5、障害者総合支援法等の改正など、社会福祉士として必要な医学知識を学ぶ。

到達目標

学生が、重要な疾患や治療について記述できること。国家試験の問題を 8 割以上解けること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 身体の成長と発達
- 第 2 回 精神の成長と発達
- 第 3 回 老化
- 第 4 回 人体部位の名称
- 第 5 回 器官系別にみた構造と機能 1
- 第 6 回 器官系別にみた構造と機能 2
- 第 7 回 疾病の概要
- 第 8 回 障がいの概要
- 第 9 回 病気の症状や分類
- 第10 回 病気の診断と治療
- 第11 回 リハビリテーションの概要
- 第12 回 国際生活機能分類
- 第13 回 健康のとらえ方
- 第14 回 過去問題を通しての復習
- 第15 回 まとめ

評価方法

国家試験形式に準じた筆記試験を行うが、授業態度も参考にする。

使用教材

新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 第 3 版 中央法規

授業外学習の内容

予習は、講義担当部分をノートにまとめること。復習を徹底すること。

備考

授業中の不必要な私語は厳に慎むこと（厳しく評価に影響する）。

社会調査の基礎（専門導入科目）

担当者

安達 正嗣

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

社会調査の基本的な知識や技法について解説することによって、現代の社会福祉の業務における社会調査の大きな意義を理解する。

到達目標

社会福祉分野の現場において、社会調査の基本的な用語や概念を理解したうえで量的・質的調査を使えて、数学的・論理的思考のできる能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 社会福祉と社会調査 ①実践としての社会福祉
- 第 2 回 社会福祉と社会調査 ②社会福祉と社会調査
- 第 3 回 社会調査の概要 ①意義と目的・対象と方法
- 第 4 回 社会調査の概要 ②社会調査と統計法
- 第 5 回 量的調査の方法 ①特徴と種類
- 第 6 回 量的調査の方法 ②調査票の作成・配布・回収
- 第 7 回 量的調査の方法 ③データ分析
- 第 8 回 質的調査の方法 ①特徴と種類・調査設計
- 第 9 回 質的調査の方法 ②調査手法・調査の実際
- 第10回 質的調査の方法 ③データ分析・発表・報告
- 第11回 社会調査における倫理と個人情報保護倫理的配慮・情報の管理
- 第12回 社会調査の実施にあたっての IT の活用方法 ①データの集積
- 第13回 社会調査の実施にあたっての IT の活用方法 ②さまざまな IT の活用と方法
- 第14回 社会科学としての社会福祉 社会調査の科学的展開
- 第15回 まとめ

評価方法

小テスト（毎回、講義の開始時に前回の講義内容について数問のテストをします。遅刻しないこと。） 50%
学期末テスト 50%

使用教材

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会調査の基礎』中央法規

授業外学習の内容

前回、授業の最初に前回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。

備考

私語は厳禁です。

認知症の理解（専門導入科目）

担当者

松沼 記代

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

福祉サービスに従事する者として、近年増加する認知症の方の症状に関する基礎的知識やケアの方法について理解し、実践での対応及び指導方法を修得する。

到達目標

実習やボランティア時に適切に認知症の人々のケアを行うことができるとともに、将来社会福祉士や介護福祉士として働くときに、総合的に認知症高齢者の支援を実践できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
- 第 2 回 認知症の要因
- 第 3 回 認知症の症状と経過
- 第 4 回 認知症ケアの基本 ①－記憶障害へのアプローチ
- 第 5 回 認知症ケアの基本 ②－見当識障害へのアプローチ
- 第 6 回 症状別ケアの方法 ①－幻覚・妄想への対応
- 第 7 回 症状別ケアの方法 ②－徘徊・不潔行為への対応
- 第 8 回 脳血管性認知症ケアの原則
- 第 9 回 周辺症状の評価尺度とアセスメント
- 第10回 施設サービスにおける援助とケア
- 第11回 在宅サービスにおける援助とケア
- 第12回 家族への支援
- 第13回 認知症を取り巻く状況－ケアの歴史と現状
- 第14回 認知症の予防と対策－連携と協働
- 第15回 まとめと期末テスト

評価方法

期末筆記試験（80%）、レポート（10%）、授業参加度（10%）

使用教材

「認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント第 2 版」／山口晴保・佐土根朗・松沼記代・山上徹也／協同医書出版社／2010 年／3300 円

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

介護福祉士養成課程指定科目

障害の理解（専門導入科目）

担当者

大塚 光彦

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

- ①障がい（身体・知的・精神）について
WHO・UN の定義、日本における定義及び基本法等基本的な基礎知識を修得する。
- ②障がいの受容について
「中途障がい」「先天性障がい」について理解する。
- ③ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン等の現状と課題について
- ④障がいについて
障がいを医学的・心理的・社会的側面から理解する。

到達目標

- ①多面的、総合的に障がいを理解し、3 障がいの特徴を説明出来る。
- ②「ゲストスピーカー」の講義内容を十分に理解し、障がいについて総合的に説明できる。
- ③「ゲスト講義」の時には、積極的に質疑することにより、障がいについて統合的にレポートを書くことが出来る。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 障害の基礎的理解・障がいの概念・定義について
- 第 2 回 「障がいの概要（障がいの種類及び四肢の名称）」について
- 第 3 回 「障がいとは…」 「障がい者とは…」 違いについて
- 第 4 回 障がいの心理的側面と医学的な基礎知識：①脳性麻痺について（種類・原因・特性）
- 第 5 回 障がいの心理的側面と医学的な基礎知識：②脊髄損傷について（種類・原因・特性）
- 第 6 回 障がいの心理的側面と医学的な基礎知識：③先天性障がい、後天性障がいについて
- 第 7 回 障がいの心理的側面と医学的な基礎知識：④催奇形性について
- 第 8 回 機能の変化と日常生活への影響：⑩義肢・装具について
- 第 9 回 障がいの心理的側面と医学的な基礎知識：⑤切断・離断について
- 第10回 障がいの心理的側面と医学的な基礎知識：⑥視覚障がいについて
- 第11回 障がいの心理的側面と医学的な基礎知識：⑦聴覚障がいについて
- 第12回 障がいの心理的側面と医学的な基礎知識：⑧知的障がいについて
- 第13回 障がいの心理的側面と医学的な基礎知識：⑨精神障がいについて
- 第14回 車椅子の種類・障がい者スポーツへの繋がりへ
- 第15回 ゲスト講義及び車椅子バスケットボール実技

評価方法

- ①全ての講義に対するミニレポート②ゲスト講師への感想レポート③「障がいの理解」についてのレポートによって評価する。

使用教材

公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 障がい者指導教本初級・中級

授業外学習の内容

県内または地域で開催している障がい者を対象としたスポーツ・レクリエーション等のイベントに積極的に参

加することにより実体験として障がいを理解し、レポートをまとめること。「障がいとは」がテーマ

備考

発達と老化の理解（専門導入科目）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

心理・身体的機能の発達に伴う変化と、それを踏まえた援助に必要な基礎的知識を修得する。
とりわけ、発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得することを目指す。

【授業全体の内容の概要】

人間の成長と発達について基礎的な理解を図ったうえで、老年期の発達と成熟、老化に伴う心と身体の変化と日常生活について学ぶ。

到達目標

主要な発達理論について説明できる。生涯発達および各発達段階の概要と課題を説明できる。老化が及ぼす心理的影響について説明できる。高齢者の心理への対応を説明できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 人間の成長と発達の基礎的理解 (1) 発達の概念と主要な理論
- 第 2 回 人間の成長と発達の基礎的理解 (2) 生涯発達
- 第 3 回 人間の成長と発達の基礎的理解 (3) 発達段階と発達課題
- 第 4 回 人間の成長と発達の基礎的理解 (4) 胎児期・乳児期の発達
- 第 5 回 人間の成長と発達の基礎的理解 (5) 幼児期の発達
- 第 6 回 人間の成長と発達の基礎的理解 (6) 児童期の発達
- 第 7 回 人間の成長と発達の基礎的理解 (7) 青年期の発達
- 第 8 回 人間の成長と発達の基礎的理解 (8) 成人期の発達
- 第 9 回 老年期の発達と成熟 (1) 老年期の定義
- 第10回 老年期の発達と成熟 (2) 老年期の発達課題
- 第11回 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 (1) 老化に伴う心身の変化の特徴
- 第12回 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
- 第13回 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 (3) 高齢者の心理 (1) 記憶・知能
- 第14回 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 (4) 高齢者の心理 (2) パーソナリティと適応
- 第15回 高齢者の医療制度および保健医療職との連携

評価方法

毎回の宿題 30%（復習課題 15%、予習課題 15%）、学期中 3 回のレポート 30%、学期末テスト 40%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テストの得点に関わらず単位を付与しない。

使用教材

新・介護福祉士養成講座「発達と老化の理解」第 3 版 中央法規出版

授業外学習の内容

毎回、復習課題、予習課題および小レポートを宿題として課すので、授業外での学習を怠らないこと。宿題の提出は C-learning による。

備考

心理学を同時履修中であることを前提に授業を進める

精神疾患とその治療 I（専門導入科目）

担当者

上原 徹

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

学生が、医療専門職である精神保健福祉士（看護師、理学療法士）として必要となる、精神医学に関する基本的な知識を身につける。精神医療全般についての初級知識を習得し、その視点を生かした援助方法とは何かを、自ら考えるきっかけをつかむこと

到達目標

学生が、精神疾患や心理社会的問題の概要を理解すること。学生が、こころの健康を保つための基本に触れ、それを援助するために必要な知識を整理すること。精神医療の導入・入門編として、支援者を目指すうえで知っておくべき事項を、わかりやすいテキストを通して学習する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 精神医学や精神医療のイントロダクション
- 第 2 回 他者を理解するための基本
- 第 3 回 家族と地域に関する事柄
- 第 4 回 支援者になるためのヒント
- 第 5 回 精神の苦しみや病気は何をもたらすか
- 第 6 回 統合失調症とは？
- 第 7 回 うつ病や躁うつ病とは？
- 第 8 回 認知症とは？
- 第 9 回 アルコールや物質依存とは？
- 第10回 神経症とは？
- 第11回 児童青年期の病とは？
- 第12回 支援に役立つテクニックやスキル
- 第13回 精神保健福祉関係機関について
- 第14回 精神科の治療法について
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験をもとに評価を行うが、授業態度も参考にする。

使用教材

援助者必携 はじめての精神科（第 2 版） 著：春日 武彦 医学書院

授業外学習の内容

特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。

備考

授業中の不必要な私語は厳に慎むこと（厳しく評価に影響する）。精神保健福祉士希望者は必修である。複数の学科学生が合同で受講するので、騒いだりせず、真摯な態度で臨むこと。

精神保健の課題と支援 I (専門導入科目)

担当者

中島 基彰

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

学生が、人のこころの健康（メンタルヘルス）を保つための基本に触れ、援助に必要な知識を整理する。精神保健福祉士として必要な精神医学や精神医療に関する基本的な知識を身につける。ちなみに、「精神保健の課題と支援 II」や「精神疾患とその治療 II」の基盤となる内容である。

到達目標

学生が、精神疾患や心理社会的問題の概要を包括的に理解すること。精神保健や精神医療全般についての総論的な知識を習得すること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 精神保健（メンタルヘルス）の意義と動向
- 第 2 回 精神保健の概要と課題
- 第 3 回 精神の健康とその要因
- 第 4 回 精神の健康への関与と支援
- 第 5 回 精神保健の視点からみた家族や学校の課題とアプローチ
- 第 6 回 精神科医療機関の治療構造及び専門病棟
- 第 7 回 疾病構造の変化、外来診療、在宅医療（訪問診療）
- 第 8 回 入院医療、入院形態、医療観察法対象者の支援
- 第 9 回 人権擁護・インフォームドコンセント、隔離拘束のあり方
- 第10回 精神科救急医療システムとその対象、移送制度による入院
- 第11回 諸外国の精神保健活動の現状および対策
- 第12回 精神保健の視点からみた現代社会や勤労者の課題とアプローチ
- 第13回 地域精神保健に関する諸活動（退院促進、地域定着、包括リハビリテーション）
- 第14回 精神保健福祉士の役割
- 第15回 まとめ

評価方法

レポートを中心に評価するが、授業態度も参考にする

使用教材

新・精神保健福祉士養成講座 「精神保健の課題と支援」中央法規出版

授業外学習の内容

特に関心のある領域については自習を進める。

備考

授業中の不必要な私語は厳に慎むこと（厳しく評価に影響する）。なお 2 年次に開講される II は、より精神保健関連のテーマを絞った専門的な内容になるので、本講義を履修しておくこと。

福祉基礎実習（専門導入科目）

担当者

石坂公俊、長谷川恵子、堀口美奈子、高林亜希子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

保健福祉分野の制度やサービスに関する考え方や理念、援助方法など専門的な学修を深めるには、実際の現場体験が重要である。この福祉基礎実習では、保健福祉分野に関する体験を通じて基礎的な学修を深める。なお、基礎実習を履修することにより、3 年次から始まる専門実習を履修することができる。

到達目標

保健福祉分野における援助対象者やサービス利用者、施設、機関、団体の種別、ソーシャルワーカーやケアワーカーなどの職種について、理解できる。

講義内容と講義計画

1. 実習指導 8 日（全体会・グループ）

（1）全体学習

- 基礎実習全体のガイダンス
- 福祉現場におけるマナー
- 実習先の概要
- 報告会

（2）グループ学習

- 実習計画書の作成
- 実習報告書の作成、振り返り

2. 現場実習 3 日または、24 時間以上

保健福祉分野の現場において、介護や保育、利用者支援などを実習する。

評価方法

出欠席、レポート、学習態度、現場実習の記録、実習先評価などを総合して評価する。

使用教材

適宜、指示、配布する。

授業外学習の内容

今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

福祉基礎演習（専門基幹科目）

担当者

社会福祉基礎演習担当

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

専門科目の履修に必要な基礎的能力を身につける。

到達目標

大学生としての基礎的学習スキルを身につけるとともに、福祉マインドの育成を目指し、4 年間にわたる専門的学習の素地を形成する。具体的には読む・書く・話す・調べる・発表する・調べる・議論する・まとめる力を身につけることができる。

講義内容と講義計画

コミュニケーション力を高め、専門職として必要となるの応力、態度、知識についてその基礎部分を学ぶ。今日の福祉の発展に貢献した、国内外の偉人を取り上げ、その生涯や価値観を主体的に学ぶことを通じて福祉に対する関心を深め、動機づけを図る。

評価方法

コミュニケーション力を高め、専門職として必要となるの応力、態度、知識についてその基礎部分を学ぶ。今日の福祉の発展に貢献した、国内外の偉人を取り上げ、その生涯や価値観を主体的に学ぶことを通じて福祉に対する関心を深め、動機づけを図る。

使用教材

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

相談援助演習 I (専門基幹科目)

担当者

戸澤由美恵、根岸洋人、永田理香、大川健次郎、石坂公俊、大口達也

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

人間には様々な価値観が存在することを確認し、自分と他人の違いを認め、理解し、受け容れることの重要性を学ぶ。そして、援助を必要とする対象の理解を深め、社会福祉士や介護福祉士にとって援助実践の基礎となる考え方とコミュニケーションのあり方を理解する。

到達目標

間にはさまざまな価値観が存在することを知り、専門職としての価値と倫理を理解する。そして、援助者として多様な利用者・家族とのコミュニケーション方法、面接技法を選択・実践できるようになる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 自己理解・自己覚知 ①
- 第 3 回 自己理解・自己覚知 ②
- 第 4 回 他者理解
- 第 5 回 価値と倫理 ①
- 第 6 回 価値と倫理 ②
- 第 7 回 利用者理解 ①
- 第 8 回 利用者理解 ②
- 第 9 回 利用者理解 ③
- 第10回 集団援助の技法
- 第11回 基本的なコミュニケーション技術 ① (介護におけるコミュニケーションの基本含む)
- 第12回 基本的なコミュニケーション技術 ② (介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション含む)
- 第13回 基本的なコミュニケーション技術 ③
- 第14回 基本的な面接技術 ①
- 第15回 基本的な面接技術 ②

評価方法

演習への参加姿勢と貢献度、ワークシートの記載内容、提出物等で総合的に評価する

使用教材

『ソーシャルワーク演習ワークブック』ソーシャルワーク演習教材開発研究会編 (株) 未来

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと

備考

相談援助演習Ⅱ（専門基幹科目）

担当者

金井敏、戸澤由美恵、根岸洋人、永田理香、大川健次郎、石坂公俊、大口達也

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

今日、様々な人々が援助を必要としている。社会福祉士や介護福祉士として利用者や家族と共に考えよりよい解決の方法を求める姿勢を身につけ、援助実践に必要な基礎的援助技術を修得する。

到達目標

利用者の援助に必要な社会福祉の専門知識や技術を修得し、主体的に相談援助実習に活用できるようになる。また、記録を基にチームのコミュニケーションと情報の共有化が理解できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 インテーク ①
- 第 3 回 インテーク ②
- 第 4 回 アセスメント ①
- 第 5 回 アセスメント ②
- 第 6 回 プランニング ①
- 第 7 回 プランニング ②
- 第 8 回 支援の実施 ①（介護におけるチームのコミュニケーション含む）
- 第 9 回 支援の実施 ②
- 第 10 回 モニタリング ①
- 第 11 回 モニタリング ②
- 第 12 回 効果測定 ①
- 第 13 回 効果測定 ②
- 第 14 回 終結とアフターケア ①
- 第 15 回 終結とアフターケア ②

評価方法

演習への参加姿勢と貢献度、ワークシートの記載内容、提出物等で総合的に評価する

使用教材

『ソーシャルワーク演習ワークブック』（株）みらい 1 年次購入のものを継続使用する予定

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと

備考

相談援助演習Ⅲ（専門基幹科目）

担当者

金井敏、戸澤由美恵、根岸洋人、永田理香、大川健次郎、石坂公俊、大口達也

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

今日、様々な人々が援助を必要としている。社会福祉士として利用者や家族と共に考えよりよい解決の方法を求める姿勢を身につけ、援助実践に必要な基礎的援助技術を修得する。

到達目標

利用者の援助に必要な社会福祉の専門知識や技術を修得し、主体的に相談援助実習に活用できるようになる。また、社会資源や地域社会への働きかけの重要性が理解できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 地域支援の技法（住民に対するアウトリーチとニーズ把握） ①
- 第 2 回 地域支援の技法（住民に対するアウトリーチとニーズ把握） ②
- 第 3 回 地域支援の技法（住民に対するアウトリーチとニーズ把握） ③
- 第 4 回 地域支援の技法（地域福祉の計画） ①
- 第 5 回 地域支援の技法（地域福祉の計画） ②
- 第 6 回 地域支援の技法（地域福祉の計画） ③
- 第 7 回 地域支援の技法（ネットワーキング） ①
- 第 8 回 地域支援の技法（ネットワーキング） ②
- 第 9 回 地域支援の技法（ネットワーキング） ③
- 第10回 地域支援の技法（社会資源の活用・調整・開発） ①
- 第11回 地域支援の技法（社会資源の活用・調整・開発） ②
- 第12回 地域支援の技法（社会資源の活用・調整・開発） ③
- 第13回 地域支援の技法（サービスの評価） ①
- 第14回 地域支援の技法（サービスの評価） ②
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への出席、演習への参加姿勢と貢献度、ワークシートの記載内容、提出物等で総合的に評価する

使用教材

『ソーシャルワーク演習ワークブック』（株）みらい 1 年次購入のものを継続使用する予定

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと

備考

総合演習 I (専門基幹科目)

担当者

社会福祉学科教員

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

これまでの学修の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学修、知識の獲得を目的とする。

到達目標

これまでの学修の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学修、知識の獲得を目的とする。

講義内容と講義計画

1. オリエンテーション
2. 各ゼミにおけるテーマ設定
3. テーマに沿った研究および実践

評価方法

各ゼミによる

使用教材

授業外学習の内容

次回の授業内容の範囲を予習して、専門用語の意味を調べ理解すること。また、普段より新聞、専門雑誌などを通して授業で取り扱う関連情報を整理すること。

備考

総合演習Ⅱ（専門基幹科目）

担当者

社会福祉学科教員

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年後期 必修 1 単位

講義目標

社会福祉従事者として必要となる研究方法や問題解決能力を培い、専門職としての自覚を育てる。

到達目標

講義内容と講義計画

1. 研究方法、実践に関する指導
2. 研究のまとめ、実践の文章化、プレゼン

評価方法

各ゼミによる。

使用教材

授業外学習の内容

次回の授業内容の範囲を予習して、専門用語の意味を調べ理解すること。また、普段より新聞、専門雑誌などを通して授業で取り扱う関連情報を整理すること。

備考

総合演習Ⅲ（専門基幹科目）

担当者

社会福祉学科教員

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 4 年前期 必修 1 単位

講義目標

これまでの学修の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学修を行うことで社会福祉従事者として問題解決能力の実践方法を理解する。知識の獲得を目的とする。

到達目標

これまでの学修の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学修、知識の獲得を目的とする。

講義内容と講義計画

1. オリエンテーション
2. 各ゼミにおけるテーマ設定
3. テーマに沿った研究および実践

評価方法

評価方法 各ゼミによる

使用教材

授業外学習の内容

次回の授業内容の範囲を予習して、専門用語の意味を調べ理解すること。また、普段より新聞、専門雑誌などを通して授業で取り扱う関連情報を整理すること。

備考

総合演習Ⅳ（専門基幹科目）

担当者

社会福祉学科教員

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 4 年後期 必修 1 単位

講義目標

これまでの学修の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、社会福祉従事者として問題解決の実践に取り組むことができる。

到達目標

これまでの学修の成果を深めていくために、専門分野における演習を実施し、より専門的な学修、知識の獲得を目的とする。

講義内容と講義計画

1. オリエンテーション
2. 各ゼミにおけるテーマ設定
3. テーマに沿った研究および実践

評価方法

評価方法 各ゼミによる

使用教材

授業外学習の内容

次回の授業内容の範囲を予習して、専門用語の意味を調べ理解すること。また、普段より新聞、専門雑誌などを通して授業で取り扱う関連情報を整理すること。

備考

総合演習Ⅴ（専門基幹科目）

担当者

社会福祉学科教員

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 4 年前期 必修 1 単位

講義目標

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、社会福祉主事に関する 4 年間の知識と技術の応用力を修得する。

到達目標

社会福祉の現状を認識し、福祉の各分野の福祉活動を進める上で、必要な知識を総合化して、実践に活かせるようにいくことを目標とする。

講義内容と講義計画

初回にオリエンテーションを行い、前期の進め方について説明する。前期においては社会福祉学科で、卒業と同時に取得できる社会福祉主事の知識のまとめを行い、職場での応用力を養成する。また、受験資格としての社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の場合はそれらの知識とまとめを行い、職場での応用力を養成する。

評価方法

試験成績等で評価する。

使用教材

授業外学習の内容

次回の授業内容の範囲を予習して、専門用語の意味を調べ理解すること。また、普段より新聞、専門雑誌などを通して授業で取り扱う関連情報を整理すること。

備考

総合演習Ⅵ（専門基幹科目）

担当者

社会福祉学科教員

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 4 年後期 必修 1 単位

講義目標

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、社会福祉主事に関する 4 年間の集大成として社会福祉の知識と技術の実践力を修得する。

到達目標

社会福祉の現状を認識し、福祉の各分野の福祉活動を進める上で、必要な知識を総合化して、実践に活かせるようにいくことを目標とする。

講義内容と講義計画

初回にオリエンテーションを行い、後期の進め方について説明する。後期においては社会福祉学科で、卒業と同時に取得できる社会福祉主事の事例に基づく実践力を養成する。また、受験資格としての社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の場合はそれらの多様な事例を学び、実践力を養成する

評価方法

試験の成績で評価を行う。

使用教材

授業外学習の内容

次回の授業内容の範囲を予習して、専門用語の意味を調べ理解すること。また、普段より新聞、専門雑誌などを通して授業で取り扱う関連情報を整理すること。

備考

社会保障 I (専門展開科目)

担当者

小出 省司

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

社会福祉士・精神保健福祉士等社会福祉関係の業務を遂行するために必要な社会保障に関する知識の修得を図る。

到達目標

社会福祉の援助等が円滑に遂行できるよう社会保障制度全般と具体的事例を参考にして身につけていく。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 社会保障と税の一体改革
- 第 3 回 第 1 章 現代社会と社会保障
- 第 4 回 第 2 章 社会保障の歴史
- 第 5 回 第 3 章 社会保障の構造
- 第 6 回 第 4 章 社会保障の財源と費用
- 第 7 回 第 5 章 年金保険制度 ①沿革と概要
- 第 8 回 " ②国民年金制度と厚生年金制度
- 第 9 回 第 6 章 医療保険制度 ①沿革と概要
- 第 10 回 " ②健康保険や国民健康保険
- 第 11 回 " ③国民医療費をめぐる動向
- 第 12 回 第 7 章 介護保険制度 ①経緯と概要
- 第 13 回 " ②介護保険制度をめぐる動向
- 第 14 回 第 8 章 労働保険制度等
- 第 15 回 前期のまとめ

評価方法

レポート (80%) 毎回授業での小テストや簡易レポート (20%)

使用教材

「新・社会福祉士養成講座 12 社会保障第 3 版」中央法規出版

授業外学習の内容

- 1 指定した教科書を事前に読んでおくこと。
- 2 毎回授業において前回の復習を実施する。(小テスト等)
- 3 次回の授業簡易を予習し、特に専門用語の意味、法律の条文等を理解しておくこと。

備考

社会保障Ⅱ（専門展開科目）

担当者

小出 省司

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

社会福祉士・精神保健福祉士等社会福祉関係の業務を遂行するために必要な社会保障に関する知識の修得を図る。

到達目標

社会保障の援助等が円滑に遂行できるよう社会保障制度全般と具体的事例を参考にして身につけていく。

講義内容と講義計画

第 1 回 第 9 章 社会福祉制度の沿革と概要
第 2 回 " ②生活保護制度（公的扶助）A
第 3 回 " ③生活保護制度（公的扶助）B
第 4 回 " ④児童福祉 A
第 5 回 " ⑤児童福祉 B
第 6 回 " ⑥障害者福祉 A
第 7 回 " ⑦障害者福祉 B
第 8 回 " ⑧高齢者福祉 A
第 9 回 " ⑨高齢者福祉 B
第10 回 " ⑩保健・医療・福祉の連携
第11 回 " ⑪社会手当制度
第12 回 第 10 章 社会保障と民間保険
第13 回 第 11 章 社会保障が当面する課題
第14 回 第 12 章 諸外国の社会保障制度
第15 回 まとめ

評価方法

レポート（80%） 毎回授業での小テストや簡易レポート（20%）

使用教材

1「新・社会福祉士養成講座 12 社会保障第 3 版」中央法規出版

授業外学習の内容

1 指定した教科書を事前に読んでおくこと。2 毎回授業において次回の復習を実施する。（小テスト等）
3 次回の授業範囲を予習し、特に専門用語の意味、法律の条文等理解しておくこと。

備考

地域福祉の理論と方法 I (専門展開科目)

担当者

金井 敏

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

地域福祉の考え方として、個人の尊厳、権利擁護、地域自立支援、ソーシャルインクルージョンを学ぶとともに、地域福祉の専門職や組織・団体の役割を学び、これらを説明できるようになることを目的とする。

到達目標

域福祉の基本的考え方、主体と対象、地域福祉に関する組織・団体・専門職・地域住民の役割を説明できる。国家資格に必要な知識を 修得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 社会の変化と地域福祉の課題
- 第 2 回 地域における多様な福祉課題への対応
- 第 3 回 地域福祉の理念
- 第 4 回 地域福祉の概念
- 第 5 回 地域福祉における参加の意義
- 第 6 回 地域福祉における積極的接近の意義
- 第 7 回 社会福祉の基盤整備と地域福祉の歴史～戦前
- 第 8 回 社会福祉の基盤整備と地域福祉の歴史～戦後
- 第 9 回 社会福祉の再編と地域福祉
- 第10回 イギリスにおけるコミュニティケア 海外の地域福祉
- 第11回 地域福祉の主体
- 第12回 地域福祉の対象
- 第13回 地域福祉の方法論
- 第14回 これからの地域福祉のあり方
- 第15回 前期のまとめ

評価方法

筆記試験 70%，毎回の授業時に課す小テストまたはレポートおよび授業態度等 30%

使用教材

『新・社会福祉養成講座 9 地域福祉の理論と方法』中央法規出版，2015 年

授業外学習の内容

- ・自分の住んでいる地域の現状を把握すること。
- ・授業前にテキストを中心に該当項目を予習しておくこと。
- ・授業内容の確認のため翌週に小テストを実行するので復習すること。

備考

この科目は現実に地域で起きているさまざまな問題や課題がテーマであるので、日ごろから地域に目を向けておくことが大切である。学生は地域社会とは縁が薄いと考えるしまうが、実際には身近に接しているわけで、そのことに気づくこともこの授業のもつ意義である。一緒に地域のことを考えよう。そして、さまざまな実践と一緒にチャレンジできればうれしい限りである！

地域福祉の理論と方法Ⅱ（専門展開科目）

担当者

金井 敏

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

地域福祉におけるネットワーキングやチームアプローチの意義と方法を理解するとともに、地域福祉の推進方法を理解し、これらを説明できるようになることを目的とする。

到達目標

域福祉に関わる組織・団体あるいは職種間のネットワーキング方法、福祉ニーズ把握技法、社会資源の活用・調整・開発、福祉計画技法、地域トータルケアシステム構築方法、サービス評価方法を説明できる。国家試験に必要な知識を修得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 地域における福祉ニーズの把握方法
- 第 2 回 社会資源の活用・調整・開発
- 第 3 回 地域における福祉サービスの評価と質の確保
- 第 4 回 地域福祉計画の法制化と策定の意義
- 第 5 回 市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の策定
- 第 6 回 ボランティア活動の考え方と推進法策
- 第 7 回 福祉教育の考え方と推進法策
- 第 8 回 行政組織と民間組織の役割
- 第 9 回 社会福祉協議会の組織と活動
- 第10回 民生委員・児童委員の制度と活動
- 第11回 民間組織～自治会・町内会・農協・生協
- 第12回 地域に根ざした多様な実践
- 第13回 日常生活自立支援事業
- 第14回 地域福祉の財源
- 第15回 後期のまとめ

評価方法

筆記試験 70%，毎回の授業時に課す小テストまたはレポートおよび授業態度等 30%

使用教材

『新・社会福祉養成講座 9 地域福祉の理論と方法』中央法規出版，2015 年

授業外学習の内容

- ・自分の住んでいる地域の現状を把握すること。
- ・授業前にテキストを中心に該当項目を予習しておくこと。
- ・授業内容の確認のために翌週に小テストを実施するので復習すること。

備考

この科目は現実に地域で起きているさまざまな問題や課題がテーマであるので、日ごろから地域に目を向けておくことが大切である。学生は地域社会とは縁が薄いと考えてしまうが、実際には身近に接しているわけで、そのことに気づくこともこの授業のもつ意義である。一緒に地域のことを考えよう。そして、さまざまな実践

と一緒にチャレンジできればうれしい限りである！

低所得者に対する支援と生活保護制度（専門展開科目）

担当者

石坂 公俊

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

1. 低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。
2. 相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。
3. 自立支援プログラムの意義について理解する。

到達目標

1. 生活に困窮している人びとの生活課題や福祉需要について理解できる
2. 生活保護制度や関連する制度・対策等を理解できる
3. 福祉専門職として果たすべき役割、他職種との連携について理解できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際
- 第 2 回 生活保護制度 ①
- 第 3 回 生活保護制度 ②
- 第 4 回 生活保護制度 ③
- 第 5 回 生活保護制度における組織及び団体の役割と実際 ①
- 第 6 回 生活保護制度における組織及び団体の役割と実際 ②
- 第 7 回 生活保護制度における専門職の役割と実際 ①
- 第 8 回 生活保護制度における専門職の役割と実際 ②
- 第 9 回 生活保護制度における他職種連携、ネットワーキングと実際 ①
- 第10回 生活保護制度における他職種連携、ネットワーキングと実際 ②
- 第11回 福祉事務所の役割と実際
- 第12回 自立支援プログラムの意義と実際
- 第13回 低所得者対策
- 第14回 低所得者への住宅政策
- 第15回 ホームレス対策

評価方法

期末試験の成績を中心にし、出席確認をかねた随時のアンケートの提出を加味して評価する。

使用教材

中央法規出版のテキストを使用する。

授業外学習の内容

指定したテキストの該当頁を事前に精読しておく。

備考

相談援助の理論と方法 I (専門展開科目)

担当者

永田 理香

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

ソーシャルワークを統一したものとして理論的に捉え、社会福祉における相談援助の基本的な視点について学ぶことを目的とする。

到達目標

- ①相談援助の構成要素について説明することができる。
- ②援助関係の構築プロセスを説明することができる。
- ③相談援助の展開過程について具体的に述べるすることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 相談援助とは
- 第 3 回 相談援助の構造
- 第 4 回 相談援助の機能
- 第 5 回 人と環境の相互作用
- 第 6 回 相談援助における援助関係①援助関係の形成プロセス
- 第 7 回 相談援助における援助関係②援助関係の質と自己覚知
- 第 8 回 相談援助の展開過程①相談援助の展開過程の流れ
- 第 9 回 相談援助の展開過程②ケース発見とインテーク
- 第10回 相談援助の展開過程③問題把握とニーズ確定
- 第11回 相談援助の展開過程④アセスメントと目標設定
- 第12回 相談援助の展開過程⑤プランニングと支援の実施
- 第13回 相談援助の展開過程⑥モニタリングと評価・終結
- 第14回 相談援助のためのアウトリーチ技術
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 60%、提出物・授業参加度 40%

使用教材

『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法 I』・社会福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版・2015 年・2,600 円

※テキストは毎回持参すること。

※テキストの他、レジュメ・資料を配布する。

授業外学習の内容

本講義は社会福祉士指定科目のため、テキストを事前に読み、専門用語を理解した上で、授業に参加すること。

備考

受講ルールについては、第 1 回のオリエンテーションにおいて、詳細シラバスに基づき説明する。

相談援助の理論と方法Ⅱ（専門展開科目）

担当者

永田 理香

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

相談援助の過程の詳細について学び、ソーシャルワークの基本的技術について理解する。

到達目標

- ①相談援助におけるアセスメントの技術について説明できる。
- ②相談援助における介入の技術について説明できる。
- ③相談援助における面接の技術について説明できる。
- ④相談援助における記録の技術について説明できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 相談援助のための契約の技術
- 第 3 回 相談援助のためのアセスメントの技術①アセスメントの特性とは
- 第 4 回 相談援助のためのアセスメントの技術②アセスメントツールの活用方法
- 第 5 回 相談援助のための介入の技術①介入の意義と目的
- 第 6 回 相談援助のための介入の技術②介入方法と留意点
- 第 7 回 相談援助のための経過観察（モニタリング）
- 第 8 回 相談援助のための再アセスメント
- 第 9 回 相談援助のための効果測定・評価
- 第10回 相談援助のための面接の技術①面接の基本姿勢
- 第11回 相談援助のための面接の技術②面接におけるコミュニケーション
- 第12回 相談援助のための記録の技術①記録の意義と活用
- 第13回 相談援助のための記録の技術②記録の方法と IT 化
- 第14回 相談援助のための交渉の技術
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 60%、提出物・授業参加度 40%

使用教材

『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅰ』、社会福祉士養成講座編集委員会、中央法規出版、2015 年、2,600 円

※テキストは毎回持参すること。

※テキストの他、レジュメ・資料を適宜配布する。

授業外学習の内容

本講義は社会福祉士指定科目のため、テキストを事前に読み、専門用語を理解した上で、授業に参加すること。

備考

受講ルールについては、第 1 回オリエンテーションにおいて、詳細シラバスに基づき説明する。

相談援助の理論と方法Ⅲ（専門展開科目）

担当者

戸澤 由美恵

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

ソーシャルワークを統一したものとして理論的にとらえ、相談援助の対象について学ぶ。また、ニーズを充足させるための社会資源の理解と活用などについて理解する。

到達目標

援助対象をシステムとして理解し、ニーズ充足のための社会資源や援助の方法があることが理解できる。これらを踏まえ、実習などにおいて自分の援助と関連付けて考えることができるようになる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 相談援助における対象の理解①
- 第 3 回 相談援助における対象の理解②
- 第 4 回 ケースマネジメント（ケアマネジメント）①
- 第 5 回 ケースマネジメント（ケアマネジメント）②
- 第 6 回 ケースマネジメント（ケアマネジメント）③
- 第 7 回 グループを活用した相談援助①
- 第 8 回 グループを活用した相談援助②
- 第 9 回 グループを活用した相談援助③
- 第10回 コーディネーションとネットワーキング①
- 第11回 コーディネーションとネットワーキング②
- 第12回 コーディネーションとネットワーキング③
- 第13回 相談援助における社会資源の活用・調整・開発①
- 第14回 相談援助における社会資源の活用・調整・開発②
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 80%、提出物・授業参加度等 20%

使用教材

『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法 II 第 3 版』
社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、わからない漢字や専門用語等を調べて理解しておくこと。2 年次に使用したテキスト『相談援助の理論と方法 I（中央法規）』も活用すること。

備考

相談援助の理論と方法Ⅳ（専門展開科目）

担当者

戸澤 由美恵

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する。また、相談援助における事例研究の意義や方法について学ぶ。

到達目標

相談援助にはさまざまな実践モデルとアプローチがあることを理解し、実際の援助や事例と関連付けて考えることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 さまざまな実践モデルとアプローチ①
- 第 3 回 さまざまな実践モデルとアプローチ②
- 第 4 回 さまざまな実践モデルとアプローチ③
- 第 5 回 さまざまな実践モデルとアプローチ④
- 第 6 回 さまざまな実践モデルとアプローチ⑤
- 第 7 回 さまざまな実践モデルとアプローチ⑥
- 第 8 回 スーパービジョンとコンサルテーションの技術
- 第 9 回 ケースカンファレンスの技術
- 第10回 相談援助における個人情報の保護
- 第11回 相談援助における情報通信技術（ICT）の活用
- 第12回 事例研究・事例分析①
- 第13回 事例研究・事例分析②
- 第14回 相談援助の実際
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 80%、提出物・授業参加度 20%

使用教材

『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第 3 版』
社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、わからない漢字や専門用語等を調べて理解しておくこと。2 年次に使用したテキスト『相談援助の理論と方法Ⅰ（中央法規）』も活用すること。

備考

福祉行財政と福祉計画（専門展開科目）

担当者

櫻井 邦夫

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

最近の社会状況を踏まえ、福祉行財政の現状と課題や福祉計画への理解を深め、福祉政策立案や実践活動に関する基礎的な知識の修得を図る。

到達目標

1. 福祉行財政の実施体制と実際について理解する。
2. 福祉計画の意義、目的、主体、方法、住民参加について理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 最近の福祉事情
- 第 2 回 社会保障制度改革
- 第 3 回 福祉関係法制度の展開
- 第 4 回 社会福祉基礎構造改革と福祉行政
- 第 5 回 地方分権改革と福祉（1）
- 第 6 回 地方分権改革と福祉（2）
- 第 7 回 国と地方公共団体の関係
- 第 8 回 福祉行政の組織と専門職
- 第 9 回 福祉財政の現状
- 第10回 福祉計画の概要
- 第11回 福祉計画の目的・意義・視点
- 第12回 福祉計画と住民参加
- 第13回 福祉系 3 分野計画の実際
- 第14回 地域福祉計画の実際
- 第15回 まとめ

評価方法

学期末の試験レポートや授業参加状況等で総合的に評価する。

使用教材

新・社会福祉士養成講座 10「福祉行財政と福祉計画」（第 4 版）中央法規

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語、キー・ワードを理解しておくこと

備考

日々の福祉関連情報に留意すること

福祉サービスの組織と経営（専門展開科目）

担当者

灰野 甲子郎

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、特定非営利活動法人、医療法人、営利法人など）、福祉サービスの組織と経営、管理運営に関する基本的事項について理解する。

到達目標

- ①社会福祉士国家試験の受験科目として、合格するための必要な知識を身につける。
- ②将来、福祉現場において様々な課題に出会ったときに、主体的に組織変革に取り組めるように、福祉サービスに係る組織の経営に関する基本的事項を修得する。
- ③ソーシャルワーカーとして、活躍できる人材を育成することを視野に入れた講義内容とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 福祉サービスにおける組織と経営
 第 2 回 福祉サービスと制度
 第 3 回 福祉サービスにかかわる組織や団体①
 第 4 回 福祉サービスにかかわる組織や団体②
 第 5 回 福祉サービスにかかわる組織や団体③終了後、レポート課題又は小テスト
 第 6 回 福祉サービスの組織と経営の理論①
 第 7 回 福祉サービスの組織と経営の理論②
 第 8 回 福祉サービスの組織と経営の理論③終了後、レポート課題又は小テスト
 第 9 回 福祉サービスの管理運営方法 サービス管理①
 第10回 福祉サービスの管理運営方法 サービス管理②終了後、レポート課題又は小テスト
 第11回 福祉サービスの管理運営方法 人事管理と労務管理①
 第12回 福祉サービスの管理運営方法 人事管理と労務管理②終了後、レポート課題又は小テスト
 第13回 福祉サービスの管理運営方法 会計管理と財務管理①
 第14回 福祉サービスの管理運営方法 会計管理と財務管理②終了後、レポート課題又は小テスト
 第15回 福祉サービスの管理運営方法 情報管理

評価方法

レポート課題又は小テスト 40% 期末試験 60%

使用教材

「福祉サービスの組織と経営」（中央法規）必要に応じて資料配布

授業外学習の内容

- ◎次回の授業範囲の予習と授業範囲の復習を行い、専門的用語や内容を理解しておくこと。
- ◎より理解する上でボランティア等を通して能動的な体験学習をしておくこと

備考

保健医療サービス（専門展開科目）

担当者

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

学生が、医療と福祉の密接な関係を理解し、相談援助場面で必要となる医療保険制度や保健医療システムの基本を学ぶ。現場で的確に専門職と連携するための、基本的な知識を獲得する。利用者のエンパワーメントを目指した支援方法を導くための役割を学ぶ。

到達目標

学生が、日本の医療保険制度や医療費の現状、診療報酬制度、介護報酬との関係、保健医療サービスの概要、専門職の役割と連携について理解すること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 保健医療福祉サービスとはなにか？
- 第 2 回 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割①
- 第 3 回 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割②
- 第 4 回 保健医療サービスを提供する施設とシステム①
- 第 5 回 保健医療サービスを提供する施設とシステム②
- 第 6 回 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割①
- 第 7 回 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割②
- 第 8 回 保健医療サービスの専門職の役割①
- 第 9 回 保健医療サービスの専門職の役割②
- 第 10 回 保健医療サービスの提供と経済的保障①
- 第 11 回 保健医療サービスの提供と経済的保障②
- 第 12 回 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際①
- 第 13 回 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際②
- 第 14 回 保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践
- 第 15 回 まとめ

評価方法

授業態度 20%、筆記試験 80%、などを参考に総合的に評価。

使用教材

「新・社会福祉養成講座 17 保健医療サービス」中央法規を必ず持参、その他資料などを配布。

授業外学習の内容

毎回の授業内容にかかわる配布問題を用いて復習する。次回の授業内容を予習しておく。

備考

授業復習のため、模擬問題を適宜配布実践する。理解を深めるための資料を適宜参照する。授業中の不必要な私語は厳に慎む（評価に影響する）。

権利擁護と成年後見制度（専門展開科目）

担当者

大矢 和則

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

1. 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。
2. 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。
3. 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

到達目標

1. 日常生活自立支援事業との区別を含めて成年後見制度の基礎的な知識を身につけることによって、判断能力が不十分な者に対する支援方法の選択が適切にできる。
2. クライエントのニーズ把握や支援方法の検討、援助の実施にあたって、福祉的な視点だけでなく法律的な視点からも考え、合法的な対応をとることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 日本国憲法 ①（憲法）
- 第 2 回 日本国憲法 ②（人権、統治機構）
- 第 3 回 行政法
- 第 4 回 民法 ①（能力、法律行為の瑕疵、物権と債権）
- 第 5 回 民法 ②（契約、消費者保護）
- 第 6 回 民法 ③（不法行為と損害賠償、親族）
- 第 7 回 民法 ④（相続）
- 第 8 回 民法 ⑤（遺言、遺留分）
- 第 9 回 法定後見 ①（制度の仕組み、権限、類型）
- 第10回 法定後見 ②（成年後見）
- 第11回 法定後見 ③（保佐、補助）
- 第12回 法定後見の手続
- 第13回 任意後見制度
- 第14回 成年後見人等の義務と責任・日常生活自立支援事業
- 第15回 成年後見の実際、まとめ

評価方法

筆記試験 90%、授業態度 10%で評価する。

使用教材

『新・社会福祉士養成講座 19 権利擁護と成年後見制度第 4 版』社会福祉士養成講座編集委員会中央法規出版株式会社

授業外学習の内容

授業後はレジユメをもとに必ず復習をしておくこと。

備考

社会福祉士、精神保健福祉士国家試験の科目です。

就労支援サービス（専門展開科目）

担当者

鈴木 美和

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 選択 1 単位

講義目標

1. 働くことの意味を知り、相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。
2. 支援の対象像を把握し、就労支援に係る組織、団体及び専門職の役割について理解する。
3. 就労支援分野の連携について理解し、重層的なネットワークの構築を知る。

到達目標

1. 就労支援の対象者と労働に関する法律・制度とを関連付ける。
2. 就労支援の対象者について類別し、支援の流れを説明する

講義内容と講義計画

- 第 1 回 雇用・就労の動向と労働施策の概要
- 第 2 回 就労支援制度の概要① 障害者福祉
- 第 3 回 就労支援制度の概要② 障害者雇用
- 第 4 回 就労支援制度の概要③ 低所得者・母子家庭
- 第 5 回 就労支援に係る組織、団体の役割と実際
- 第 6 回 就労支援に係る専門職の役割と実際① 当事者へのインタビュー
- 第 7 回 就労支援に係る専門職の役割と実際②
- 第 8 回 就労支援分野との連携と実際

評価方法

レポート課題 60%、小レポート 20%、コメントカード 20%

使用教材

「新・社会福祉士養成講座 18 就労支援サービス」

授業外学習の内容

1. 授業の前後にテキストを読み、法律・制度や専門用語の意味等を理解する。
2. 授業終了時に示す課題について、コメントカードあるいは小レポートを作成する。

備考

●キーワード「感じる・考える・深める」 ●アドレス：sd-isesaki@bay.wind.ne.jp

更生保護制度（専門展開科目）

担当者

松本 勝

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 選択 1 単位

講義目標

新たに社会福祉士国家試験の科目となった更生保護制度及び医療観察制度の概要について学ぶ。司法・更生保護制度は社会福祉の制度とはやや異なるものの、社会的弱者といわれる刑余者が社会復帰するための支援を専門家である社会福祉士に期待するところ大である。

到達目標

更生保護制度の概要である、仮釈放、保護観察、更生緊急保護、更生保護事業、犯罪被害者等支援施策のほか、更生保護の担い手や関係機関・団体、さらに新たに加えられた医療観察制度の概要について学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 刑事司法手続き及び更生保護制度と社会福祉の特徴、さらには更生保護の歴史について学ぶ
- 第2回 更生保護制度を掌る行政機関及びその担い手、並びに関連する民間組織・団体について学ぶ
- 第3回 仮釈放制度の概要と生活環境調整について学ぶ
- 第4回 保護観察の概要について学ぶ
- 第5回 保護観察各論及び更生緊急保護制度について学ぶ
- 第6回 更生保護事業の概要及び関係機関との連携の在り方について学ぶ
- 第7回 医療観察制度の概要について学ぶ
- 第8回 犯罪被害者等支援活動について学ぶ、まとめ

評価方法

授業参加度 20%、ミニテスト 40%、期末試験 40%

使用教材

「更生保護入門」松本勝編著成文堂¥1800 ときどき教科書を読み、重要な箇所を指摘する。

授業外学習の内容

指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。

備考

授業の復習の意味を兼ねてミニテストを毎回実施します。聞きなれない言葉、用語が多いので、必ず予習と復習をすること。授業がある日には非常勤講師室に午後 0 時から 1 時までは在室しますので、意見や質問のある学生は歓迎します。

相談援助演習Ⅳ（専門展開科目）

担当者

鈴木慶三、金井敏、戸澤由美恵、根岸洋人、永田理香、石坂公俊、大口達也

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年前期 選択 1 単位

講義目標

「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学んだことを基に、総合的・包括的な援助について、相談援助実習に応用できる力を養うことを目的とする。

到達目標

課題別の援助の実際とその特殊性を理解する。相談援助の過程を意識して事例の記載や検討ができ、相談援助実習において活用できる力が身につく

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 社会的排除 ①
- 第 3 回 社会的排除 ②
- 第 4 回 虐待（児童） ①
- 第 5 回 虐待（高齢者） ②
- 第 6 回 虐待（知的障害者） ③
- 第 7 回 家庭内暴力（D.V） ①
- 第 8 回 家庭内暴力（D.V） ②
- 第 9 回 低所得者 ①
- 第 10 回 低所得者 ②
- 第 11 回 ホームレス ①
- 第 12 回 ホームレス ②
- 第 13 回 その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む） ①
- 第 14 回 その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む） ②
- 第 15 回 まとめ

評価方法

演習への参加姿勢と貢献度、ワークシートの記載内容、提出物等で総合的に評価する

使用教材

ソーシャルワーク演習ケースブック（みらい）

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと

備考

相談援助演習 V（専門展開科目）

担当者

鈴木慶三、金井敏、戸澤由美恵、根岸洋人、永田理香、石坂公俊、大口達也

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年後期 選択 1 単位

講義目標

相談援助に関わる知識と技術について「相談援助演習 I・II・III・IV」で学んだことを基に、相談援助実習での個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として修得する。最終的には、社会福祉士としての価値と倫理を確立することを目的とする。

到達目標

実習で、自己の体験した事例のまとめ方や検討方法を理解し、実践的な知識と技術として身につく。自己の援助を振り返り、体験の共有化を通して、援助者及び人間として広い視野を体得する。利用者・家族・援助機関等との関係性を理解し、社会福祉士としての価値と倫理を確立する

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 個別事例のまとめ方 ①
- 第 3 回 個別事例のまとめ方 ②
- 第 4 回 個別事例のまとめ方 ③
- 第 5 回 個別事例報告と検討 ①
- 第 6 回 個別事例報告と検討 ②
- 第 7 回 個別事例報告と検討 ③
- 第 8 回 個別事例報告と検討 ④
- 第 9 回 個別事例報告と検討 ⑤
- 第 10 回 個別事例報告書の作成 ①
- 第 11 回 個別事例報告書の作成 ②
- 第 12 回 個別事例報告会（全体会） ①
- 第 13 回 個別事例報告会（全体会） ②
- 第 14 回 個別事例報告会（全体会） ③
- 第 15 回 まとめ

評価方法

演習への参加姿勢と貢献度、ワークシートの記載内容、提出物等で総合的に評価する

使用教材

ソーシャルワーク演習ケースブック（みらい）

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと

備考

相談援助実習指導 I (専門展開科目)

担当者

金井敏、戸澤由美恵、根岸洋人、永田理香、石坂公俊、大口達也

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 選択 1 単位

講義目標

相談援助実習の意義について理解する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。実際に実習を行う実習分野についての基本的な理解を深めるため、各分野に関する基本的学修を行う。また、実際に現場で活躍する施設職員に授業に参加してもらい、各実習分野についての理解を深め、相談援助実習の意義を理解する。

到達目標

実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）および施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解する実際に実習を行う分野を選択できるようにする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション（相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義）
- 第 2 回 身体障害者関連問題と施設 ①
- 第 3 回 身体障害者関連問題と施設 ②
- 第 4 回 知的障害者関連問題と施設 ①
- 第 5 回 知的障害者関連問題と施設 ②
- 第 6 回 児童福祉関連問題と施設 ①
- 第 7 回 児童福祉関連問題と施設 ②
- 第 8 回 老人関連問題と施設 ①
- 第 9 回 老人関連問題と施設 ②
- 第10回 福祉事務所と関連問題 ①
- 第11回 福祉事務所と関連問題 ②
- 第12回 社会福祉協議会と関連問題 ①
- 第13回 社会福祉協議会と関連問題 ②
- 第14回 医療機関と関連問題
- 第15回 まとめ

評価方法

開講時指示する

使用教材

開講時指示する

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語を理解しておくこと

備考

相談援助実習指導Ⅱ（専門展開科目）

担当者

鈴木慶三、金井敏、戸澤由美恵、根岸洋人、永田理香、石坂公俊、大口達也

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年前期 選択 1 単位

講義目標

相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関わる知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。

到達目標

相談援助実習に向け必要となる知識や技術を、実習ゼミにおける個別指導や集団指導を通して身につける。実習計画書を作成し、相談援助実習への準備を行う。相談援助実習への態度や、意欲を、醸成し、相談援助実習に必要な知識や技術を体得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 全体オリエンテーション
- 第 2 回 ゼミ別オリエンテーション
- 第 3 回 実習分野（施設・事業者・機関・団体・地域社会等）に関する基本的な理解 ①
- 第 4 回 実習分野（施設・事業者・機関・団体・地域社会等）に関する基本的な理解 ②
- 第 5 回 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 ①
- 第 6 回 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 ②
- 第 7 回 実習先で行われる相談援助に係る知識と技術に関する理解 ①
- 第 8 回 実習先で行われる相談援助に係る知識と技術に関する理解 ②
- 第 9 回 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）
- 第10回 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
- 第11回 実習計画書の作成 ①
- 第12回 実習計画書の作成 ②
- 第13回 実習先事前訪問（実習計画書の 3 者協議を含む）
- 第14回 実習報告会（前年度実習学生の報告会）への参加
- 第15回 実習直前オリエンテーション

評価方法

開講時に指示する

使用教材

開講時に指示する

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語を理解しておくこと

備考

相談援助実習指導Ⅲ（専門展開科目）

担当者

鈴木慶三、金井敏、戸澤由美恵、根岸洋人、永田理香、石坂公俊、大口達也

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年後期 選択 1 単位

講義目標

相談援助実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。相談援助実習で得た体験を共有し、実習記録や課題の整理を行うことを通して、社会福祉士として必要となる専門的技術を修得する

到達目標

実習報告会を計画、実施し、実習の総括を行う。実習報告会において、自己の体験を整理し、専門的援助技術を概念化し、理論化することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 実習巡回指導 ①
- 第 2 回 実習巡回指導 ②
- 第 3 回 全体オリエンテーション
- 第 4 回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 ①
- 第 5 回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 ②
- 第 6 回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 ③
- 第 7 回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 ④
- 第 8 回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 ⑤
- 第 9 回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 ⑥
- 第10回 実習総括レポートの作成 ①
- 第11回 実習総括レポートの作成 ②
- 第12回 実習報告会準備 ①
- 第13回 実習報告会準備 ②
- 第14回 実習報告会準備 ③
- 第15回 実習報告会（実習評価全体総括会）

評価方法

開講時指示する

使用教材

開講時指示する

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと

備考

相談援助実習（専門展開科目）

担当者

鈴木慶三、金井敏、戸澤由美恵、根岸洋人、永田理香、石坂公俊、大口達也

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年通年 選択 4 単位

講義目標

相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。

到達目標

関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。指定施設において実習を行う。担当教員は巡回指導等を通して学生と実習先との連絡調整を行い実習中の個別指導を十分に行う。相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する

講義内容と講義計画

※実習内容の詳細は実習先によって異なるが、次に掲げる事項について学生は実習指導者による指導を受ける利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーション今人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成

利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価

多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際

社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解

施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際

当該実習先が地域社会の中での設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

評価方法

開講時に指示する

使用教材

実習の手引き

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと

備考

精神疾患とその治療Ⅱ（専門展開科目）

担当者

上原 徹

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

学生が、「精神疾患とその治療Ⅰ」や「精神保健の課題と支援Ⅰ」で学習した総論内容を基盤に、各論として更に知識を深めることができる。

到達目標

学生が、各精神疾患や具体的な心理社会的問題の状態と治療について十分に理解すること。精神保健福祉士として担うべき中核業務と、社会的な要請に伴う職域の拡大や支援の多様化を意識し、国試対策の側面のみならず、実践的な知識や誠実な支援姿勢を培うこと。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 代表的な精神疾患のイントロダクション
- 第 2 回 精神作用物質使用による精神および行動の障害
- 第 3 回 統合失調症
- 第 4 回 双極性障害
- 第 5 回 うつ病性障害
- 第 6 回 神経症性障害、身体症状性障害、解離性障害
- 第 7 回 ストレスと関連する障害（PTSD など）
- 第 8 回 摂食障害
- 第 7 回 睡眠の障害
- 第 8 回 パーソナリティ障害
- 第 9 回 神経発達障害と知的障がい
- 第10 回 小児期および青年期に発症する行動および情緒の障害
- 第11 回 神経認知障害と器質性精神疾患
- 第12 回 精神科薬物療法や生物身体的療法
- 第13 回 精神療法や心理社会療法
- 第14 回 リハビリテーションと家族心理教育
- 第15 回 まとめ

評価方法

国家試験形式に準じた筆記試験を行うが、授業態度も参考にする。

使用教材

新・精神保健福祉士養成講座 第 1 巻「精神疾患とその治療」中央法規出版、と適宜資料配布

授業外学習の内容

「精神疾患とその治療Ⅰ」で扱った部分は各自理解しておく。別途準備する資料を用いて復習する。

備考

精神保健福祉士希望者必修である。授業中の不必要な私語は厳に慎むこと（厳しく評価に影響する）。「精神疾患とその治療Ⅰ」の履修をすすめていることが望ましい。

精神保健の課題と支援Ⅱ（専門展開科目）

担当者

中島 基彰

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

精神保健福祉士を目指す人の必修科目です。精神保健活動とは読んで字のごとく、人々の精神の健康を保つための活動です。精神の健康を維持するために援助者として持つべき知識を習得することが講義の目的です。精神保健の課題と支援Ⅱでは、Ⅰで学んだ内容をさらに深め、アルコール問題、薬物問題、自殺対策などの個別課題ごとに精神的・心理的問題について学び、実際の活動について学習します。

到達目標

- ①対人援助の専門職として必要な精神保健に関する基礎的な知識を身につけている。
- ②国家試験に準じた期末試験に 6 割以上正答できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 精神保健の概要と課題
- 第 2 回 精神の健康とその要因
- 第 3 回 精神の健康への関与と支援
- 第 4 回 ライフサイクルにおける精神保健①
- 第 5 回 ライフサイクルにおける精神保健②
- 第 6 回 個別課題への取り組み①アルコール問題対策
- 第 7 回 個別課題への取り組み②薬物問題対策
- 第 8 回 個別課題への取り組み③自殺予防対策
- 第 9 回 個別課題への取り組み④認知症問題対策
- 第10回 勤労者の精神保健
- 第11回 現代社会の課題と精神保健①
- 第12回 現代社会の課題と精神保健②
- 第13回 地域精神保健
- 第14回 諸外国の精神保健
- 第15回 まとめ

評価方法

3 分の 2 以上の出席、試験による評価

使用教材

新・精神保健福祉士養成講座 「精神保健の課題と支援」中央法規出版

授業外学習の内容

授業の最初に、前回の授業内容に関連する小テストを実施するので、復習しておくこと

備考

精神保健福祉士国家試験の受験希望者は必修。

精神保健福祉相談援助の基盤（専門）（専門展開科目）

担当者

鈴木 慶三

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

精神障害者を対象として相談援助活動の基本的考え方を行かして、実際の事例に相談援助技術を応用できる。また、精神障害者の援助にかかる多くの専門職の専門性の理解と連携したアプローチが出来る。

到達目標

- ①精神障害者を対象として相談援助活動の基本的考え方と相談援助技術の概要について理解する。
- ②精神障害者の相談援助にかかる専門職の概念と範囲について理解する。
- ③精神障害者の相談援助における権利擁護の意義を理解する。
- ④精神障害者の相談援助における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義について理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 精神障害者を対象として行う相談援助活動の基本的目的や価値・意義
- 第 2 回 精神障害者を対象として行う相談援助活動の基本的内容・原則
- 第 3 回 相談援助に関する個別相談援助技術
- 第 4 回 相談援助に関する集団を活用した相談援助技術
- 第 5 回 相談援助に関する地域を基盤に置いた相談援助技術
- 第 6 回 相談援助にかかる医療機関における専門職
- 第 7 回 相談援助にかかる福祉行政職
- 第 8 回 相談援助にかかる保健医療職
- 第 9 回 相談援助にかかる社会復帰調整官
- 第 10 回 相談援助にかかる労働行政期間における専門職
- 第 11 回 相談援助における民間施設・組織の専門職（生活指導員・サービス管理責任者・相談支援専門員）
- 第 12 回 相談援助における権利擁護 自己決定・意思決定能力
- 第 13 回 相談援助における人権擁護と精神保健福祉士の役割
- 第 14 回 ジェネラリストの視点に基づく総合的包括的援助
- 第 15 回 ジェネラリストの視点に基づく多職種チームアプローチ

評価方法

ミニテストの平均点（百点満点）と期末試験の成績（百点満点）の合計の 1/2 を基本とします。
ミニテストに加点する項目としては推薦する精神保健福祉関係のボランティア活動、レポート内容等です。

使用教材

中央法規 精神保健福祉相談援助の基盤

授業外学習の内容

1/2w の頻度でミニテストを実施しますので、毎回の復習を 90 分以上行うこと

備考

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I (専門展開科目)

担当者

中島 基彰

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

この授業は、精神障害者に対する援助方法や実践の基本を学ぶ科目である。この講義の目的は、精神障害者に対する援助方法やその基本理論を修得し、精神障害者や家族などの対象者のニーズを大切にして、精神障害者のためによりよい実践を行えるよう、学習・検討することである。

到達目標

- ①精神障害者を支援する専門職として必要な相談援助に関する基礎的な知識を身につけている。
- ②国家試験に準じた期末試験に 6 割以上正答できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 精神保健医療福祉の歴史と動向
- 第 2 回 精神障害者に対する支援の基本的な考え方
- 第 3 回 精神科リハビリテーションの概念と構成
- 第 4 回 精神科リハビリテーションのプロセス
- 第 5 回 精神科リハビリテーションの展開①
- 第 6 回 精神科リハビリテーションの展開②
- 第 7 回 精神科リハビリテーションの展開③
- 第 8 回 支援実践モデル①
- 第 9 回 支援実践モデル②
- 第10回 援助関係
- 第11回 援助関係
- 第12回 面接技術
- 第13回 面接技術
- 第14回 復讐
- 第15回 まとめ

評価方法

学期末試験の結果、2/3 以上の出席

使用教材

新・精神保健福祉士養成講座精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I 中央法規出版

授業外学習の内容

授業で使用した専門用語の意味を理解しておくこと

備考

精神保健福祉士国家試験の受験希望者は必修

精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（専門展開科目）

担当者

長谷川 恵子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

精神病（歴）や精神障がいを持つ人とその家族等を対象とした相談援助活動の基本的スタンスをテキスト、事例、動画（映像）等の教材を通して醸成する。

到達目標

精神病（歴）や精神障がいを持つ人とその家族等の相談援助にあたる専門職者として必要な人権意識，基礎的な知識を身に付ける。国家試験を意識し、本科目で出題されやすい項目を重点的に理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 導入，「展開Ⅰ」で学んだ内容の確認
- 第 2 回 法制度の歴史と課題①
- 第 3 回 法制度の歴史と課題②
- 第 4 回 障がいのとらえ方，ICF の構造理解
- 第 5 回 当事者活動①
- 第 6 回 当事者活動②
- 第 7 回 家族会活動，家族支援
- 第 8 回 地域移行支援 デイケア等
- 第 9 回 相談援助の内容① スtrenグス，エンパワメント，SST
- 第10回 相談援助の内容② グループワーク，ネットワーキング
- 第11回 地域移行と定着①
- 第12回 地域移行と定着②
- 第13回 ネットワークの広がり
- 第14回 諸外国の例，世界の潮流
- 第15回 まとめ

評価方法

出席，授業への参加意欲（20%）、期末試験等（80%）による総合評価。

使用教材

適宜資料等を印刷，配布する。

授業外学習の内容

群馬県内のメンタルヘルス活動へのジョイント，当事者グループや家族会とのコンタクトも企画可。

備考

精神保健福祉士国家資格受験希望者は必修。

精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ（専門展開科目）

担当者

塩津 博康

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

この授業は、精神障害者に対する援助方法や実践の応用的な知識を学ぶ科目である。この講義の目的は、精神障害者に対する援助方法やその基本理論から応用的な理論まで幅広く修得し、精神障害者や家族などの対象者のニーズを大切にして、精神障害者のためによりよい実践を行えるよう、学習・検討することである。

到達目標

- ①精神障害者を支援する専門職として必要な相談援助に関する応用的な知識を身につけている。
- ②国家試験に準じた期末試験に 6 割以上正答できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス・障害者リハビリテーションの概念と歴史
- 第 2 回 精神障害者リハビリテーションの概念、理念と意義
- 第 3 回 精神科リハビリテーション基本原則と技法
- 第 4 回 精神科リハビリテーションの構成（対象・PSW の役割）
- 第 5 回 精神科リハビリテーションの構成（連携・施設）
- 第 6 回 精神科リハビリテーションのプロセス
- 第 7 回 医療機関におけるリハビリテーション／SST、認知行動療法
- 第 8 回 医療機関におけるリハビリテーション／家族心理教育
- 第 9 回 ここまでのまとめと確認
- 第10回 精神保健福祉施設と診療報酬制度
- 第11回 地域リハビリテーション／アウトリーチ、ACT モデル
- 第12回 職業リハビリテーション／援助付雇用モデル、ソーシャルファームモデル
- 第13回 効果測定と評価
- 第14回 エビデンス・ベースド・プラクティス（EBP）とその普及
- 第15回 まとめ

評価方法

3 分の 2 以上の出席。試験による評価

使用教材

新 精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと

備考

精神保健福祉士希望者は必修

精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ（専門展開科目）

担当者

長谷川 恵子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

精神病（歴）や精神障がいを持つ人とその家族等に対する相談方法，実践の応用について事例を多用しながら学ぶ。授業の三分の二は事例問題を中心とした国家試験対策とし，過去 3 年分の出題内容に取り組み，これまで学んできた知識の確認，定着を目指す。

到達目標

精神病（歴）や精神障がいを持つ人とその家族等の相談援助にあたる専門職者として必要な人権意識，知識，多職種間におけるスタンスを身に付ける。国家試験に進じた出題に，8 割以上正答できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 導入「(同科目) 展開Ⅰ～Ⅲ」で学んだ内容の確認
- 第 2 回 復習① 法制度，ICF の構造
- 第 3 回 復習② 当事者活動，家族支援
- 第 4 回 復習③ 地域移行支援，デイケア，ネットワーキング
- 第 5 回 国家試験対策①
- 第 6 回 国家試験対策②
- 第 7 回 国家試験対策③
- 第 8 回 国家試験対策④
- 第 9 回 国家試験対策⑤
- 第 10 回 国家試験対策⑥
- 第 11 回 国家試験対策⑦
- 第 12 回 国家試験対策⑧
- 第 13 回 国家試験対策⑨
- 第 14 回 国家試験対策⑩
- 第 15 回 まとめ

評価方法

出席，授業への参加意欲（20%），期末試験等（80%）による総合評価。

使用教材

適宜資料等を印刷，配布する。

授業外学習の内容

社会福祉学科実習指導室，図書館等に蔵書している精神保健福祉士国試テキスト，問題集等を利用し，分からない箇所等について授業時間内に共有，解題する。

備考

精神保健福祉士国家資格受験希望者は必修。

精神保健福祉に関する制度とサービス I (専門展開科目)

担当者

鈴木 慶三

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

社会における精神障害者支援の概念、関係法の内容が出来るように具体的な事例や DVD などを通して、精神障害者福祉の基本的相談支援を学ぶ。

到達目標

- ①精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法とのかかわりについて理解し、精神保健福祉士として支援ができる。
- ②精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解し、精神保健福祉士として支援ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 精神保健福祉法の目的
- 第 2 回 精神保健福祉法の内容として地方精神保健福祉審議会、精神医療審査会、精神保健指定医、精神障害者保健福祉手帳
- 第 3 回 精神保健福祉法の内容と基本的人権、ノーマライゼーション、リハビリテーションを踏まえ、入院形態など
- 第 4 回 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス
- 第 5 回 障害者基本法と精神障害者施策とのかかわり
- 第 6 回 障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際
- 第 7 回 精神障害者が利用する福祉サービスと手続き
- 第 8 回 都道府県、市町村における精神障害者福祉施策・事業の実際
- 第 9 回 精神障害者に関連する社会保障制度
- 第 10 回 精神障害者の保健福祉の現状
- 第 11 回 精神医療におけるインフォームドコンセント
- 第 12 回 医療保険制度の意義と内容
- 第 13 回 介護保険制度の意義と内容
- 第 14 回 経済的支援に関する制度の意義と内容
- 第 15 回 精神障害者の就労支援の連携

評価方法

2 週に 1 回実施するミニテストの平均と国家試験レベルの期末試験の成績、レポート内容などによる。

使用教材

中央法規出版新・精神保健福祉士養成講座第 6 巻新・精神保健福祉サービス

授業外学習の内容

1/2w の頻度でミニテストを実施しますので、毎週予習復習を 90 分以上行うこと。

備考

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修することミニテストの範囲は 2 週間分の講義内容ですので、毎週テキストと自分のノートの復習を 3 時間以上かけて丁寧に行ってください

精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ（専門展開科目）

担当者

鈴木 慶三

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

福祉サービスを担う機関や団体、及び連携について理解し、実際の支援に活用できるようになる。

到達目標

- ①精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。
- ②更正保護制度と医療観察法について理解する。社会における精神障害者支援の概念、人権上の問題点を踏まえて、精神保健福祉士として支援ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 精神障害者の相談援助に係わる行政組織の役割とサービス利用の実際
- 第 2 回 精神障害者の相談援助に係わる民間組織の役割とサービス利用の実際
- 第 3 回 精神障害者の相談援助に係わる専門職や地域住民との協働
- 第 4 回 精神障害者が利用できるインフォーマルな社会資源の役割
- 第 5 回 精神障害者と家族、セルフヘルプグループ、ピアヘルパー
- 第 6 回 更正保護制度の概要
- 第 7 回 更正保護と精神障害者福祉との関連
- 第 8 回 更正保護制度における関係機関や団体
- 第 9 回 更正保護制度と司法・医療・福祉の連携職種
- 第 10 回 保護観察所の役割と実際
- 第 11 回 医療観察法の概要
- 第 12 回 指定入院医療機関の役割と指定通院医療機関の役割
- 第 13 回 社会復帰調整官の役割と実際
- 第 14 回 医療観察法における精神保健福祉士の専門性
- 第 15 回 精神保健参与員の役割

評価方法

2 週に 1 回の頻度のミニテストの平均点と国家試験レベルの期末試験の成績、レポートなどを総合評価する。

使用教材

中央法規出版新・精神保健福祉士養成講座第 6 巻
新・精神保健福祉に関する制度とサービス

授業外学習の内容

1/2w の頻度でミニテストを実施しますので、予習復習を毎週 90 分以上行うこと。

備考

精神保健福祉士の国家試験を受験予定の学生は必ず履修すること。ミニテストの範囲は 2 週間分の講義内容ですので、毎週テキストと自分のノートの復習を 3 時間以上かけて丁寧に行ってください

精神障害者の生活支援システム（専門展開科目）

担当者

中島 基彰

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

- ①精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。
- ②精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。
- ③職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。
- ④行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。

到達目標

- ①精神障害者を支援する専門職として必要な生活支援に関する基礎的な知識を身につけている。
- ②国家試験に準じた期末試験に 6 割以上正答できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 精神障害者の概念・障害の定義
- 第 3 回 障害者基本法と精神保健福祉法
- 第 4 回 精神障害者の生活の実際
- 第 5 回 精神障害者の生活と人権
- 第 6 回 地域生活支援システム
- 第 7 回 雇用・就業以外の就労と余暇活動
- 第 8 回 ソーシャルサポートネットワーク
- 第 9 回 居住支援制度の歴史的展開
- 第10回 居住支援の実際と精神保健福祉士
- 第11回 雇用・就業支援制度の概要
- 第12回 雇用・就業支援の実際と専門職
- 第13回 福祉的就労における支援の実際
- 第14回 行政における相談援助システム
- 第15回 まとめ

評価方法

3 分の 2 以上の出席試験による評価

使用教材

新・精神保健福祉士養成講座精神障害者の生活支援システム中央法規出版

授業外学習の内容

授業で使用した専門用語の意味を理解しておくこと

備考

精神保健福祉士国家試験の受験希望者は必修。

精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ（専門展開科目）

担当者

鈴木 慶三、長谷川 恵子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 3 年前期 選択 1 単位

講義目標

精神障害者が利用する医療機関の治療や支援の実際と権利擁護に果たす精神保健福祉士の役割を学び、障害者施設における障害者総合支援法による「サービス等利用計画、個別支援計画」の作成と実際の支援内容を学ぶ。

到達目標

精神保健福祉援助のロールプレイを体験し、気づきや感じたことを言語化できる。
事例をアセスメントし、その結果をわかりやすく人に伝えられる。
精神保健福祉援助における介入の根拠を専門概念を用い論理的に説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 授業概要の説明、面接技術と精神保健福祉士の役割
- 第 2 回 病院・クリニックの治療プロセス
- 第 3 回 治療とチームアプローチ：精神保健福祉士の役割を学ぶ
- 第 4 回 退院支援（サービス利用計画・個別支援計画）
- 第 5 回 地域定着支援（サービス利用計画・個別支援計画）
- 第 6 回 障害者権利条約 権利擁護・DC の在り方
- 第 7 回 福祉施設（就労移行）の実際
- 第 8 回 福祉施設（就労継続、GH、）の実際
- 第 9 回 障害者福祉サービス（保健所・市役所）
- 第10回 単位実習先として認められている機関・施設等の実際と精神保健福祉士の役割
- 第11回 在宅障害者の福祉サービスの利用第一段階：サービス等利用計画作成と支援
- 第12回 在宅障害者の福祉サービスの利用第二段階：個別支援計画作成と支援
- 第13回 地域におけるチームアプローチ 地域包括ケアシステム
- 第14回 地域におけるチームアプローチ 精神障害者事例
- 第15回 地域におけるチームアプローチ 認知症者事例

評価方法

授業への出席、演習への参加姿勢と貢献度、ワークシートの記載内容、提出物等で総合的に評価する

使用教材

中央法規出版 2016, 2, 1 新・精神保健福祉士養成講座第 8 巻 第 2 版（基礎・専門）

授業外学習の内容

予習として、事例を読み検討課題について意見をまとめてくること。

備考

精神保健福祉士必修科目

精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ（専門展開科目）

担当者

鈴木 慶三、長谷川 恵子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 3 年後期 選択 1 単位

講義目標

本授業では、他の講義形式の授業や演習および実習で学んだ精神保健福祉援助の知識と技術に関して、演習の形式でさらに理解を深めることを目的とする。具体的には、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化していくことができる能力を涵養する。

到達目標

精神保健福祉援助のロールプレイを体験し、気づきや感じたことを言語化できる。
事例をアセスメントし、その結果をわかりやすく人に伝えられる。
精神保健福祉援助における介入の根拠を専門概念を用い論理的に説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 授業概要の説明、実習先での体験を振り返って
- 第 2 回 個別事例の報告①（退院支援・地域移行に関連する事例）
- 第 3 回 個別事例の報告②（ピアサポートに関連する事例）
- 第 4 回 個別事例の報告③（低所得者支援に関連する事例）
- 第 5 回 個別事例の報告④（危機介入に関連する事例）
- 第 6 回 個別事例の報告⑤（思春期・青年期の対象者支援に関連する事例）
- 第 7 回 個別事例の報告⑥（高齢期の対象者支援に関連する事例）
- 第 8 回 個別事例の報告⑦（慢性の統合失調症患者への支援に関連する事例）
- 第 9 回 個別事例の報告⑧（うつ病患者への支援に関連する事例）
- 第 10 回 個別事例の報告⑨（人格障害当事者への支援に関連する事例）
- 第 11 回 個別事例の報告⑩（物質依存当事者への支援に関連する事例）
- 第 12 回 個別事例の報告⑪（家族支援に関連する事例）
- 第 13 回 個別事例の報告⑫（重度重複障害当事者への支援に関連する事例）
- 第 14 回 個別事例の報告⑬（触法精神障害当事者への支援に関連する事例）
- 第 15 回 まとめ

評価方法

授業への出席、演習への参加姿勢と貢献度、ワークシートの記載内容、提出物等で総合的に評価する

使用教材

中央法規出版 2016, 2, 1 新・精神保健福祉士養成講座第 8 巻 第 2 版（基礎・専門）

授業外学習の内容

個別事例のまとめ方の指導を受けるためには、学生が体験した事例の報告をガイドラインに従って、レポートをまとめておくこと。

備考

精神保健福祉士必修科目

精神保健福祉援助実習指導 I (専門展開科目)

担当者

鈴木 慶三、上原 徹、長谷川 恵子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 2 年後期 選択 1 単位

講義目標

実際に実習を行う実習分野についての基本的な理解を深めるため、各分野に関する基本的学習を行う。実習の心構え、具体的な準備、実習テーマ検討、実習の動機、実習課題、実習計画作り、事前訪問指導内容の説明などを行う。

到達目標

実習の意義を説明できる。実習の動機を説明できる。実習課題と計画を作成する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス (精神保健福祉援助実習と実習指導における個別指導及び集団指導の意義)
- 第 2 回 精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解の確認
- 第 3 回 精神保健医療福祉の利用者に関する基本的な理解の確認
- 第 4 回 精神科医療機関と関連問題①
- 第 5 回 精神科医療機関と関連問題②
- 第 6 回 障害者関係施設と関連問題①
- 第 7 回 障害者関係施設と関連問題②
- 第 8 回 行政関係機関と関連問題①
- 第 9 回 行政関係機関と関連問題②
- 第 10 回 精神保健福祉領域のアセスメントの方法
- 第 11 回 アセスメントに基づくプランニングの方法
- 第 12 回 精神保健福祉援助介入と評価方法①
- 第 13 回 精神保健福祉援助介入と評価方法②
- 第 14 回 実習記録の書き方と事例のまとめ方
- 第 15 回 試験

評価方法

出席回数、書類の期限内提出、レポートの質の総合評価とする

使用教材

中央法規出版 2016, 2, 1 新・精神保健福祉士養成講座第 9 巻 第 2 版
「精神保健福祉援助実習指導・実習」

授業外学習の内容

実習に必要な知識・技術について、指示されたテーマに従ってワード形式のデータファイルで提出すること。

備考

精神保健福祉士国家試験受験資格の取得希望者は必修。

精神保健福祉援助実習指導Ⅱ（専門展開科目）

担当者

鈴木 慶三、上原 徹、長谷川 恵子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 3 年前期 選択 1 単位

講義目標

精神保健福祉援助実習に向け必要となる知識や技術を、実習ゼミにおける個別指導や集団指導を通して身につける。実習計画書を作成し、精神保健福祉援助実習への準備を行う。

到達目標

自分にとっての実習の意義を説明できる。
実習で何を学びたいかを説明できる。
配属先にあった現実的で意味のある実習課題と計画を作成する

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス（精神保健福祉援助実習と実習指導における個別指導及び集団指導の意義）
- 第 2 回 精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解の再確認
- 第 3 回 精神保健医療福祉の利用者に関する基本的な理解の再確認
- 第 4 回 各ゼミに分かれ、配属先の発表とオリエンテーションの実施、精神保健福祉士の職業倫理と法的責務
- 第 5 回 実際に実習を行う施設・機関・事業者等に関する概要の説明と確認
- 第 6 回 実際に実習を行う施設・機関・事業者等に関する概要についての情報収集と指導①
- 第 7 回 実際に実習を行う施設・機関・事業者等に関する概要についての情報収集と指導②
- 第 8 回 実際に実習を行う施設・機関・事業者等に見学に行く
- 第 9 回 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）
- 第 10 回 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
- 第 11 回 実習計画書の作成①
- 第 12 回 実習計画書の作成②
- 第 13 回 実習先事前訪問（実習計画書の 3 者協議を含む）
- 第 14 回 実習報告会（前年度実習学生の報告会）への参加
- 第 15 回 実習直前オリエンテーション

評価方法

コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力

使用教材

各自の実習ノート

授業外学習の内容

実習先ごとの概要・実習目的・課題・倫理及び実習計画作りに必要なレポートの提出のための学習。

備考

精神保健福祉士国家試験受験資格の取得希望者は必修。また履修するためには単位取得などの付帯条件があるためガイダンス時に確認されたい。

精神保健福祉援助実習指導Ⅲ（専門展開科目）

担当者

鈴木 慶三、上原 徹、長谷川 恵子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 3 年後期 選択 1 単位

講義目標

精神保健福祉援助実習で得た体験を共有し、実習記録や課題の整理を行うことを通して、精神保健福祉士として必要となる専門的技術の習得を目指す。実習報告会を計画、実施し、実習の総括を行う。個別・集団指導をとおして、各自が精神保健福祉士として自己に求められる課題を考察し報告する。

到達目標

実習での体験を言語化できる。実習施設の概要と機能について説明できる。実習先の利用者の特徴について説明できる。実習先の精神保健福祉士を含む専門職の職務について説明できる。精神保健福祉士としての自己の課題を言語化できる。実習報告書を作成する。実習報告会で発表する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 実習巡回指導①
- 第 2 回 実習巡回指導②
- 第 3 回 全体オリエンテーション
- 第 4 回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理①
- 第 5 回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理②
- 第 6 回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理③
- 第 7 回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理④
- 第 8 回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理⑤
- 第 9 回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理⑥
- 第 10 回 実習総括レポートの作成①
- 第 11 回 実習総括レポートの作成②
- 第 12 回 実習報告会準備①
- 第 13 回 実習報告会準備②
- 第 14 回 実習報告会準備③
- 第 15 回 実習報告会（実習評価全体総括会）

評価方法

授業への出席、提出物、レポート、報告会の内容などを総合的に評価する。

使用教材

実習ノート等。

授業外学習の内容

実習等で学べた知識・技術・課題をレポートとして提出すること、又実習報告会のためのシェアする検討資料を作成すること。

備考

精神保健福祉士国家試験受験資格の取得希望者は必修

精神保健福祉援助実習（専門展開科目）

担当者

鈴木 慶三、上原 徹、長谷川 恵子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科社会福祉コース 3 年前期 選択 4 単位

講義目標

精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の課題について把握する。総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

到達目標

現場で実習指導者による指導を受け、規定の時間を計画どおり実習をこなすことができる。現場での体験を実習記録へ専門的な用語を用い言語化できる。巡回実習時に体験を言語化できる。自己の課題を発見し検討できる。

講義内容と講義計画

集中講義※実習内容の詳細は実習先によって異なるが、次に掲げる事項について学生は実習指導者による指導を受ける

- ・利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価
- ・精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際・精神保健福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- ・当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

なお、特に精神科病院における実習の際には、次に掲げる事項について学生は実習指導者による指導を受ける

- ・入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助
- ・退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助
- ・多職種や病院外の関係機関との連携を通じた相談援助

また、特に精神科診療所における実習の際には、次に掲げる事項について学生は実習指導者による指導を受ける

- ・治療中の患者及びその家族への相談援助
- ・日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助
- ・地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助

評価方法

学生の実習報告、実習ノート、現場指導者の評価を総合的に評価する。

使用教材

中央法規出版 2016, 2, 1 新・精神保健福祉士養成講座第 9 巻 第 2 版
「精神保健福祉援助実習指導・実習」

授業外学習の内容

スーパービジョン及び巡回指導で指示された課題を期限までに提出すること。

備考

精神保健福祉士必修科目。また履修するためには単位取得などの付帯条件があるためガイダンス時に確認されたい。

介護の基本 I (専門展開科目 介護福祉コース)

担当者

渡邊 洋子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

利用者を「生活者」として受けとめ、個性を活かした介護実践や自立に向けた介護、終末期介護について理解を深める。

利用者との信頼関係に基づいた安全かつ、安心できる介護実践について理解を深める。

介護従事者としての職業倫理やケアマネジメント、健康管理について理解を深める。

到達目標

利用者にとって生きがいをもてる生活環境や危機管理を理解できる。

介護の歴史や関係法規を概観し、介護の意味や役割、専門性を理解できる。

人間や社会を理解し、専門職としての視座を養うことができる。

講義内容と講義計画

第 1 回 ガイダンス・他己紹介～自己理解と他者理解

第 2 回 日常生活支援の基本①～環境

第 3 回 日常生活支援の基本②～体勢と体位

第 4 回 日常生活支援の基本③～自然な動きとボディメカニクス

第 5 回 日常生活支援の基本④～移動と福祉用具の活用 (車椅子)

第 6 回 日常生活支援の基本⑤～移動と福祉用具の活用 (様々な自助具)

第 7 回 日常生活支援の基本⑥～衣類選択の重要性と着脱場面での介護

第 8 回 日常生活支援の基本⑦～食べる行為と食事場面での介護

第 9 回 日常生活支援の基本⑧～排尿のメカニズムと排泄場面での介護

第10回 日常生活支援の基本⑨～排便のメカニズムと排泄場面での介護

第11回 日常生活支援の基本⑩～皮膚の構造と清潔保持の重要性

第12回 日常生活支援の基本⑪～清潔保持場面での介護と様々な方法

第13回 日常生活支援の基本⑫～清潔保持場面における福祉用具の活用

第14回 介護と生活

第15回 まとめ

評価方法

授業参加度 20%・ミニレポート 20%・期末試験 60%

評価方法等はガイダンス時にアナウンスする

使用教材

西村洋子 編 『介護の基本』メヂカルフレンド社 ¥3800

講義時にレジュメ及び資料を配布する

授業外学習の内容

単元ごとに使用教科書を精読し、内容の理解に努める

備考

私語 (状況により退室を促すことがある)・遅刻 (授業開始から 10 分までとする)・飲食 (交渉に応じ許可する)

ことがある)

介護の基本Ⅱ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

渡邊 洋子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

利用者を「生活者」として受けとめ、個性を活かした介護実践や自立に向けた介護、終末期介護について理解を深める。

利用者との信頼関係に基づいた安全かつ、安心できる介護実践について理解を深める。

介護従事者としての職業倫理やケアマネジメント、健康管理について理解を深める。

到達目標

介護の基本Ⅰの知識を応用し、根拠に基づく介護実践や専門性を理解できる。

介護実践における介護過程を理論的な視点で理解できる。

介護実践におけるサービス提供を概観し、制度やサービス特性を理解できる。

利用者を中心とした多職種連携の必要性や実践を理解できる。

講義内容と講義計画

第 1 回 ガイダンス・夏休みの宿題回収

第 2 回 「介護」とは

第 3 回 介護の対象と生活の支援①～私たちの祖父母の世界<グループ演習>

第 4 回 介護の対象と生活の支援②～高齢者

第 5 回 介護の対象と生活の支援③～障害と肢体不自由

第 6 回 介護の対象と生活の支援④～知的障害児者

第 7 回 介護の対象と生活の支援⑤～内部障害者

第 8 回 介護の普及～介護の関係法規

第 9 回 諸外国の介護と関連領域・介護従事者の健康と安全

第10回 終末期の介護①～「終末期」の範疇と死にゆく人々の過程とケア

第11回 終末期の介護②～死生観形成を促すために<グループ演習>

第12回 終末期の介護③～死生観を育むために<グループ演習>

第13回 終末期の介護④～死生観を共有するために<グループ演習>

第14回 終末期の介護⑤～死生観を共有するために<グループ発表>

第15回 まとめ

評価方法

授業参加度 20%・ミニレポート 20%・期末試験 60%

評価方法等はガイダンス時にアナウンスする

使用教材

西村洋子 編 『介護の基本』メヂカルフレンド社 ¥3800

講義時にレジュメ及び資料を配布する

授業外学習の内容

単元ごとに使用教科書を精読し、内容の理解に努める

備考

私語（状況により退室を促すことがある）・遅刻（授業開始から 10 分までとする）・飲食（交渉に応じ許可することがある）

介護の基本Ⅲ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

内田 幸子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

介護を必要とする人の生活を支援方法、自立に向けた居住環境と身じたくに関する基本事項を理解することを目的とする。それぞれのアセスメントによって、状態・状況に応じた介助の留意点を明確にし、家庭生活の経営と管理、および高齢者・障害者の自立に向けた家事の介護を修得する。

到達目標

介護福祉士としての基礎的な生活支援に関わる知識を獲得できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 高齢者・障害者の自立に向けた介護一身体じたくの意義と目的
- 第 2 回 高齢者・障害者の自立に向けた身じたくの介護
- 第 3 回 高齢者・障害者の身じたくに関するアセスメント
- 第 4 回 被服の素材と品質表示・管理
- 第 5 回 被服と皮膚衛生
- 第 6 回 高齢者に適した被服の選択と管理
- 第 7 回 障害者に適した被服の選択と管理
- 第 8 回 高齢者・障害者の自立に向けた介護一居住環境整備の意義と目的
- 第 9 回 高齢者・障害者の自立に向けた居住環境整備の介護
- 第 10 回 高齢者・障害者の居住環境のアセスメント
- 第 11 回 快適な室内環境（温度・湿度、採光・換気）
- 第 12 回 高齢者の自立に向けた室内環境の確保
- 第 13 回 障害者の自立に向けた室内環境の確保
- 第 14 回 高齢者・障害者の室内環境のアセスメント
- 第 15 回 バリアフリーとユニバーサルデザイン

評価方法

授業参加度、学期末試験を総合的に評価していくが、評価方法の詳細な基準は初回時に提示する。

使用教材

授業初回時に提示する。

授業外学習の内容

国試に向けて、前回の授業内容に係る小テストを実施するので復習しておくこと。

備考

メールアドレス uchida@takasaki-u.ac.jp

介護の基本Ⅳ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

戸田 貞子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

高齢者のくらしの実際―食生活と家庭経営、生活感、生活様式等の多様性等を理解する。特に、食生活では高齢者・障害者の食の実態と問題点、その解決と改善のための調理と献立を重視し、家庭経営においては高齢者世帯の生活への理解と具体的な生活設計に重点をおき、生活を支える基盤（各種年金制度、生活保護、介護保険）とサービスについても理解を深める。介護を必要とする人の生活を支援方法、自立に向けた居住環境と身じたくに関する基本事項の理解を目的とする。

到達目標

介護福祉士としての基礎的な生活支援に関わる知識を獲得できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 介護を必要とする人の理解―高齢者・障害者の生活様式と食生活の変化
- 第 2 回 介護を必要とする人の理解―高齢者世帯における食生活（要介護者の食事介護の実態）
- 第 3 回 介護を必要とする人の理解―高齢者・障害者の身体機能
- 第 4 回 介護を必要とする人の理解―高齢者・障害者の栄養
- 第 5 回 食生活と健康
- 第 6 回 食品の成分と保存・管理
- 第 7 回 調理の基本（調理操作の概要、調理器具・設備）
- 第 8 回 高齢者・障害者のための調理の基本（食材の選び方・調理法）
- 第 9 回 高齢者・障害者の食生活と献立
- 第10回 食の安全、食品衛生に関する法規
- 第11回 家庭生活の意義、生活様式の多様性
- 第12回 家庭生活と家庭経営
- 第13回 高齢者・障害者の生活の理解Ⅰ（くらしの実際、介護を必要とする人の理解）
- 第14回 高齢者・障害者の生活の理解Ⅱ（生活のニーズ）
- 第15回 生活を支えるサービスの現状と課題

評価方法

授業参加度、学期末試験を総合的に評価していくが、評価方法の詳細な基準は初回時に提示する。

使用教材

授業初回時に提示する。

授業外学習の内容

次回学習範囲を予習しておくこと

備考

介護の基本Ⅴ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

稲垣 謙次郎

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

音声言語を聞くことが出来ず、発生も困難な聴覚障害者（ろう者）が用いる手話を覚え、それらの聴覚障害者（ろう者）とのコミュニケーションが取れるようにする。

到達目標

聴覚障害者（ろう者）と手話についての基礎的な知識を学び、手話の基本的な単語約 350 語と指文字、数字などを覚え、簡単な日常会話ができるようにする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 聴覚障害と手話の基本知識 手話の基本技術①（指文字と名前に使う手話）
- 第 2 回 手話の基本技術②（家族の手話表現）
- 第 3 回 手話の基本技術③（数字の手話表現）
- 第 4 回 手話の基本技術④（趣味などの手話表現）
- 第 5 回 手話の基本技術⑤（仕事などの手話表現）
- 第 6 回 手話の基本技術⑥（住所などの手話表現）
- 第 7 回 手話の基本技術⑦（一日の生活の手話表現）
- 第 8 回 手話の基本技術⑧（一月…の手話表現）ミニテスト（30 分程度）
- 第 9 回 手話の基本技術⑨（一年…の手話表現）
- 第 10 回 手話の基本技術⑩（集まり計画の手話表現）
- 第 11 回 手話の基本技術⑪（旅行の手話表現）
- 第 12 回 手話の基本技術⑫（病院の手話表現）
- 第 13 回 手話の基本技術⑬（学校での手話表現）
- 第 14 回 手話の基本技術⑭（職場での手話表現）
- 第 15 回 手話表現練習（学生各人が覚えた手話を使って 3 分程度の話をする・全員）

評価方法

手話演習参加度 20%、手話表現力 30%、筆記試験（手話の読み取りを中心とする）50%

使用教材

開講時に担当者の作成したテキストを配布する

授業外学習の内容

授業時は実際に手話を覚えることを主とするので、テキストの解説等を必ず読んでおく。手話は『言語』であるので習得には繰り返すことが絶対に必要である。学ぶ語彙数が多いので必ず復習し覚えるようにすること。期末テストは読み取りが中心だが、自分の表現できない手話は絶対に読み取れないから、きちんと手話を覚えること。

備考

各種メディア等で学習することも良いが、ろう者との直接の交流が最も大切である。ただし、手話は地域差、年代差が大きいので、疑問質問は教師に聞くようにすること。また、手話を覚えるためには必ず教師の真似をして手を動かすように。頭だけでは絶対に覚えられない。手話技能検定・全国手話検定の 5 級程度の能力を付けたい。

介護の基本VI（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

原田 欣広

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 4 年前期 必修 2 単位

講義目標

介護の実践場面で、尊厳を支えるケアを具現化するために必要とされる知識や技術について総合的に理解する。

到達目標

利用者の尊厳を支えるケアとは何か理解し、支援する知識を修得する。また、これまで介護に関する技術に学んだことを具体的な場面にあわせて説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 介護サービスにおける尊厳を支えるケアの意義と目的
- 第 2 回 福祉施策における生活支援の意義と目的
- 第 3 回 戦後の社会福祉分野における介護の歩み
- 第 4 回 生活における介護の意義と目的
- 第 5 回 特別養護老人ホームにおけるケアの現状と課題
- 第 6 回 老人保健施設におけるケアの現状と課題
- 第 7 回 その他の高齢者入所施設におけるケアの現状と課題
- 第 8 回 知的障害者関連施設におけるケアの現状と課題
- 第 9 回 障害者関連施設におけるケアの現状と課題
- 第10回 高齢者デイサービスにおけるケアの現状と課題
- 第11回 小規模多機能型施設・グループホームにおけるケアの現状と課題
- 第12回 その他の居宅サービスにおけるケアの現状と課題
- 第13回 介護福祉士の倫理
- 第14回 介護サービスの向上に向けて－施設・事業所の運営
- 第15回 介護サービスの向上に向けて－家族支援

評価方法

筆記試験 100%

使用教材

プリント配布

授業外学習の内容

授業時に毎回指示するので内容を事前に学習し、発表できるように準備すること

備考

生活支援技術 I (専門展開科目 介護福祉コース)

担当者

堀口 美奈子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

介護を必要とする人の状況に合わせた生活支援技術を学び、根拠に基づいた介護が提供できる能力を身につける。

到達目標

- ①生活場面に応じた基礎的な介護に関する技術や知識、態度を習得し、実践できる。
- ②実践する生活支援技術について、実践の根拠を自分の言葉で説明できる。
- ③演習を通して自分自身を知り、他者を理解するとともに、他者に配慮した行動をとることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション、「生活」と「生活支援」の理解
- 第 2 回 自立に向けた睡眠・移動の介護と居住環境の整備
- 第 3 回 自立に向けた睡眠の介護と居住環境の整備
- 第 4 回 自立に向けた移動の介護と居住環境の整備
- 第 5 回 自立に向けた睡眠・移動の介護
- 第 6 回 自立に向けた移動の介助
- 第 7 回 自立に向けた食事の介護
- 第 8 回 自立に向けた身じたくの介護
- 第 9 回 自立に向けた排泄の介護
- 第10回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護①
- 第11回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護②
- 第12回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護③
- 第13回 終末期の介護
- 第14回 自立に向けた居住環境の整備
- 第15回 まとめ

評価方法

定期試験 50%、レポート課題 30% (定められた期限までの提出のみ評価対象とする)、授業参加度・貢献度 20%

使用教材

授業時に提示する。必要に応じて授業時にレジュメや資料を配布する。

授業外学習の内容

本科目は演習を通して、自分なりの介護観を深めることに主眼を置いているため、毎回の授業時、当日演習内容を基にしたレポート課題を課し、期日を決めて提出を求める。

備考

授業準備や後片付け、使用教室の清掃は、生活を支える介護を学ぶ授業の一環として共同で行う。また、講義・演習時間を確保するために、授業日毎に担当を決めて事前準備を行う。

生活支援技術Ⅱ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

堀口 美奈子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

介護を必要とする人の状況に合わせた生活支援技術を学び、根拠に基づいた介護が提供できる能力を身につける。

到達目標

- ①生活場面に応じた介護に関する技術や知識、態度の理解を深め、それらを統合して実践できる。
- ②実践する生活支援技術について、実践の根拠を自分の言葉で説明できる。
- ③授業を通して自分自身を知り、他者を理解するとともに、他者に配慮した行動をとることができる。

講義内容と講義計画

- | | | |
|-------|-----------------|----------------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション、実践的展開 | ①自立に向けた睡眠の介護と居住環境の整備 |
| 第 2 回 | 実践的展開 | ②自立に向けた移乗の介護 |
| 第 3 回 | 実践的展開 | ③自立に向けた移動の介護 |
| 第 4 回 | 実践的展開 | ④自立に向けた身じたくの介護 |
| 第 5 回 | 実践的展開 | ⑤自立に向けた排泄の介護 |
| 第 6 回 | 実践的展開 | ⑥自立に向けた食事の介護 |
| 第 7 回 | 実践的展開 | ⑦自立に向けた入浴・清潔保持の介護 |
| 第 8 回 | 実践的展開 | ⑧自立に向けた居住環境の整備 |
| 第 9 回 | 実践的展開 | ⑨重介護度者に対する介護 |
| 第10回 | 実践的展開 | ⑩実践的展開のまとめ |
| 第11回 | 総合的展開 | ①事例 |
| 第12回 | 総合的展開 | ②事例 |
| 第13回 | 総合的展開 | ③事例 |
| 第14回 | 総合的展開 | ④事例 |
| 第15回 | まとめ | |

評価方法

定期試験 50%、レポート課題 30%（定められた期限までの提出のみ評価対象とする）、授業参加度・貢献度 20%

使用教材

授業時に提示する。必要に応じて授業時にレジюмеや資料を配布する。

授業外学習の内容

本科目は演習を通して、自分なりの介護観を深めることに主眼を置いているため、毎回の授業時、当日演習内容を基にしたレポート課題を課し、期日を決めて提出を求める。

備考

授業準備や後片付け、使用教室の清掃は、生活を支える介護を学ぶ授業の一環として共同で行う。また、講義・演習時間を確保するために、授業日毎に担当を決めて事前準備を行う。

生活支援技術Ⅲ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

内田 幸子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

介護福祉士として知っておくべき被服素材の特徴及び鑑別の実験、被服管理実習を通し、高齢者・障害者の自立に向けた身じたくへの介護方法を実践的に身につけることを目的とする。さらに室内環境整備、清掃技術と住居管理、安全性への配慮と防災、高齢者・障害者の自立に向けた居住環境整備も実践的に把握する。

到達目標

介護福祉士として基礎的な生活支援技術を獲得できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 被服素材の特徴と鑑別
- 第 2 回 高齢者・障害者に適した被服素材の特徴と鑑別
- 第 3 回 被服管理実習Ⅰ
- 第 4 回 被服管理実習Ⅱ
- 第 5 回 自立に向けた身じたくの介護実践Ⅰ（高齢者の衣服、下着、靴、靴下）
- 第 6 回 自立に向けた身じたくの介護実践Ⅱ（障害者のための衣服の工夫）
- 第 7 回 自立に向けた身じたくの介護実践Ⅲ（介護のための寝装品、寝衣、おむつ、小物）
- 第 8 回 室内環境整備Ⅰ
- 第 9 回 室内環境整備Ⅱ
- 第 10 回 清掃技術と住居管理Ⅰ
- 第 11 回 清掃技術と住居管理Ⅱ
- 第 12 回 安全性への配慮と防災
- 第 13 回 自立に向けた居住環境整備の実践Ⅰ（バリアをなくすための居住環境整備とその効果）
- 第 14 回 自立に向けた居住環境整備の実践Ⅱ（介護保険制度における居住環境の整備）
- 第 15 回 自立に向けた居住環境整備の実践Ⅲ（バリアフリーの建築的配慮）

評価方法

授業参加度、学期末試験を総合的に評価していくが、評価方法の詳細な基準は初回時に提示する。

使用教材

授業初回時に提示する。他に授業時にプリントを配布する。

授業外学習の内容

授業内容の理解を深めるための小レポートを課します。

備考

メールアドレス uchida@takasaki-u.ac.jp

生活支援技術Ⅳ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

戸田 貞子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

基礎的な家庭経営について理解する。自立に向けた家事の介護の理解と技術の修得をめざす。各機能が低下した高齢者・障害者のための献立作成と栄養価計算を実施し、その内容を調理実習に活かす。自立に向けた食事の介護と「おいしく食べる」ことを支える介護を経験し、技術を養う。

到達目標

家庭生活の経営と管理、および高齢者・障害者の自立に向けた家事の介護を修得する。高齢者・障害者のための献立作成と栄養価計算を行い、調理実習によって知識を実践的なものとする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 家庭生活の理解
- 第 2 回 生活設計、生活支援
- 第 3 回 自立支援と家事援助
- 第 4 回 高齢者・障害者の自立に向けた家事の介助①消費生活
- 第 5 回 高齢者・障害者の自立に向けた家事の介助②家庭経営、家計の管理
- 第 6 回 高齢者・障害者の自立に向けた食事の介助
- 第 7 回 高齢者・障害者のための献立作成と栄養価計算Ⅰ
- 第 8 回 高齢者・障害者のための献立作成と栄養価計算Ⅱ
- 第 9 回 調理実習 基礎調理①
- 第10回 調理実習 基礎調理②
- 第11回 調理実習 基礎調理③
- 第12回 調理実習 介護食①
- 第13回 調理実習 介護食②
- 第14回 加工食品の活用と保存（配食サービスの利用を含む）
- 第15回 おいしく食べることを支える介護

評価方法

授業参加度及び実習意欲、課題等の提出により評価する。

使用教材

調理器具全般と介護者用調理器具

授業外学習の内容

献立作成したメニューを自宅で作成（実践）し、写真ととってから第三者（家族など）に評価してもらう。

備考

生活支援技術Ⅴ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

松沼 記代

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

介護の実践場で尊厳を支えるケアを具現化するために、利用者の生活の楽しみや生きがいを支えるレクリエーションサービスについて学修する。対象者別の支援方法について理解する。

到達目標

社会福祉及び介護実践におけるレクリエーションの意義、実践、課題、及び福祉レクリエーションワーカーの役割を理解し、実践する上で必要な基本的知識、技術、価値観を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1・2 回 介護サービスにおける尊厳を支えるケアと福祉レクリエーションのあり方
- 第 3・4 回 福祉レクリエーション支援の理解 ①楽しさの追求 ②楽しさを見通すための方法
- 第 5・6 回 福祉レクリエーション支援の理解 ③歩み
- 第 7・8 回 福祉レクリエーション支援の理解 ④支援者のあり方
- 第 9・10 回 楽しさ追求のための支援の方法 ①APIE プロセス
- 第11・12 回 楽しさ追求のための支援の方法 ②TR サービスモデル ③行動変容と自己効力感
- 第13・14 回 高齢者の尊厳を支えるための福祉レク計画（在宅編）
- 第15・16 回 高齢者の尊厳を支えるための福祉レク支援（在宅編）
- 第17・18 回 高齢者の尊厳を支えるための福祉レク計画（入所施設編）
- 第19・20 回 高齢者の尊厳を支えるための福祉レク支援（入所施設編）
- 第21・22 回 高齢者の尊厳を支えるための福祉レク計画（介護予防）
- 第23・24 回 高齢者の尊厳を支えるための福祉レク支援（介護予防）
- 第25・26 回 障がい児・者の尊厳を支えるための福祉レク計画
- 第27・28 回 障がい児・者の尊厳を支えるための福祉レク支援
- 第29・30 回 児童を対象にした福祉サービスでの実践例とまとめ

評価方法

試験 70%、レポート課題 20%、授業態度 10%

使用教材

公益財団法人日本レクリエーション協会編集「楽しさの追及を支える理論と支援の方法」2013

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

本科目履修により、福祉レクリエーション・ワーカー養成課程指定科目「福祉レクリエーション論」に読み替える。

介護過程 I (専門展開科目 介護福祉コース)

担当者

原田 欣宏

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

生活の場で介護がどのように展開されているか、自分が見てきたことや自然に感じてきたことを振り返り、自分の生活について知り、他者の暮らし方や他者との関わりについて学び介護過程を実践する基礎を学修する。

到達目標

「介護過程」の展開を学ぶ前に生活とは何かを考える。その生活の過程を展開するとはどのようなことか、その理由が考えられ、さらに介護の過程を展開するとはどのような意義があるのかを理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 介護過程展開を学ぶ前の導入「暮らし」について
- 第 2 回 人間と生活（自己の生活の振り返り）（私の過ごし方記入）
- 第 3 回 「暮らし」について調べてみよう
- 第 4 回 暮らしからみえて来たものグループワーク
- 第 5 回 「かかわり」について考える 対人支援の特質 支援関係におけるコミュニケーション
- 第 6 回 関わりについて考える・対人支援の特質
- 第 7 回 「関わり」の基本について、コミュニケーション演習
- 第 8 回 相手の立場になって考える（ワークシート）演習
- 第 9 回 「関わり」から見えてきたもの（ワークシート）演習
- 第 10 回 介護過程の展開（気づきを介護過程の展開に生かす）
- 第 11 回 介護過程の視点に気づくために（思いや願いに気づく）
- 第 12 回 アセスメントとは・アセスメントに必要な事実の捉え方○事例を通してロールプレイ演習
- 第 13 回 情報の収集・分析・解釈・統合について
- 第 14 回 介護過程の意義・介護過程の構造について
- 第 15 回 介護過程 I の前期の振り返り・まとめ

評価方法

- ・課題レポート提出 30%
- ・グループワークの参加度 20%
- ・期末試験 50%

使用教材

介護福祉教育研究会方式「たのしく学ぶ介護過程」kumi 出版 2012 年 9 月

授業外学習の内容

自分の親族に授業で扱った問題を照らし合わせ、理解を深めるように努めること。また、支援を必要とする人の生活背景を理解するために歴史や時事問題に関心を持ち、TV や本などで情報に意識してふれること。

備考

介護過程Ⅱ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

原田 欣宏

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

介護過程Ⅰで学んだことをベースにして、どのような生活場面であれ課題を理解し目標を定め、求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要であることを理解する。

到達目標

介護過程Ⅰで学修した知識や技術を踏まえて、介護過程の展開ができる思考過程を学修する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 介護過程Ⅰの振り返り 介護過程Ⅱの目的、目標
- 第 2 回 介護過程の意義 課題解決思考を知る（個人ワーク）
- 第 3 回 介護過程の意義 課題解決思考を知る（グループワーク・発表）
- 第 4 回 課題解決思考過程の概要 国試に向けて小テスト
- 第 5 回 課題解決思考過程を体験する（個人ワーク）
- 第 6 回 課題解決思考過程を体験する（グループワーク・発表）
- 第 7 回 介護過程の構造と構成要素 ①アセスメント ②情報収集
- 第 8 回 ③情報の分析・解釈 ④生活課題
- 第 9 回 介護過程の展開の理解 模擬試験
- 第10回 介護過程の全体像 ICF の視点に基づくアセスメント
- 第11回 介護計画の立案 ①長期目標 ②短期目標 ③期限 ④具体的方法
- 第12回 介護計画の立案 ④具体的方法 ⑤評価
- 第13回 学生が介護実習で介護計画を立案する時の留意点
- 第14回 介護過程展開の実際 事例より学ぶ 個人グループ
- 第15回 介護過程展開の実際 事例より学ぶ グループ発表、介護過程Ⅱの振り返り・まとめ

評価方法

レポート課題提出 30%、グループ討議への貢献度 20%、筆記試験 50%

使用教材

介護福祉教育研究会方式「たのしく学ぶ介護過程」kumi 出版 2012 年 9 月

授業外学習の内容

事例の中で不明な専門用語を事前に調べて授業にのぞむこと。

備考

介護過程ⅠⅡ共に介護計画を立案する為の基礎であり思考過程が重要となります。日頃から自己の課題解決の方法を考える訓練が必要となります。さらに利用者主体であることを常に頭において介護過程を学んで下さい。事例を通じて介護過程Ⅱでは演習を行います。集中して学習できるように努力して下さい。

介護過程Ⅲ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

堀口 美奈子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

介護過程が利用者の生活を維持するために必要不可欠であることを理解し、事例から解決すべき生活上の課題を挙げられるようになる。

到達目標

- ①事例を通して情報の収集、分析、解釈、判断を行うことができる。
- ②事例から得られた判断を統合し、生活全般における解決すべき課題を挙げることができる。
- ③自分の考えた介護過程について、根拠を示しながら相手に伝わるよう説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション、介護過程の意義
- 第 2 回 情報収集とアセスメント
- 第 3 回 介護過程の基礎的展開 ①事例確認、情報収集・整理
- 第 4 回 介護過程の基礎的展開 ②情報の分析・解釈・判断
- 第 5 回 介護過程の基礎的展開 ③課題とその根拠の明確化
- 第 6 回 介護過程の基礎的展開 ④得られた課題の優先順位付け
- 第 7 回 介護過程の実践的展開 ①事例確認、情報の収集
- 第 8 回 介護過程の実践的展開 ②情報の分析・解釈・判断
- 第 9 回 介護過程の実践的展開 ③項目別情報分析・解釈・判断
- 第10回 介護過程の実践的展開 ④項目別統合化・課題・課題根拠の明確化
- 第11回 介護過程の実践的展開 ⑤項目別情報分析・解釈・判断
- 第12回 介護過程の実践的展開 ⑥項目別統合化・課題・課題根拠の明確化
- 第13回 介護過程の実践的展開 ⑦項目別情報分析・解釈・判断
- 第14回 介護過程の実践的展開 ⑧項目別統合化・課題・課題根拠の明確化と優先順序の検討
- 第15回 まとめ

評価方法

定期試験 50%、事例課題シート 20%、グループ討議等への参加度・貢献度 30%

使用教材

授業時にレジユメ・資料を配布する。配布資料は、毎回持参すること。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予測し、事例について必要な内容、箇所を理解しておくこと。また、事例課題シートは授業進行によって提出を求めるため、到達すべき目標までできていない場合には宿題となる。

備考

授業は、個人ワークやグループワークの形態で実施し、まとめたことの発表や討議、振り返りを行う中でクラスメイトとともに介護過程を展開する力を育てることを目指しているため、出席することが基本となる。

介護過程Ⅳ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

堀口 美奈子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

介護を行うのに必要な「情報収集、計画、実施、評価」という一連の介護過程展開の方法を学び、科学的な問題解決方法に基づいた根拠のある介護サービスが提供できる能力を身につける。

到達目標

- ①介護過程が介護の専門的知識・技術からなる介護実践の全体像であることを理解できる。
- ②事例について、介護過程の展開方式を用いて具体的な介護計画を立案し、実施や評価を行える。
- ③自分の考察した介護過程について、根拠を示しながら相手に伝わるよう説明できる。

講義内容と講義計画

第 1 回	オリエンテーション	
第 2 回	介護過程の応用的展開	①事例確認、情報収集・整理
第 3 回	介護過程の応用的展開	②情報の分析・解釈・判断・統合化、課題の明確化
第 4 回	介護過程の応用的展開	③情報の分析・解釈・判断・統合化、課題の明確化
第 5 回	介護過程の応用的展開	④情報の分析・解釈・判断・統合化、課題の明確化
第 6 回	介護過程の応用的展開	⑤挙げられた課題に対する計画の立案
第 7 回	介護過程の応用的展開	⑥挙げられた課題に対する計画の立案
第 8 回	介護過程の応用的展開	⑦実施と評価
第 9 回	介護過程の発展的展開	①事例確認、情報収集・整理
第10 回	介護過程の発展的展開	②情報の分析・解釈・判断と統合化、課題の明確化
第11 回	介護過程の発展的展開	③情報の分析・解釈・判断と統合化、課題の明確化
第12 回	介護過程の発展的展開	④挙げられた課題に対する計画の立案
第13 回	介護過程の発展的展開	⑤挙げられた課題に対する計画の立案
第14 回	介護過程の発展的展開	⑥実施・評価
第15 回	まとめ	

評価方法

定期試験 50%、事例課題シート 20%、グループ討議等への参加度・貢献度 30%

使用教材

授業時にレジユメ・資料を配布する。配布資料は、毎回持参すること。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予測し、事例について必要な内容、箇所を理解しておくこと。また、事例課題シートは授業進行によって提出を求めるため、到達すべき目標までできていない場合には宿題となる。

備考

授業は、個人ワークやグループワークの形態で実施し、まとめたことの発表や討議、振り返りを行う中でクラスメイトとともに介護過程を展開する力を育てることを目指しているため、出席することが基本となる。

介護過程Ⅴ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

原田 欣宏

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

実習の経験を踏まえて、専門職として実践的な「介護過程の展開」とは何かを理解し、必要なスキルを身につける。他職種との連携における介護福祉士の役割を自覚する。

到達目標

- ①実習で体験した介護過程の展開を用いながら、他職種との連携について具体的な事例を説明することができる
- ②本人、家族の意向をふまえながら立案する介護計画の課題について理解することができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 介護過程とチームアプローチの実際 ①ケアサービスの実際
- 第 2 回 ②介護実習Ⅲでの実践内容
- 第 3 回 ③実習施設におけるケアカンファレンスの実際
- 第 4 回 ④模擬カンファレンス
- 第 5 回 介護過程における説明と同意①介護サービスを受ける本人と家族介護者の立場を理解
- 第 6 回 ②家族介護者の立場から貴重な体験を聴く
- 第 7 回 ③介護過程における説明と同意の重要性の理解
- 第 8 回 アセスメントツールの活用①アセスメントツールを使用した体験の共有
- 第 9 回 ②それぞれの視点や方法論などの特徴の理解
- 第10回 ③アセスメントツールの活用、限界の理解
- 第11回 ④アセスメントツールの思考の元に作りあげられてきたのかを理解する
- 第12回 終末期の介護過程①死を多角的な視点で理解する
- 第13回 ②自らの死生観と共有することの必要性の理解
- 第14回 ③人が死んだ後、どのような事柄が待っているか
- 第15回 専門職としてあるべき姿を見ずえるー信頼される介護福祉士とは

評価方法

レポート、課題の提出 30%、グループ討議への貢献度 20%、筆記試験 50%

使用教材

授業時にレジюме・資料を配布する

授業外学習の内容

事例の中で不明な専門用語を事前に調べて授業にのぞむこと。

備考

介護総合演習 I (専門展開科目 介護福祉コース)

担当者

松沼記代、渡邊洋子、原田欣宏、堀口美奈子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

介護実習 I にむけて必要な技術と知識を修得する。また、介護福祉士になるために必要な自己の課題を明確にし、自分で学ぶ力を培う。実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学修とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学修とする。

到達目標

- ①基本的な介護技術や知識が、具体的な介護につながる過程を理解することができる
- ②介護実習 I の目的や目標を理解し、実習で学ぶことを具体的に説明することができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス、実習全体の理解
- 第 2 回 介護実習施設の機能及び役割 ①施設サービス法的位置づけ
- 第 3 回 介護実習施設の機能及び役割 ②居宅サービス法的位置づけ
- 第 4 回 介護実習施設の機能及び役割 ③障害者サービス法的位置づけ
- 第 5 回 介護実習施設の利用者の身体的・精神的・社会的特徴の理解 ①
- 第 6 回 介護実習施設の利用者の身体的・精神的・社会的特徴の理解 ②
- 第 7 回 障害を持つ利用者とのコミュニケーションの方法
- 第 8 回 実習記録の意義や記載方法の理解 ①日誌の書き方実践
- 第 9 回 介護実習 I の目標、課題の明確化 ①
- 第10回 介護実習 I の目標、課題の明確化 ②
- 第11回 介護実習 I の目標、課題の明確化 ③
- 第12回 介護実習 I の目標、課題の明確化 ④
- 第13回 施設オリエンテーションの実施方法について
- 第14回 実習記録の意義や記載方法の理解 ②プロセスレコードの書き方実践
- 第15回 実習直前ガイダンス (書類確認、情報交換など)

評価方法

- 学習態度 40% (授業中、グループ演習時の態度)
 課題の理解度 30% (授業時の演習、課題に対する理解度)
 提出物 30% (個人票、誓約書など必要書類の内容及び提出状況)

使用教材

実習のてびき、プリント配布

授業外学習の内容

介護実習報告書を精読し、実習目標や課題の内容を理解すること。
 次回の授業内容の範囲を予習して、専門用語の意味を調べ理解すること

備考

介護総合演習Ⅱ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

松沼記代、渡邊洋子、原田欣宏、堀口美奈子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

利用者個別のニーズを理解できる能力をつけるための学修を行う。そのためにアセスメントの実施方法について学ぶ。また、介護実習Ⅰの学びを振り返り、次の実習に向けて介護実習前の介護技術の確認や実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学修とする。

到達目標

- ①利用者やスタッフとのコミュニケーションをより深化したものになるように、ニーズの把握に必要な知識を身に付けることができる
- ②介護過程の展開をふまえた記録の作成について理解することができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 介護実習Ⅰまとめ ①
- 第 2 回 介護実習Ⅰまとめ ②
- 第 3 回 介護実習Ⅰまとめ ③
- 第 4 回 介護実習Ⅰまとめ ④、評価フィードバック
- 第 5 回 介護実習施設の機能及び役割、法的位置づけの理解 ①
- 第 6 回 介護実習施設の機能及び役割、法的位置づけの理解 ②
- 第 7 回 具体的な介護過程の展開 ①食事
- 第 8 回 具体的な介護過程の展開 ②排泄
- 第 9 回 介護実習Ⅱの目標、課題の明確化 ①
- 第10回 介護実習Ⅱの目標、課題の明確化 ②
- 第11回 具体的な介護過程の展開 ③入浴
- 第12回 具体的な介護過程の展開 ④移動
- 第13回 実習中の対応困難の場面討議 ①
- 第14回 実習中の対応困難の場面討議 ②
- 第15回 実習直前ガイダンス

評価方法

学習態度 40%（授業中、グループ演習時の態度）、課題の理解度 30%（授業時の演習、課題に対する理解度）、提出物 30%（個人票、誓約書など必要書類の内容及び提出状況）

使用教材

実習のてびき、プリント配布

授業外学習の内容

介護実習報告書を精読し、実習目標や課題の内容を理解すること。
次回の授業内容の範囲を予習して、専門用語の意味を調べ理解すること

備考

介護総合演習Ⅲ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

松沼記代、渡邊洋子、原田欣宏、堀口美奈子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

- ①介護過程の展開を実践するために利用者のニーズをアセスメントによって把握して、介護計画を立案できるための知識と技術を修得する。
- ②介護実習Ⅱの実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設け、振り返りながら効果的な実習を行う。
- ③次の実習にむけて、介護実習前の生活支援技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

到達目標

- ①介護実習Ⅱにおいて実践した障害レベルによる利用者のニーズの差異、利用者特性を理解し、個々に応じた援助技術を、これまで学んだ知識と技術を用いて説明することができる。
- ②それぞれの介護場面において、利用者のニーズに合わせた生活支援技術が、施設や事業所の設備、福祉用具、在宅における環境整備の工夫と、各専門職との連携によって提供されるケアであることを説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 帰校日指導
- 第 2 回 介護実習Ⅱまとめ ①
- 第 3 回 介護実習Ⅱまとめ ②
- 第 4 回 介護実習Ⅱまとめ ③
- 第 5 回 介護実習Ⅱまとめ ④、評価フィードバック
- 第 6 回 アセスメントの方法 ①介護計画の作成についての概要
- 第 7 回 アセスメントの方法 ②事例の情報整理
- 第 8 回 アセスメントの方法 ③用紙の記入
- 第 9 回 アセスメントの方法 ④発表
- 第10回 介護実習Ⅲの目標、課題の明確化 ①
- 第11回 介護実習Ⅲの目標、課題の明確化 ②
- 第12回 介護実習施設の機能及び役割、法的位置づけの理解
- 第13回 実習中の対応困難の場面討議
- 第14回 事例研究の必要性和具体的な記述方法
- 第15回 実習直前ガイダンス（書類確認、検査結果の配布など）

評価方法

学習態度 40%（グループ演習や授業への貢献度） 課題の理解度 30%（授業時の演習、課題に対するの理解度） 提出物 30%（個人票、誓約書など必要書類の内容及び提出状況）

使用教材

実習の手引き、レジュメ及び資料を配布

授業外学習の内容

介護実習報告書を精読し，実習目標や課題の内容を理解すること
次回の授業内容の範囲を予習して，専門用語の意味を調べ理解すること

備考

介護総合演習Ⅳ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

松沼記代、渡邊洋子、原田欣宏、堀口美奈子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

介護実習Ⅲの実習期間中に学生が学内で学習する日を計画的に設け、振り返りながら効果的な実習を行い、介護計画について理解を深める。

実習で受け持ったケース研究を行うことで、ケアを提供する根拠を明確にする。

到達目標

①介護実習Ⅲにおいて実践した、受け持ち利用者に対するアセスメントに基づく介護計画について、これまで学んだ知識と技術を用いて説明することができる。

②実習報告書を作成し、実習において実践したことを教科書や書籍、資料などの文献を引用しながらケア観を説明することができる。

③実習報告会における実践報告を通して、簡潔に説明し、質疑に応答することができる。

講義内容と講義計画

第 1 回 帰校日指導

第 2 回 介護実習Ⅲまとめ ①

第 3 回 介護実習Ⅲまとめ ②

第 4 回 介護実習Ⅲまとめ ③

第 5 回 事例検討とは

第 6 回 テーマ設定と文献の扱い方

第 7 回 事例検討の具体的な記述方法 ①

第 8 回 事例検討の具体的な記述方法 ②

第 9 回 事例検討の具体的な記述方法 ③

第10回 事例検討の具体的な記述方法 ④

第11回 事例検討の具体的な記述方法 ⑤

第12回 プレゼンテーションについて ①

第13回 プレゼンテーションについて ②

第14回 事例検討発表会

評価方法

学習態度 30%（グループ演習や授業への貢献度） 課題の理解度 30%（授業時の演習、課題に対する理解度） 提出物 40%（実習報告書の作成に関するレポートなどの提出状況）

使用教材

実習の手引き、プリント配布

授業外学習の内容

介護実習報告書を精読し、実習目標や課題の内容を理解すること

次回の授業内容の範囲を予習して、専門用語の意味を調べ理解すること

備考

介護実習 I (専門展開科目 介護福祉コース)

担当者

松沼記代、渡邊洋子、原田欣宏、堀口美奈子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

【実習の目的】利用者との交流を通じて、個々のニーズと介護の機能並びに施設職員の役割について学ぶ。

到達目標

- 1) 施設や事業所の概要を把握し、特徴を理解する。
- 2) 介護職員の役割を知る。
- 3) 利用者の生活環境について理解する。
- 4) 利用者の個別性や特性について理解する。
- 5) 利用者とのコミュニケーションを図る。
- 6) 介護技術の原則に沿って指導者と共に介助を実施する。
- 7) 介護者としての自己の課題を明確にする。
- 8) 介護関係の記録の様式について学ぶ

講義内容と講義計画

実習施設の実習指導者によって立案される実習計画により、以下の点を実施する。

- 1) 施設・事業所の沿革、事業内容、利用者の特性と、施設内の構造の特徴、配置の配慮を学ぶ
- 2) 介護職員の業務内容と、他職種の役割について学ぶ
- 3) 居室・ホールなどの生活スペースおよび建物の構造、環境と利用者間、職員との人的環境を把握する
- 4) 利用者の一日の生活リズムを知る。また、外部刺激の必要性と意義、年齢、障害の種類、リハビリ、ADL、精神状態の把握、日常生活の状況を観察し、必要な介護をアセスメントする
- 5) 利用者の言語、表情、動作を理解した上でコミュニケーションを図り、信頼関係を築く利用者のニーズを把握する
- 6) 学内で身につけた介護技術を用い、指導者と共に介助の実際を行う。
- 7) 実習を通して気づいたこと、学んだことについて、職員との関わり利用者との関わりから現段階での自己の介護観を見出す
- 8) 介助したことを原則に沿って記録する。また記録の重要性を知る

評価方法

実習課題 40% (日誌、レポートなどの記録)

介護実習評価票 40% (施設からの評価票)

教員評価 20% (手引きの「1. 目的、2. 目標、3. 具体的目標と内容」に関する巡回指導時の口頭報告内容)

使用教材

実習の手引き

授業外学習の内容

実習指導者から指摘された項目について、関連の教科書などを用いて調べ理解すること

介護総合演習で用いた授業資料、教科書を用いて、授業課題に必要な知識と技術を整理すること

備考

介護実習Ⅱ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

松沼記代、渡邊洋子、原田欣宏、堀口美奈子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 2 年前期 必修 4 単位

講義目標

【実習の目的】利用者の障害のレベルによるニーズの違い、利用者の特性を理解し、個々に応じた援助技術を修得する。

到達目標

- 1) 実習施設的环境や概況を理解する。
- 2) 介護職員の 1 日の業務内容や実習施設の社会的役割について理解する。
- 3) 利用者と積極的に交流を図り、コミュニケーション技術を修得する。
- 4) 高齢者や障害（児）者の特徴を理解した上で、個々に応じた介護技術を修得する。
- 5) 利用者のニーズを把握するためのアセスメントについて理解する。
- 6) 障害者の自立支援と社会資源の活用について理解する。
- 7) 介護職員間及び他の専門職種との連携について理解する。
- 8) 施設における記録の実際について学び、記録の意義について理解する。
- 9) 介護者のあり方及び自己の学習課題を理解する。

講義内容と講義計画

実習施設の実習指導者によって立案される実習計画により、以下の点を実施する。

- 1) 施設種別の特性や周辺環境を理解する
- 2) 利用者の施設での生活の理解、介護職員の業務と役割、施設の社会的役割、家族や家族会への対応について学ぶ
- 3) 利用者の話への傾聴、表情や仕草の観察からニーズの把握、利用者の個性の違いの理解と、聴覚障害、視覚障害、運動障害等のある利用者とのコミュニケーション技術を修得する
- 4) 利用者の障害の程度に応じた環境整備の理解と援助技術の修得を学ぶ
- 5) 利用者の身体的状態、利用者の心理的状況、社会的環境・関係の把握する方法を学ぶ
- 6) 障害者の自立への過程や発達保障の視点と人権尊重、自立支援、地域ボランティア、自立生活福祉用具の給付や貸与の制度について理解する
- 7) 介護職員間及び他の専門職種との連携を理解する

評価方法

実習課題 40%（日誌、レポート、アセスなどの記録）、介護実習評価票 30%（施設からの評価票）、教員評価 30%（手引きの「1. 目的、2. 目標、3. 具体的目標と内容」に関する巡回指導時の口頭報告内容）

使用教材

実習の手引き

授業外学習の内容

実習指導者から指摘された項目について、関連の教科書などを用いて調べ理解すること
介護総合演習で用いた授業資料、教科書を用いて、授業課題に必要な知識と技術を整理すること

備考

介護実習Ⅲ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

松沼記代、渡邊洋子、原田欣宏、堀口美奈子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 2 年後期 必修 4 単位

講義目標

【実習の目的】

在宅で生活する利用者の生活形態や家族関係、介護・福祉・医療面などを施設で生活する利用者のニーズと比較し、その差異について理解する。

利用者の障害別、障害程度によるサービス提供の違いや、個別援助について理解する。

到達目標

- 1) 利用者の住環境を理解し、施設、事業所と在宅との相違点について理解する。
- 2) 利用者と積極的にコミュニケーションを図り信頼関係を築く。
- 3) 利用者の抱えている介護、福祉、医療ニーズについて理解する。
- 4) ケアマネジメントについて理解を深める。
- 5) 利用者に適した介護方法を選択し、実施した介護が適切であったか評価する。
- 6) 家族等の状況について理解し、支援や配慮すべき点について学ぶ
- 7) 利用者のプライバシーの保護、守秘義務の重要性について学ぶ
- 8) 実習成果をまとめ

講義内容と講義計画

実習施設の実習指導者によって立案される実習計画により、以下の点を実施する。

- 1) 施設種別の特性や周辺環境の理解
- 2) 利用者の施設での生活、介護職員の業務と役割、交代勤務、夜間業務の理解、施設の社会的役割、家族や家族会への対応、ボランティアへの対応について学ぶ
- 3) 利用者の特徴の理解、生活の把握、利用者の背景や現在の生活状況、本人の意思確認から出来ることを検証するとともに、経済活動の状況、嗜好品の購入、小遣いの管理の状況の把握する
- 4) 介護の実践を通して学ぶ
- 5) 個別の自立にむけた介護方法の理解と対応
- 6) 家族の ADL 状況への理解、心理状態、認知用などの理解、制度についての理解、家族などの人間関係について把握する方法を学ぶ
- 7) 生きがいの援助や利用者のニーズに応じたレクリエーション活動の準備、実施する
- 8) 介護支援専門員や生活相談員、生活支援員の業務や役割を理解する
- 9) 施設におけるケアプランの意義と目的、位置づけ、利用者の社会資源（人、モノ組織）の活用方法の理解
- 10) 職種（栄養士・PT・OT・ST・看護師・医師・指導員）との連携を理解する。
- 11) 認知症高齢者の行動の理解とケアの方法を学ぶ
- 12) 感染予防を理解する—感染予防の実施、感染予防マニュアルについて学ぶ
- 13) 高齢者や障害者の人格の尊重、人権擁護、プライバシーの保護のあり方について学ぶ
- 14) 利用者の介護面を通して自己の介護観の認識、介護目標の到達度の確認

評価方法

実習課題 40%（日誌、レポート、アセスメントシート等）、介護実習評価票 30%（施設からの評価票）、教員評価 30%（手引きの「1. 目的、2. 目標、3. 具体的目標と内容」に関する巡回指導時の口頭報告内容）

使用教材

実習の手引き

授業外学習の内容

実習指導者から指摘された項目について、関連の教科書などを用いて調べ理解すること
介護総合演習で用いた授業資料，教科書を用いて，授業課題に必要な知識と技術を整理すること

備考

医療的ケア論 I (専門展開科目 介護福祉コース)

担当者

渡邊 洋子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを修得する。喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応するための基礎知識を修得する。

到達目標

医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを理解できる。喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応するための基礎知識を理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 人間と社会
- 第 2 回 保健医療制度とチーム医療 ①保健医療に関する制度と関係法規
- 第 3 回 保健医療制度とチーム医療 ②チーム医療と介護職との連携
- 第 4 回 安全な療養生活 ①たんの吸引や経管栄養の安全な実施
- 第 5 回 安全な療養生活 ②救急蘇生法
- 第 6 回 清潔保持と感染予防 ①感染予防及び職員の感染予防
- 第 7 回 清潔保持と感染予防 ②療養環境の清潔と消毒法 (滅菌・消毒)
- 第 8 回 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」 ①呼吸のしくみとはたらき
- 第 9 回 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」 ②たん吸引
- 第10回 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」 ③人工呼吸器と吸引
- 第11回 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」 ④子どもの吸引
- 第12回 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」 ⑤吸引を受ける利用者と家族への対応
- 第13回 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」 ⑥ヒヤリハット・アクシデント
- 第14回 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」 ⑦急変・事故発生への対応と医療職との連携
- 第15回 まとめ

評価方法

授業参加度 20%・レポート 30%・筆記試験 50%

評価方法等はガイダンス時にアナウンスする

使用教材

川井太加子編『医療的ケア』メヂカルフレンド社 ¥2800

講義時にレジюме及び資料を配布する

授業外学習の内容

単元ごとに使用教科書を精読し、内容の理解に努める

備考

私語 (状況により退室を促すことがある)・遅刻 (授業開始から 10 分までとする)・飲食 (交渉に応じ許可することがある)

医療的ケア論Ⅱ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

渡邊 洋子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 4 年前期 必修 2 単位

講義目標

医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを修得する。経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応するための基礎知識を修得する。

到達目標

医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを理解できる。喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応するための基礎知識を理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 療養環境の清潔
- 第 2 回 療養環境の消毒法
- 第 3 回 健康状態の把握 ①身体・精神の健康
- 第 4 回 健康状態の把握 ②バイタルサインと急変状態の対応
- 第 5 回 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 ①消化器系のしくみとはたらき
- 第 6 回 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 ②消化・吸収及び症状
- 第 7 回 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 ③経管栄養法と留意事項
- 第 8 回 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 ④生命維持における栄養・水分摂取・消化機能
- 第 9 回 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 ⑤経管栄養の内容とその知識
- 第10回 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 ⑥子どもの経管栄養法
- 第11回 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 ⑦経管栄養にかかわる感染と予防
- 第12回 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 ⑧経管栄養を受ける利用者と家族への対応
- 第13回 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 ⑨ヒヤリハット・アクシデント
- 第14回 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 ⑩急変・事故発生への対応と医療職との連携
- 第15回 まとめ

評価方法

授業参加度 20%・レポート 30%・筆記試験 50%
 評価方法等はガイダンス時にアナウンスする

使用教材

川井太加子編『医療的ケア』メヂカルフレンド社¥2800
 講義時にレジユメ及び資料を配布する

授業外学習の内容

単元ごとに使用教科書を精読し、内容の理解に努める

備考

私語（状況により退室を促すことがある）・遅刻（授業開始から 10 分までとする）・飲食（交渉に応じ許可することがある）

医療的ケア論Ⅲ（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

渡邊 洋子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 4 年前期 必修 1 単位

講義目標

医療的ケアに関連する基礎知識を修得した上で、高齢者及び障害児・者に対する喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応するための基礎知識を修得する。

到達目標

医療的ケアに関連する基礎知識を修得した上で、高齢者及び障害児・者に対する喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応するための基礎知識を理解できる。

講義内容と講義計画

1. 高齢者及び障害児・者の食事 ①DVD から経管栄養について考える
2. 高齢者及び障害児・者の食事 ②DVD から胃ろう腸ろうについて考える
3. 緊急時の対応 ①高齢者に多い突発事故への対応
4. 緊急時の対応 ②施設におけるリスクマネジメント
5. 在宅酸素療法 ①気管切開及び人工呼吸器のしくみ
6. 在宅酸素療法 ②吸引と吸入のしくみ
7. まとめ

評価方法

授業参加度 20%・レポート 30%・筆記試験 50%
評価方法等はガイダンス時にアナウンスする

使用教材

川井太加子編『医療的ケア』メヂカルフレンド社¥2800
講義時にレジユメ及び資料を配布する

授業外学習の内容

単元ごとに使用教科書を精読し、内容の理解に努める

備考

私語（状況により退室を促すことがある）・遅刻（授業開始から 10 分までとする）・飲食（交渉に応じ許可することがある）

医療的ケア演習（専門展開科目 介護福祉コース）

担当者

渡邊 洋子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科介護福祉コース 4 年前期 必修 1 単位

講義目標

喀痰吸引及びびに経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態に対応するための基礎知識に基づき、高齢者及び障害児者の痰の吸引及び、経管栄養をひとりで実施する。

到達目標

喀痰吸引及びびに経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態に対応するための基礎知識に基づき、高齢者及び障害児者の痰の吸引及び、経管栄養をひとりで実施し、評価を受けることができる。

講義内容と講義計画

- | | | |
|-------|--------------------|----------------------------|
| 第 1 回 | 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」 | ①吸引の準備と後片付け・器材のしくみと清潔保持 |
| 第 2 回 | 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」 | ②口腔及び鼻腔吸引の実際 |
| 第 3 回 | 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」 | ③気管カニューレ内吸引の実際・観察と記録及び報告方法 |
| 第 4 回 | 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 | ①経管栄養の準備と後片付け・器材のしくみと清潔保持 |
| 第 5 回 | 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 | ②胃瘻による経管栄養の実際・腸瘻による経管栄養の実際 |
| 第 6 回 | 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 | ③経鼻による経管栄養の実際・観察と記録及び報告方法 |
| 第 7 回 | 救急蘇生法 | ①成人の救急蘇生法の実際・子どもの救急蘇生法の実際 |
| 第 8 回 | まとめ | |

評価方法

授業参加度 50%・実技試験 50%

評価方法等はガイダンス時にアナウンスする

使用教材

川井太加子編『医療的ケア』メヂカルフレンド社 ¥2800

演習時にワークシート及び資料を配布する

授業外学習の内容

単元ごとに使用教科書を精読し、知識の理解に努める・ワークシートをもとに演習手順や内容の理解に努める

備考

私語（状況により退室を促すことがある）・遅刻（授業開始から 10 分までとする）・飲食（交渉に応じ許可することがある）

ケアマネジメント論（専門関連科目）

担当者

原田 欣宏

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

介護支援専門員（ケアマネジャー）という職種が世に出てから、ケアマネジメントという言葉は広く知られるようになった。しかし、それは介護保険制度の中で行われていることで、本来のケアマネジメントとは分けて考えなければならない。真に現場で実践するためには、利用者のニーズを分析し理解を深めることが重要である。また、現実のケアに結び付けるためには、多くの経験と知識によって裏付けが必要になる。

到達目標

- ①実際に使用されているケアプランをみて、立案までの思考過程を理解することができる
- ②在宅ケアプランと施設ケアプランの違いを説明することができる
- ③介護保険制度で行われているケアプランと、本来のケアマネジメントの共通部分と異なる部分について説明できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ケアマネジメントから何を学ぶか
- 第 2 回 ケアマネジメントができることは何か
- 第 3 回 ICF の理解
- 第 4 回 アセスメントの実際
- 第 5 回 利用者の問題とニーズの捉え方
- 第 6 回 必要なケアの把握と提供方法
- 第 7 回 提供できるサービスの内容①
- 第 8 回 提供できるサービスの内容②
- 第 9 回 高齢者在宅のケアプランの実際①
- 第10回 高齢者在宅のケアプランの実際②
- 第11回 高齢者施設のケアプランの実際①
- 第12回 高齢者施設のケアプランの実際②
- 第13回 ケアプランの制度上の位置づけと限界①
- 第14回 ケアプランの制度上の位置づけと限界②
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート（30%）、筆記試験（70%）、授業態度も加味して判断する。

使用教材

「服部万里子のケアマネジメント実践法」中央法規

授業外学習の内容

授業内で指示したキーワードを調べて専門用語の意味を理解した上で授業にのぞむこと。

備考

地方自治論（専門関連科目）

担当者

武井 昭信

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

私たちの身近で起きている行政、政治、経済などの社会実例を教材にして、わが国の地方分権社会における地方自治のあり方を学ぶ。

到達目標

地方自治を取り巻く出来事等が、どのような法制度や財政制度、また関係者などによって行われているかを深く理解することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 地方自治とは何か
- 第 2 回 地方自治の歴史
- 第 3 回 自治体のいろいろ
- 第 4 回 地方自治体の仕事 (1) どんな仕事をしているか
- 第 5 回 地方自治体の仕事 (2) 地域福祉行政の責任
- 第 6 回 住民の権利と義務
- 第 7 回 地方自治体の執行機関
- 第 8 回 地方自治体の議決機関
- 第 9 回 地方自治体の職員：地方公務員
- 第 10 回 地方財政のしくみ
- 第 11 回 地方財政の現状と課題
- 第 12 回 地方自治体の政策活動
- 第 13 回 条例と規則
- 第 14 回 市町村合併とコミュニティづくり
- 第 15 回 まとめ

評価方法

筆記試験（70%）、授業態度・出席状況（30%）

使用教材

レジュメを配付する。また適宜プロジェクトを使用する。

授業外学習の内容

授業外学習として、政治、経済、地方自治に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。

備考

看護概論（専門関連科目）

担当者

渡邊 洋子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

保健・医療・福祉にわたるチームケア実践において、とりわけ看護職の歴史や発展、対象及び活動内容など看護学の概要から、その視座の相違について理解を深める。

到達目標

1. 看護の歴史から、看護の定義や概念を理解し、看護の活動領域と内容についても理解できる。
2. 看護の歴史から、看護における倫理の意味や位置づけを理解できる。
3. 看護の提供のしくみを概観し、看護実践に必要な知識や理論について理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 看護とは
- 第 2 回 看護の概念と対象①－理論家による定義
- 第 3 回 看護の概念と対象②－看護ケアについて
- 第 4 回 看護の歴史①－古代から第 1 次大戦まで
- 第 5 回 看護の歴史②－第 1 次大戦から近代まで
- 第 6 回 看護における倫理①－倫理・道徳・法
- 第 7 回 看護における倫理②－職業倫理と医療や看護を巡る課題
- 第 8 回 看護の提供のしくみ①－看護サービスとチーム医療
- 第 9 回 看護の提供のしくみ②－看護の提供の場と内容（医療施設）
- 第 10 回 看護の提供のしくみ③－看護の提供の場と内容（地域）
- 第 11 回 看護の実践①－看護診断
- 第 12 回 看護の実践②－看護過程の実際
- 第 13 回 看護の活動領域①－国際化と看護
- 第 14 回 看護の活動領域②－災害時における看護
- 第 15 回 まとめ

評価方法

授業参加度 20%・ミニレポート 30%・期末試験 50%

評価方法等はガイダンス時にアナウンスする

使用教材

茂野香おる 2013『系統看護学講座専門分野 I－基礎看護学①看護学概論』医学書院

佐藤登美 2013『新体系看護学全書基礎看護学①看護学概論』メヂカルフレンド社

ライダー島崎玲子 2013『看護学概論看護追求へのアプローチ』医歯薬出版

上記の教材をもとにレジュメ及び資料を作成し、講義時に配布するため購入の必要はない。ただし教材内容の理解を深めたい場合には、図書館に所蔵されているので、個別に対応してほしい。

授業外学習の内容

単元ごとに配布されたレジュメや資料をもとに、ノートを作成し内容の理解に努める

備考

私語（状況により退室を促すことがある）・遅刻（授業開始から 10 分までとする）・飲食（交渉に応じ許可することがある）

リハビリテーション論（専門関連科目）

担当者

樋口 大輔

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

リハビリテーションは保健・医療のみならず、福祉の分野においても必要不可欠な概念である。リハビリテーションチームの一員として、介護を必要とする対象者の特徴や特性を理解するとともに、リハビリテーションの視点を持った介護技術のあり方やその実際を学ぶ。

到達目標

リハビリテーションの概念を説明できる。
介護を必要とする対象者の特徴や特性を説明できる。
リハビリテーションの視点を持った介護技術の基礎を身に付ける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 リハビリテーションの概念
- 第 2 回 障害の概念、リハビリテーションチーム、リハビリテーションの流れ
- 第 3 回 ADL・QOL のとらえ方
- 第 4 回 生活不活発病とリハビリテーション
- 第 5 回 高齢者の特徴とリハビリテーション（老年症候群、認知症）
- 第 6 回 各疾患の特徴とリハビリテーション（脳血管障害、骨折など）
- 第 7 回 環境設定とリハビリテーション
- 第 8 回 実習①姿勢・動作のとらえ方
- 第 9 回 実習②運動療法（ストレッチ、筋力増強運動など）
- 第10回 実習③リハビリテーション介護（ポジショニング、起き上がり）
- 第11回 実習④リハビリテーション介護（車椅子関連動作）
- 第12回 実習⑤リハビリテーション介護（歩行と歩行補助具、補装具）
- 第13回 実習⑥リハビリテーション介護（福祉用具）
- 第14回 地域リハビリテーション
- 第15回 まとめ

評価方法

授業参加度（20%）、小テスト（40%）、期末筆記試験（40%）

使用教材

配布資料

授業外学習の内容

授業の要点をノートにまとめましょう。

備考

時間の許す限り質問等に応じます。研究室不在時は higuchi-d@takasaki-u.ac.jp に連絡してください。

レクリエーション実技（専門関連科目）

担当者

大家 千枝子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 選択 1 単位

講義目標

レクリエーションという世界に関心・興味を持つ学生のための入門的な授業。

到達目標

- 1 知識・理解の観点：個人と集団とのコミュニケーションをとる能力、集団の中のコミュニケーションを促進する方法を身につける。
- 2 思考・判断の観点：目的・対象にあわせたアクティビティを選択する方法、アクティビティの展開方法、相互作用の引き出し方と活用、対象にあわせたアレンジ方法について学習する。
- 3 関心・意欲の観点：自らの経験を振り返りながらレクリエーション活動に積極的に関わり、問題意識をもつことができる。
- 4 態度の観点：積極的にレクリエーション事業に取り組むことができる。
- 5 技能・表現の観点：集団を対象として、プログラムやアクティビティを展開し、集団のコミュニケーションの促進やその中にある個々人の主体性や協調性を引き出すことができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 コミュニケーション・ワーク
- 第 2 回 コミュニケーション・ワーク
- 第 3 回 コミュニケーション・ワーク
- 第 4 回 目的・対象にあわせたレク・ワーク（チャレンジ・ザ・ゲーム）
- 第 5 回 目的・対象にあわせたレク・ワーク（チャレンジ・ザ・ゲーム）
- 第 6 回 目的・対象にあわせたレク・ワーク（フライング・ディスク）
- 第 7 回 目的・対象にあわせたレク・ワーク（ディスク・ゴルフ）
- 第 8 回 目的・対象にあわせたレク・ワーク（ウォークラリー）
- 第 9 回 目的・対象にあわせたレク・ワーク（ウォークラリー）
- 第10回 演習説明（目的・対象にあったレクプログラムを企画する）
- 第11回 演習準備（グループ内でレクプログラムについて検討し、企画を決定する）
- 第12回 演習準備（グループで企画したレクプログラムについて準備する）
- 第13回 演習 1
- 第14回 演習 2
- 第15回 演習 3

評価方法

演習 50%、レポート課題 30%、授業態度・授業への参加度 20%

使用教材

自作プリントを適宜配布する。また参考書を適宜紹介する。

参考テキスト…『レクリエーション支援の基礎－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術－』、(財)日本レクリエーション協会、2007年初版、2,100円

授業外学習の内容

授業終了後に C-Learning にて、課題を提出すること。また、日頃から新聞やニュース、地域情報などをチェック

クし、学外のさまざまな分野で行われているレクリエーション活動に関心・興味をもつ。また地元や身近な地域で開催されるレクリエーション事業に積極的に参加すること。

備考

積極的に C-Learning を活用する授業のため、ネット環境を整えておくこと（無理な場合は大学 PC 室を利用してください）。受講上の注意点：社会福祉学科の学生で「福祉レクリエーション・ワーカー」の資格取得を希望者は必ず履修すること。

福祉レクリエーション論（専門関連科目）

担当者

松沼 記代

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

社会福祉実践のなかでのレクリエーションが、利用者の喜びや生きがいと深く結びついたものであり、利用者の QOL の向上に欠かせないものであることを理解する。
また、福祉レクリエーションがどのような分野で応用されているか理解する。

到達目標

社会福祉・医療・保健分野でのレクリエーション・サービスの意義、歴史、実践、課題について理解し、レクリエーション援助者としての福祉レクリエーション・ワーカーの役割や方法について理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 福祉レクリエーションとは ①意義と目標
- 第 2 回 福祉レクリエーションとは ②歩み
- 第 3 回 福祉レクリエーション支援の理解 ①楽しさの追求
- 第 4 回 福祉レクリエーション支援の理解 ②楽しさを見通すための方法
- 第 5 回 福祉レクリエーション支援の理解 ③支援者のあり方
- 第 6 回 楽しさ追求のための支援の方法 ①APIE プロセス
- 第 7 回 楽しさ追求のための支援の方法 ②TR サービスモデル
- 第 8 回 楽しさ追求のための支援の方法 ③行動変容と自己効力感
- 第 9 回 高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例 ①デイサービスセンター
- 第10回 高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例 ②小規模多機能型施設
- 第11回 高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例 ③特別養護老人ホーム
- 第12回 高齢者を対象にした福祉サービスでの実践例 ④地域の高齢者支援活動
- 第13回 障がい児・者を対象にした福祉レクリエーション支援
- 第14回 子育て支援サービスでの福祉レクリエーション支援
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験（70%）、提出物（20%）、授業参加度（10%）で評価する。

使用教材

よく分かる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル 1「楽しさの追求を支える理論と支援の方法」／公益財団法人 日本レクリエーション協会 1400 円
教科書中心に講義するが、適宜資料を配布する。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

福祉レクリエーションワーカー資格受験者は必ず履修すること。

福祉レクリエーション援助論（専門関連科目）

担当者

高橋 紀子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

福祉ニーズを有する人々が生きがいをもって生活できるように、個々の障害やニーズにあったレクリエーションを援助するための知識や方法を修得する。

到達目標

福祉レクリエーション援助の意義や方法を理解し、実際の援助場面で障害に合わせた活動の支援を行うこと、及び指導することができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 福祉レクリエーション援助の専門性
- 第 2 回 福祉レクリエーション援助の目的
- 第 3 回 生きがい支援 ー生活習慣の視点から
- 第 4 回 福祉レクリエーション援助過程 アセスメントの方法
- 第 5 回 福祉レクリエーション援助計画の方法
- 第 6 回 福祉レクリエーション援助の実施方法
- 第 7 回 個別レクリエーションのための方法
- 第 8 回 グループレクリエーション援助の意義と効果
- 第 9 回 グループレクリエーション援助計画の方法と実践
- 第 10 回 福祉レクリエーションの評価の方法
- 第 11 回 レジャーカウンセリングとレジャーエデュケーションの発展
- 第 12 回 レジャーエデュケーションの実践例
- 第 13 回 福祉レクリエーション援助と社会資源の活用
- 第 14 回 福祉レクリエーション援助におけるイベントプログラムの考え方と活用方法
- 第 15 回 まとめと試験

評価方法

学期末筆記テスト（50%）、レポート課題（30%）、授業参加度（20%）により評価する。

使用教材

選定中

授業外学習の内容

福祉レクリエーション支援の必要な方に対しての対象者理解を深めておくことと福祉制度についても理解おくこと

備考

福祉レクリエーションワーカー資格希望者必修

福祉レクリエーション援助技術（専門関連科目）

担当者

高橋 紀子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年前期 選択 1 単位

講義目標

福祉レクリエーション活動の実践について理解し、援助に必要な「活動分析」や「活動アレンジ」の技術、及びコミュニケーションスキルを身につける。また、福祉レクリエーションの援助過程におけるアセスメント・計画・実践・評価の方法を修得する。

到達目標

- 1) 医療・福祉現場でレクリエーションを活用するために必要な「活動分析」や「活動アレンジ」ができる。
- 2) コミュニケーションスキルを修得し、対人援助にレクリエーションを応用することができる。
- 3) 福祉レクリエーション援助過程における個別及び集団のアセスメント、計画、実践、評価ができる。

講義内容と講義計画

- I・福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の開発とアレンジ ①
 - ①レクリエーション財の考え方 捉え方
 - ②レクリエーション財分類
 - ③福祉レクリエーション援助に既存のレクリエーション財をどのように効果的にいかすか
- II・レクリエーション活動分析の考え方と方法
 - ①活動分析の必要性
 - ②活動分析の視点
 - ③活動分析の方法
 - ④活動分析をどのように活用するか
- III・障害や個人に対応したレクリエーション財の選択・開発・アレンジ
- IV・事例から学ぶレクリエーション財提供の方法
- V・福祉レクリエーション援助のための対人援助技術を学ぶ
- VI・援助者のためのコミュニケーション技法について体得する
- VII・ホスピタリティートレーニング
- VIII・様々な療法を知る
- IX・福祉レクリエーション援助の実際
 - ①老人保健施設の入所者に対するレクリエーション支援について
 - ②特別養護老人ホームの入居者に対するレクリエーション支援について
 - ③デイケアにおけるレクリエーション支援について
 - ④デイサービスにおけるレクリエーション支援について
 - ⑤心身障害者施設におけるレクリエーション支援について
 - ⑥精神科病院におけるレクリエーション支援について
 - ⑦知的障害者施設におけるレクリエーション支援について
 - ⑧児童施設におけるレクリエーション支援について
 - ⑨地域等におけるボランティアとしてのレクリエーション支援について
- X・福祉レクリエーション援助の実際
 - ①支援案を作成する
 - ②援助の実際を体験する
 - ③振り返りを行い次へのステップとする
 - ④まとめ

評価方法

レポート課題 (40 点)、ロールプレイ (40 点)、授業参加度 (20 点)

使用教材

高齢者の脳トレレクリエーション

授業外学習の内容

毎回の内容を復習し、指定した課題について学習すること 毎授業内で指定した課題について学習を進めること

備考

障害者福祉論（専門関連科目）

担当者

根岸 洋人

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

障害者福祉の理念、諸外国との比較、問題点に焦点を当てて授業を行う。「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で取り上げた内容をさらに深めていくためにひとつひとつの項目に焦点をあて、各論的に構成する。本授業では様々な問題についてトピック的に取り上げ、毎回テーマが変更するような 90 分完結型の講義で学修していく。

到達目標

1. 障害のある人々を取り巻く環境を理解しその問題点や課題を指摘できる
2. 積極的に授業に参加し、障害のある人をめぐる問題に対して、自分自身の意見をまとめ、発表することができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 障害理解の到達点
- 第 3 回 知的障害者の地域生活を考える
- 第 4 回 障害児の放課後問題
- 第 5 回 障害者の権利擁護・成年後見制度
- 第 6 回 障害者と家族
- 第 7 回 諸外国の障害者福祉
- 第 8 回 発達障害とその支援
- 第 9 回 障害者運動とその歴史・発展
- 第 10 回 障害表記・差別表現・欠格条項
- 第 11 回 障害者と映画・文学
- 第 12 回 就労支援の問題点
- 第 13 回 障害と社会福祉士・国家試験
- 第 14 回 援助者の基本姿勢・連携
- 第 15 回 まとめ

評価方法

期末試験（論述形式）80%、C-learning による授業参加 20%

使用教材

授業中に指示する。

授業外学習の内容

復習を重視する。授業で取り上げたテーマについて、各自がさらに掘り下げた学習をすること。

備考

地域政策論（専門関連科目）

担当者

長谷川 秀男

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

わが国において実施されている産業政策的側面を中心とする地域政策について知り、説明できるようになることを目的とする。

到達目標

具体的事例を通じた基本的知識の修得を到達目標とする

講義内容と講義計画

- 第 1 回 プロローグ：地域政策論でなにを学ぶか、講義をどう進めるか、成績評価方法とは。
- 第 2 回 地域政策の基本概念：基本目標・課題・目的・手段等について
- 第 3 回 地域政策の主体論：形成主体・決定主体・実行主体をめぐって
- 第 4 回 地域間格差問題と地域政策：全国総合開発計画の目的・地域産業政策体系等
- 第 5 回 一全総・二全総の開発政策と地域政策：工業等制限法・新都市建設促進法・列島改造論等
- 第 6 回 高度成長と地域政策：国民所得倍増計画・公害問題等を中心に
- 第 7 回 テクノポリス構想と地域政策：三全総の定住圏構想との関連で
- 第 8 回 リゾート法施行にみる地域開発政策：リゾート開発の概要と功罪
- 第 9 回 経済摩擦と地域政策：日米構造問題調整協議のインパクトを中心に
- 第10回 食糧・航空自由化と地域政策：ガット・TPP 協議などを中心に
- 第11回 ガソリン・酒類等の規制緩和と地域政策：地域活性化面から
- 第12回 中心市街地の活性化策：空洞化問題と直近の活性化政策を中心に
- 第13回 過疎問題と地域政策：政策の推移と諸事例
- 第14回 子育て支援・介護保険制度と地域政策：直近の政策を中心に
- 第15回 まとめ：循環共生型地域社会づくりについて

評価方法

学年末に行う筆記試験（全体の 60～70%）、授業内に行う小テスト（同 30%前後）及び講義への意欲・授業参加度（同 10%前後）を基本としつつ、講義の進行状況等を踏まえ総合的に判断して成績評価を行う。

使用教材

特定の使用教材を指定せず、講義資料は毎回配布する（ただし、第 1 回目を除く）。

授業外学習の内容

予め授業範囲を予習し、関連専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

医療福祉と行動科学（専門関連科目）

担当者

佐藤 利正

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

人間の行動を科学的に研究解明する学問には、心理学、社会学、教育学、人類学、精神医学、神経科学などが含まれる。社会関係性やコミュニケーション、意思決定メカニズムは、医療福祉領域や教育現場でも重要なテーマである。学生が、医療福祉サービスに生かせる行動科学の基礎を学ぶ。

到達目標

学生が、行動科学の概略を学び、基本的概念や法則を理解すること。医療福祉の現場で応用できるように、個人及び集団心理、ライフサイクルと対人関係、認知や学習、教育との関係について考察を深める。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 学習～行動の変容 I (1.行動とは何か? 2.さまざまな学習)
- 第 3 回 同 II (3.学習性無気力 4.観察学習 5.行動科学の医療場面への実践)
- 第 4 回 記憶・思考 (1.記憶のしくみ 2.日常のなかでの記憶 3.高齢者の記憶)
- 第 5 回 感覚・知覚・認知 I (1.外界情報を理解する 2.感覚過程)
- 第 6 回 同 II (3.知覚過程 4.感覚・知覚の加齢変化)
- 第 7 回 動機・欲求・情動 (1.動機 2.多種多様な動機と欲求 3.フラストレーション 4.情動)
- 第 8 回 発達 I (1.発達とは 2.新生児期 3.乳幼児期 4.幼児期)
- 第 9 回 同 II (5.児童期 6.青年期 7.成人期 8.老年期)
- 第10回 社会・集団 (1.個人と集団、リーダーシップ 2.説得的コミュニケーション 3.対人認知と対人関係 4.帰属過程)
- 第11回 パーソナリティ (1.性格理論 2.環境か遺伝か)
- 第12回 アセスメント (.心の病 と 心理査定)
- 第13回 心理療法の理論と事例 I (1.精神分析 2.クライエント中心療法 3.行動療法)
- 第14回 同 II (4.認知療法 5.家族療法 6.そのほか)
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 80%・講義に臨む姿勢(授業態度)20%を目安にして、総合的に判断する。

使用教材

医療と福祉のための心理学 [改訂版] 対人援助とチームアプローチ 青木智子編著 北樹出版

授業外学習の内容

授業の内容を自主学習しておく

備考

授業中の不必要な私語は厳に慎む (評価に影響する)。

こども論（専門関連科目）

担当者

大川 健次郎

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

こども論では、社会が子どもをどのように捉えてきたか、子どもの持つ権利とは何かについて学び、その上で、子育て、子育てを支援するための具体的な施策を取り上げて、その現状を把握し、その課題・あり方について考察できるようにする。

到達目標

授業目的で示した内容を具体的に理解し、子どもの現在の状況について理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 子ども観（古代・中世）
- 第 3 回 子ども観（近世・近代）
- 第 4 回 子ども観（大正以降）
- 第 5 回 子どもの権利（権利概念）
- 第 6 回 子どもの権利（子どもの権利の特質）
- 第 7 回 子どもの権利（子どもの権利条約までの流れ）
- 第 8 回 子どもの権利（子どもの権利ノート）
- 第 9 回 子どもの自立支援
- 第 10 回 子どもとは何か
- 第 11 回 子どもの貧困①
- 第 12 回 子どもの貧困②
- 第 13 回 子どもの貧困③
- 第 14 回 子どもを取り巻く時事的問題
- 第 15 回 まとめ

評価方法

期末試験 60%、授業参加度 40%

使用教材

適宜資料を配布する

授業外学習の内容

授業範囲内を復習し、専門用語等の意味を理解しておくこと

備考

こども論では、現代の子どもを取り巻く環境（時事的問題）を取り扱うので、新聞等に目を通して受講すること。

カウンセリング論（専門関連科目）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

カウンセリング・心理療法の理論・歴史・方法に関する知識を修得する。さらに、カウンセラーに求められるクライアントへの関わりについて学び、考察を深める。

到達目標

カウンセリングに関する諸概念を説明できる。カウンセリングの視点を利用者支援に活用できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 カウンセリングの目的、対象、方法
- 第 2 回 ピアカウンセリングの目的、方法
- 第 3 回 カウンセリングとソーシャルワークとの関係
- 第 4 回 心理療法の概要と実際 (1) 精神分析
- 第 5 回 心理療法の概要と実際 (2) 来談者中心療法
- 第 6 回 心理療法の概要と実際 (3) 行動療法・認知行動療法
- 第 7 回 心理療法の概要と実際 (4) 家族療法
- 第 8 回 心理療法の概要と実際 (5) ブリーフ・サイコセラピー
- 第 9 回 心理療法の概要と実際 (6) 遊戯療法
- 第10回 心理療法の概要と実際 (7) 心理劇
- 第11回 心理療法の概要と実際 (8) 動作療法
- 第12回 心理療法の概要と実際 (9) SST（生活技能訓練）
- 第13回 心理療法の概要と実際 (10) 福祉現場におけるセラピューティック・アクティビティ
- 第14回 心理療法の概要と実際 (11) その他の心理療法
- 第15回 まとめ

評価方法

宿題 30%（復習課題 15%、予習課題 15%）、学期末テスト 50%、学期末レポート 20%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。

使用教材

精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー「心理学ー心理学理論と心理的支援」へるす出版

授業外学習の内容

毎回、復習課題および予習課題を宿題として課すので、授業外での学習を怠らないこと。宿題の提出は C-learning による。

備考

各福祉士の国家試験で頻出の範囲である。履修して、しっかりと学習してほしい。
履修にあつたての注意：心理学を履修済であることを前提に授業を進める。

トータルボディトレーニング（専門関連科目）

担当者

大家 千枝子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 1 年後期 選択 1 単位

講義目標

基本的な運動プログラム作成の知識や機器の活用方法を学び、トレーニングを実践する。また運動前後のストレッチングや機器を使わないレジスタンストレーニングの方法を身につける。

到達目標

- 1 知識・理解の観点：トレーニングの方法やエネルギー消費量の算出方法などについて理解する。
- 2 思考・判断の観点：適切な負荷（強度や回数）を選んでトレーニングできる。
- 3 関心・意欲の観点：フィットネスに関心・興味をもち、日常生活を活動的に送るためにそれらを活用する。
- 4 態度の観点：授業の性質やグループ内での個人の役割を理解し、行動することができる。
- 5 技能・表現の観点：自分にあったトレーニングを正しく行うことができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 形態測定・体力テスト
- 第 3 回 結果の評価、機器の正しい使用方法
- 第 4 回 ウォーキング・ジョギングの説明と実践
- 第 5 回 フィットネス機器を使ったトレーニング（基本）
- 第 6 回 フィットネス機器を使ったトレーニング（応用）
- 第 7 回 油圧マシンを使ったウェルラウンドエクササイズ（基本）
- 第 8 回 油圧マシンを使ったウェルラウンドエクササイズ（応用レベル 1～3）
- 第 9 回 運動処方現状とレジスタンストレーニングの実際
- 第 10 回 フィットネスプログラムの作成と実践
- 第 11 回 フィットネスプログラムの作成と実践
- 第 12 回 フィットネスプログラムの作成と実践
- 第 13 回 フィットネスプログラムの作成と実践
- 第 14 回 形態測定・体力テスト
- 第 15 回 まとめ、フィジカルデータファイルの提出

評価方法

授業態度・授業への参加度 40%、レポート課題 30%、授業記録の管理 30%

使用教材

自作プリントを適宜配布する。また参考書を適宜紹介する。

授業外学習の内容

現代人の日常生活は一般的に運動不足の傾向にあることを自覚し、継続して運動を実施できるよう課外時間に大学体育施設（フィットネスルームを含む）を積極的に利用する。時間がとれない場合は、日常生活における通学、家事、労働、趣味などの生活活動の中で身体活動量を増やす工夫をする。

備考

受講上の注意事項：1. トレーニングシャツ、パンツ、室内用シューズを着用してください（ジーンズや普段着

での受講は不可)。2. 実技授業をすすめる上で配慮を必要とする学生は初回のガイダンス当日までに担当教員へ申し出てください。3. 貴重品の管理は各自で行う。※施設・指導者数の関係上、受講時間・人数を調整することがあります。

こころとからだのしくみ I (専門関連科目)

担当者

佐野 雪江

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 社会福祉コース 選択 2 単位、介護福祉コース 必修 2 単位

講義目標

介護技術の根拠となる人体の構造・機能、こころのしくみを介護実践との関連の中で理解していく。
介護サービス提供における安全への留意点を「こころとからだのしくみ」から理解する。

到達目標

学生が、「こころとからだのしくみ」を理解することで、病気や障害による生活の困難さを理解し、多職種との連携のもと、適切な対応ができるようになること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 人間の「こころ」と「からだ」に関する基本的な考え方
- 第 2 回 こころのしくみの理解① 人間の欲求
- 第 3 回 こころのしくみの理解② こころのしくみ
- 第 4 回 からだのしくみの理解① からだのしくみ
- 第 5 回 からだのしくみの理解② からだの働き
- 第 6 回 身じたくに関連したこころとからだのしくみ
- 第 7 回 身じたくに関連した機能低下や障害について
- 第 8 回 日常生活における整容場面及びその変化への気づき
- 第 9 回 移動に関連したこころとからだのしくみ
- 第10回 移動に関連した機能低下や障害について
- 第11回 日常生活における移動場面およびその変化への気づき
- 第12回 食事に関連したこころとからだのしくみ
- 第13回 食事に関連した機能低下や障害について
- 第14回 日常生活における食事場面およびその変化への気づき
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度 20%、筆記試験 80%などを参考に総合的に評価。

使用教材

「こころとからだのしくみ」中央法規を持参、その他資料などを適宜配布。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。

備考

必要時、参考書等紹介する。不必要な私語は慎む（評価に影響する）。

こころとからだのしくみⅡ(専門関連科目)

担当者

佐野 雪江

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 社会福祉コース 選択 2 単位、介護福祉コース 必修 2 単位

講義目標

介護技術の根拠となる人体の構造・機能、こころのしくみを介護実践との関連の中で理解していく。
介護サービス提供における安全への留意点を「こころとからだのしくみ」から理解する。

到達目標

学生が、「こころとからだのしくみ」を理解することで、病気や障害による生活の困難さを理解し、多職種との連携のもと、適切な対応ができるようになること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 入浴や清潔保持に関連したこころとからだのしくみ
- 第 2 回 入浴や清潔保持に関連した機能低下や障害について
- 第 3 回 日常生活における入浴や清潔保持場面およびその変化への気づき
- 第 4 回 排泄に関連したこころとからだのしくみ
- 第 5 回 排泄に関連した機能低下や障害について
- 第 6 回 日常生活における排泄場面およびその変化への気づき
- 第 7 回 睡眠に関連したこころとからだのしくみ
- 第 8 回 睡眠に関連した機能低下や障害について
- 第 9 回 日常生活における睡眠場面およびその変化への気づき
- 第10回 死にゆくひとのこころとからだのしくみ①「死」の捉え方
- 第11回 死にゆくひとのこころとからだのしくみ②からだの理解
- 第12回 死にゆくひとのこころとからだのしくみ③こころの理解
- 第13回 終末期から危篤、死亡時における連携
- 第14回 グリーフケアと遺族へのかかわり
- 第15回 まとめ

評価方法

授業態度 20%、筆記試験 80%などを参考に総合的に評価。

使用教材

「こころとからだのしくみ」中央法規を必ず持参、その他資料などを適宜配布。

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。

備考

必要時、参考書等紹介する。不必要な私語は慎む（評価に影響する）。

障害者スポーツ論（専門関連科目）

担当者

大塚 光彦

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

障がい者スポーツは、障がいの特性を理解することにより、みんなが親しんでいるスポーツのルールを、少し工夫するだけで障がい児（者）・高齢者、高齢障がい者や子供たちにも誰にでも、楽しく・安全に出来るもので、「適応する」という意味で、アダプテッドスポーツ（adapted sports）と呼ばれている。この授業では、3障がい（身体・知的・精神）及び高齢者のスポーツ・レクリエーションを幅広く実践することにより、障がいの特性を理解して頂きます。また障がい者スポーツの歴史や制度などの講義とパラリンピック等のビデオ学習や実技も組み入れ、安全な指導法について学びます。また 2020 年東京パラリンピックが決定したことを捉えて、障害者等をスポーツの場に誘い出してくれるような動機付けをしてくれる学生が 1 人でも多く出ることを目的としている。

到達目標

この授業では、「初級障がい者スポーツ指導員」の公認資格を取得するもので、地域で活動する 18 歳以上の指導者で、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する者、また、障がいの基本内容を理解し、スポーツの導入に必要な基本的知識・技術を身につけ、実践にあたっては、健康や安全管理を重視した指導が出来る者。さらに、地域の大会や行事に参加すると共に、指導員組織の事業にも積極的に参加するなど地域の障がい者スポーツの振興を支える者。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 障がい者スポーツについて
- 第 2 回 JPSA 及び JPC 組織等基礎説明、手話・指文字（ア行）及び簡単な手話（あいさつ等）
- 第 3 回 手話・指文字（カ行）、車椅子の操作法、段差クリア等の介護・介助方法
- 第 4 回 手話・指文字（サ行）、視覚障がい者のガイド・クロックポジション・ガイドヘルパービデオ・伴走
- 第 5 回 手話・指文字（タ行）、鑑賞（DVD）・パラリンピック夏・冬競技
- 第 6 回 手話・指文字（ナ行）、パラリンピック種目（JPC 登録団体）夏季・冬季競技・種目について
- 第 7 回 手話・指文字（ハ行）、障がい者スポーツの意義と理念
- 第 8 回 手話・指文字（マ行）、全国障がい者スポーツ大会の概要
- 第 9 回 障がいに応じたスポーツの工夫、FD（フライングディスク）実技
- 第10回 手話・指文字（ヤ行）、ボッチャ実技
- 第11回 手話・指文字（ラ・ワ行）、障がいの理解とスポーツ
- 第12回 体育室実技、車いすバスケットボール・FD・ボッチャ予定
- 第13回 コーディネーショントレーニング、ボランティア概論
- 第14回 安全管理・精神障がいについて
- 第15回 障害者スポーツについての「まとめ」

※「障がい者との交流」授業を、都合の付く所で採り入れゲストスピーカーを招く予定。

評価方法

筆記 40%、授業参加度 60%

使用教材

ぎょうせい「障害者スポーツ指導教本初級・中級」日本障害者スポーツ協会編

授業外学習の内容

1. 最初に「障害者スポーツ指導教本」第 2. 編第 1. 章障害者スポーツの意義と理念及び第 3. 編第 5. 章（公財）日本障がい者スポーツ協会資格認定制度について読んでおくこと。2. 毎回、次回授業内容項目について話すので、事前にその項目を読んでおくこと。3. （公財）日本障がい者スポーツ協会のホームページに必ず目を通しておくこと。※学習上の助言元来、「障がい者スポーツ」という特殊なスポーツがあるわけではありません。皆さんが親しんでいるスポーツを「少し工夫」しているだけです。ルールが障がいがあるために、「出来ないこと」や「事故の心配」また「障がいの悪化」等を検討して、新しく約束を加えたり、変更したりして、安全に安心して楽しくスポーツ出来るようにすることです。これが、障がい者スポーツを行う上で、大事なポイントです。

備考

介護概論（専門関連科目）

担当者

渡邊 洋子

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

社会状況の変化に伴い介護の需要は確実に増加している。そうした背景のもとで、介護の目的、機能及び展開過程を理解し、また、高齢者や障害者の介護、そしてその家庭に対する援助を学ぶことを通して、人間の発達と生活についての知識を持ち、社会福祉従事者として必要となる知識と技能を身につけることを目的とする。

到達目標

基礎構造改革以降ますます社会福祉士の必要性が求められている。その中で、福祉を担う専門職は社会福祉士をはじめ、介護福祉士、訪問介護員、介護支援専門員など多くの職種が関わっている。そのため、介護とは何か、利用者がより豊かな生活を営み、その人らしい生活ができることを、介護概論の授業を通して理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス・介護とは
- 第 2 回 介護の概念
- 第 3 回 介護の関係法規
- 第 4 回 生活の理解～介護と「私にとって生活することの意味」
- 第 5 回 介護の対象①高齢者の生活と介護
- 第 6 回 介護の対象②障害と高次能障害者の生活と介護
- 第 7 回 介護の対象③内部障害者の生活と介護（心臓機能障害・呼吸機能障害・腎臓機能障害）
- 第 8 回 介護の対象④内部障害者の生活と介護（小腸直腸膀胱機能障害・肝機能障害・その他）
- 第 9 回 介護の対象⑤精神障害者の生活と介護
- 第10回 介護の対象⑥肢体不自由児者の生活と介護
- 第11回 介護の対象⑦知的障害児者の生活と介護
- 第12回 介護過程の理解①～理論編
- 第13回 介護過程の理解②～実践編
- 第14回 介護の実践～サービス提供と連携
- 第15回 まとめ

評価方法

授業参加度 40%・リアクションペーパー20%・レポート 2 回分 40%
評価方法等はガイダンス時にアナウンスする

使用教材

指定なし。授業の際に、レジユメ及び資料を配布する。

授業外学習の内容

単元の内容に関する知識を予め学習するとともに、授業で配布されたレジメなど資料をもとに復習し、知識を深める。

備考

基本的に講義の形式をとり、内容によりグループ演習を取り入れる。

卒業研究（卒業論文）（専門関連科目）

担当者

社会福祉学科教員

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 4 年通年 選択 4 単位

講義目標

卒業研究は、4 年間の講義や現場実習等の成果の集大成として、学生が自分で選択した分野に関わるテーマについてさらに深く研究し、その成果をまとめるものである。その過程を通じ、社会福祉の専門職として求められる研究能力や課題解決・改善能力を身につける。

到達目標

講義内容と講義計画

実施の詳細は各教員により異なるが、およその流れは下記のとおりである。

1. オリエンテーション
2. 研究テーマ・研究計画の検討・指導
3. 研究方法に関する指導および技術の取得
4. 研究（論文等）のまとめかたの指導
5. 研究骨子や草稿の添削指導
6. 中間発表・点検
7. 研究成果の審査と講評
8. 「卒業研究」単位の認定

評価方法

卒業研究の取り組み姿勢等の実施過程および成果物を総合的に評価する。

使用教材

授業外学習の内容

備考

授業時に各担当教員より指示する。

教師論（教職関係科目）

担当者

深見 匡

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 必修 2 単位、健康栄養学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

教職を目指すものとして必要となる①教育学の原理、思想、歴史の基礎的知識、②現代の教育問題の基礎的な知識、③教職に携わる者として求められる資質や教育方法上の基礎的技能の修得を目標とする。

到達目標

①【講義目標】に掲げる内容を理解・修得し、②教育問題を考察する際にこれらの知識や技能を活用できるようになり、③法令で定める「教育職員（教員）」の責務を踏まえた教職に携わる者に相応しい資質を獲得できること。

講義内容と講義計画

授業計画の概要は以下の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第 1 回 ガイダンス（授業計画、試験・評価方法など）
- 第 2 回 教職にかかわる諸制度①（公教育法制）
- 第 3 回 教職にかかわる諸制度②（学校教育）
- 第 4 回 教職にかかわる諸制度③（学校教育）
- 第 5 回 教職にかかわる諸制度④（教員養成制度）
- 第 6 回 教職にかかわる諸制度⑤（教員の職務）
- 第 7 回 教職にかかわる諸制度⑥（教員の職務）
- 第 8 回 教職にかかわる諸制度⑦（教員と基本的人権・政治）
- 第 9 回 教育の原理①（人間の発達）
- 第10回 教育の原理②（人間と社会）
- 第11回 現代の教育をめぐる諸課題①（学力問題）
- 第12回 現代の教育をめぐる諸課題②（生徒指導）
- 第13回 現代の教育をめぐる諸課題③（教育改革）
- 第14回 国際比較を通して考える
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%＝貢献度・授業態度・提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については授業時に指示する。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

授業時に指示する授業外課題を行うこと。また、教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にもらいたい。

教育心理学（教職関係科目）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位、健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

短い学校生活期間だけに限定せずに、生涯発達を視野に入れて、既存の教育心理学領域の知見を新たな視野から講義していく。

到達目標

私たちが生まれて人生を全うするまでの生涯における発達を念頭に置き、各段階毎の学びの基本的な知見を学ぶことによって、教える側の基本的態度を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス：発達とは何か
- 第 2 回 生涯発達と「優生思想」
- 第 3 回 新生児期・乳児期における学び
- 第 4 回 幼児期における学び（1）：認知発達を中心に
- 第 5 回 幼児期における学び（2）：道徳性の発達を中心に
- 第 6 回 障害のある幼児の心身の発達と学び
- 第 7 回 児童期における学び（1）：記憶研究を中心に
- 第 8 回 児童期における学び（2）：学習について
- 第 9 回 障害のある児童・生徒の心身の発達と学び
- 第 10 回 思春期における学び
- 第 11 回 青年期における学び
- 第 12 回 成人期以降の学び（1）：教育方法
- 第 13 回 成人期以降の学び（2）：評価
- 第 14 回 老年期における学び
- 第 15 回 まとめ

評価方法

筆記試験の結果、受講態度、授業中の課題などによって総合的に評価します。

使用教材

教科書は指定しません。必要に応じて、資料を配付します。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介していきます。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。

特別活動論（教職関係科目）

担当者

富岡 栄

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

特別活動は、学校生活に変化と潤いをもたらす重要なものであって、学校においては学習活動と並ぶ意義を有する。この授業では、明治以来わが国の学校教育において極めて重要な役割を果たしてきた特別活動につき、その歴史、実践、理論を概観する。

到達目標

学校教育には学習指導の他に特別活動の領域があり、児童・生徒の教育に重要な役割を果たしている。この授業では、学校教育において重要な位置を占めている特別活動について、その歴史、意味、実践などを幅広く考察し、教育実践を行う上での基本的な知識等を身に付けることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 明治期の課外活動
- 第 3 回 大正期の課外活動
- 第 4 回 昭和戦前期の課外活動
- 第 5 回 戦後初期の「自由研究」 第 1 回小テスト予定
- 第 6 回 「特別教育活動」から「特別活動」へ
- 第 7 回 学級活動
- 第 8 回 生徒会活動
- 第 9 回 学校行事（国旗掲揚・国歌斉唱など）
- 第 10 回 クラブ・部活動 第 2 回小テスト予定
- 第 11 回 学校保健・安全指導
- 第 12 回 給食指導
- 第 13 回 奉仕・ボランティア活動
- 第 14 回 学校事故
- 第 15 回 特別活動と学校教育（まとめ） 第 3 回小テスト予定

評価方法

評価は、授業中に行う 3 回の小テスト（約 70%）、授業貢献度（発言、質問、授業中の態度など。約 30%）、で行う。

使用教材

教材は適宜プリントを配布。

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回テーマについて然るべき予習をしておくこと。また、5 回目ごと小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

学生諸君自身が学校時代に受けてきた種々の学校行事等を思い出しながら、学校における特別活動の意味を問

い直し、その有する重要性について深く自覚しつつ授業に参加することを望みます。

道徳教育の研究（教職関係科目）

担当者

深見 匡

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

①道徳心や規範意識の形成は「道徳」の時間だけではなく学校教育全体で追求されるべきこと。②「道徳」のような個人の内心に働きかける公教育の営みは、複雑な法的・社会的問題をはらむこと。③「道徳」を日常生活的な規範基準としてのみ捉えず、様々な価値判断の基準として捉えること。「道徳」教育の学習は以上の諸点の学習であることを理解できるようになること。

到達目標

①【講義目標】の内容を理解・修得し、②実際の教育問題や、価値に関わる問題の考察や解決にあたり、獲得した知識を活用できるようになること。

講義内容と講義計画

授業計画の概要は下記の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第 1 回 ガイダンス（授業計画、評価方法等について）
- 第 2 回 道徳の定義・理論（社会の価値体系としての道徳）
- 第 3 回 現代の公教育法制と道徳の時間について①
- 第 4 回 現代の公教育法制と道徳の時間について②
- 第 5 回 道徳の理論（ピアジェ他）
- 第 6 回 道徳の理論（コールバーグ他）
- 第 7 回 道徳の理論（ロールズ他）
- 第 8 回 公教育と道徳の歴史（戦前日本）
- 第 9 回 公教育と道徳の歴史（戦後日本）
- 第 10 回 道徳教育の実際（道徳の問題群と諸実践）①人権
- 第 11 回 道徳教育の実際（道徳の問題群と諸実践）②いじめ
- 第 12 回 道徳教育の実際（道徳の問題群と諸実践）③いじめ
- 第 13 回 国際比較の観点からみた日本の道徳教育①
- 第 14 回 国際比較の観点からみた日本の道徳教育②
- 第 15 回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%：参加度、授業態度、提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については適宜授業中に指示をする。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

授業時に指示する授業外課題を行うこと。また、教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にもらいた

い。

教育基礎論（教職関係科目）

担当者

深見 匡

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年後期 必修 2 単位、健康栄養学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

教育学を学ぶ上での基礎的な知識となる、①教育の原理、思想、歴史、教育制度、現代的諸問題、様々な教育実践について理解し、概括的に知識を修得すること。②その際、様々な教育事象について、歴史や社会構造をふまえた観点から分析・理解・説明などができるようになること。

到達目標

①【講義目標】に記した内容を理解・修得し、②実際の教育問題の考察や解決にあたり、獲得した知識を活用できるようになること

講義内容と講義計画

授業計画の概要は以下の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第 1 回 ガイダンス（授業計画、試験・評価方法など）
- 第 2 回 教育の原理と思想①（社会の中の教育）
- 第 3 回 教育の原理と思想②（教育への認識）
- 第 4 回 教育の原理と思想③（発達の理論）
- 第 5 回 近代公教育の歴史①（近代）
- 第 6 回 近代公教育の歴史②（現代）
- 第 7 回 公教育の諸制度①（教育基本法他）
- 第 8 回 公教育の諸制度②（教育課程）
- 第 9 回 公教育の諸制度③（教育課程）
- 第10回 現代の教育をめぐる諸課題（教育問題と教育実践）
- 第11回 現代の教育をめぐる諸課題（学力問題）①
- 第12回 現代の教育をめぐる諸課題（学力問題）②
- 第13回 国際比較の観点から見る日本の教育①
- 第14回 国際比較の観点から見る日本の教育②
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%＝貢献度・授業態度・提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については授業時に指示する。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

授業時に指示する授業外課題を行うこと。また、教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

教育制度論（教職関係科目）

担当者

深見 匡

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位、健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

教職を目指す者が修得すべき教育学の基礎的な知識のうち、主として教育制度に関わる事項について修得することを目標とする。その際、社会の中にあつて教育を組織する枠組みである教育制度について、①近現代における（公）教育制度の歴史、②現行制度の仕組みと役割、③教育改革の諸構想の観点を中心に学ぶ。

到達目標

①【講義目標】に掲げる内容を理解・修得し、②教育制度のあり方が教育の実質と深い関わりを持つことを理解し、③教育問題を考察する際、修得した知識を活用できるようになること。

講義内容と講義計画

授業計画の概要は以下の通り。詳細は初回の授業で提示する。

第 1 回 ガイダンス（授業計画、試験・評価方法について）

第 2 回 教育の組織化

第 3 回 教育の歴史①（近代公教育）

第 4 回 教育の歴史②（現代公教育）

第 5 回 教育の諸制度①（日本国憲法と教育基本法）

第 6 回 教育の諸制度②（学校体系）

第 7 回 教育の諸制度③（教育内容）

第 8 回 教育の諸制度④（教科書制度）

第 9 回 教育の諸制度⑤（学校と校務分掌）

第10回 教育の諸制度⑥（教育行政）

第11回 現代的課題①（学級編制など）

第12回 現代的課題②（教育の多様化・能力主義）

第13回 現代的課題③（参加と選択）

第14回 国際比較を通して考える

第15回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%：参加度、授業態度、提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については適宜授業中に指示をする。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

授業時に指示する授業外課題を行うこと。また、教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にもらいたい。

福祉科教育法（教職関係科目）

担当者

根岸 洋人

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年通年 選択 4 単位

講義目標

高等学校における教科「福祉」を指導する上で必要となる知識や技術について総合的、体験的に学ぶとともに、その教育方法についても検討し、より適切な方法を修得する。

到達目標

1. 教科「福祉」に関する科目について、十分な教材研究ができる。
2. 教科「福祉」に関する科目の学習指導案を作成することができる。
3. 教科「福祉」に関する科目の教育に情熱を持って取り組むことができる

講義内容と講義計画

前期

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 「福祉科」成立の背景（現代社会と社会福祉）①
- 第 3 回 「福祉科」成立の背景（現代社会と社会福祉）②
- 第 4 回 「福祉科」の目標①
- 第 5 回 「福祉科」の目標②
- 第 6 回 「福祉科」の内容①社会福祉の理念と意義
- 第 7 回 「福祉科」の内容②社会福祉の歴史
- 第 8 回 「福祉科」の内容③社会福祉分野の現状と課題
- 第 9 回 「福祉科」の内容④社会福祉の担い手と社会福祉への展望
- 第10回 「福祉科」の内容⑤社会福祉制度
- 第11回 「福祉科」の内容⑥社会福祉制度
- 第12回 「福祉科」の内容⑦社会福祉援助技術
- 第13回 「福祉科」の内容⑧社会福祉援助技術
- 第14回 「福祉科」の内容⑨介護技術の基本と実際
- 第15回 まとめ

後期

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 学習指導の理論と方法①
- 第 3 回 学習指導の理論と方法②
- 第 4 回 授業案と授業の構成
- 第 5 回 授業の分析と方法
- 第 6 回 主体的学習と授業への配慮
- 第 7 回 「福祉科」の評価と方法
- 第 8 回 マルチメディア教材の利用と効果①
- 第 9 回 マルチメディア教材の利用と効果②
- 第10回 学習指導案の作成①
- 第11回 学習指導案の作成②
- 第12回 学習指導案の作成③
- 第13回 模擬授業①
- 第14回 模擬授業②
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート等（学習指導案）の提出物による（40%）。また、学習態度も考慮する（20%）。
授業中に実施する模擬授業についても評価の対象とする（40%）。

使用教材

テキストは特に使用しない。プリント等を使用する。参考文献等は使用時に授業で紹介する。

授業外学習の内容

模擬授業の実施や学習指導案の作成を行うので教材研究を十分に行うこと。新聞等に目を通し、教材として使えるものを常に意識しておくこと。

備考

公民科教育法（教職関係科目）

担当者

針谷 正紀

開講学科と時期・単位

社会福祉学科通年 必修 4 単位

講義目標

公民科教育法の単位取得をめざす皆さんが講義終了後、公民科教育についての関心を強め、内容理解を深め、自分なりの公民科教師像を確立し、教員採用試験に挑戦したいという気持ちになれるような授業をしていきたい。

到達目標

年間を通して公民科担当教師になるために必要な国際・国内の政治・経済情勢をとらえることのできる基礎学力を身に着けさせることを可能にする時事問題資料を配布し、説明していき、一般教養を十分に身に着けた公民科担当教師を育てたい。

講義内容と講義計画

前期

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 現代社会と公民科教育
- 第 3 回 公民科教育の歴史（戦前・戦後）
- 第 4 回 公民科教育の特質
- 第 5 回 公民科の教育課程と構成
- 第 6 回 「現代社会」の目標と内容構成①
- 第 7 回 「現代社会」の目標と内容構成②
- 第 8 回 「現代社会」の目標と内容構成③
- 第 9 回 「現代社会」の目標と内容構成④
- 第10回 「政治・経済」の目標と内容構成①
- 第11回 「政治・経済」の目標と内容構成②
- 第12回 「政治・経済」の目標と内容構成③
- 第13回 「倫理」の目標と内容構成①
- 第14回 「倫理」の目標と内容構成②
- 第15回 「倫理」の目標と内容構成③

後期

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 指導計画の作成①
- 第 3 回 指導計画の作成②
- 第 4 回 公民科教育の方法と技術①
- 第 5 回 公民科教育の方法と技術②
- 第 6 回 学習評価の考え方と方法①
- 第 7 回 学習評価の考え方と方法②
- 第 8 回 学習指導案の作成と事例
- 第 9 回 学習指導案の作成と模擬授業①
- 第10回 学習指導案の作成と模擬授業②
- 第11回 学習指導案の作成と模擬授業③
- 第12回 学習指導案の作成と模擬授業④
- 第13回 学習指導案の作成と模擬授業⑤
- 第14回 学習指導案の作成と模擬授業⑥

評価方法

- ①毎回の授業の際に提出させる感想・質問
- ②課題レポートの提出
- ③試験
- ④授業の際の質疑・応答、出席状況
- ①～④の総合評価

使用教材

- ①平成 22 年度改訂の「高等学校学習指導要領解説 公民編」 文部科学省
- ②ポケット版 子どもの権利ノート 子どもの権利・教育・文化全国センター発行
- ③理解しやすい現代社会 真淵勝監修 文英堂

授業外学習の内容

毎回の授業の際に配布する「時事問題資料（針谷編集）」に必ず目を通すこと
「高等学校学習指導要領解説 公民編」をじっくり読み込み、授業に臨むこと
模擬授業の際に学習指導案を事前に提出させる

備考

生徒指導論（教職関係科目）

担当者

深見 匡、山口 晃

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 1 単位、社会福祉学科 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

生徒指導とは、学校教育において、児童生徒の人格面や生活面での望ましい成長を促す働きかけである。現代の子どもたちをめぐっては、学力面のみならず、非行や問題行動、いじめ、不登校など様々な問題が指摘されている。この授業では、個別指導と集団指導の観点をふまえた、生徒指導の基礎的な理論と実践力（技術・方法）の修得を目標とする。そして生徒指導が子どもをめぐるとの諸問題にどのように役割をはたすことができるのか理解を深める。

到達目標

生徒指導の理論と実践力（技術・方法）の基礎的な内容について修得すること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 生徒指導とは
- 第 2 回 生徒指導と教育課程（教科指導など）
- 第 3 回 生徒指導と教育課程（特別活動指導など）
- 第 4 回 生徒指導と生徒理解・教育相談
- 第 5 回 生徒指導の実践 1（生徒指導体制のあり方など）
- 第 6 回 生徒指導の実践 2（問題行動の様相と指導など）
- 第 7 回 生徒指導の実践 3（指導事例とその考察など）

評価方法

授業時のテスト・課題・期末試験の結果（70%）と平常点（30%）で評価する。詳細は初回の授業で指示する。

使用教材

適宜テキストを配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

進路指導論（教職関係科目）

担当者

深見 匡、宮川 清

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 1 単位、社会福祉学科 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

学校教育において生徒に将来の職業に対する展望を開かせ、それに向けての自己設計への準備／心構えをつけさせるための働きかけが進路指導である。進路選択の主体はあくまでも生徒自身である。その援助に関わる理論・諸技術は、教育学・心理学のみならず社会学や経済学など広範な行動科学に及ぶ。本講義は、こうした進路指導に関わる基礎・基本にあたる知識と、実用的指導力を扶養することを目標とする。

到達目標

学校教育で活用される進路指導の手順や諸理論を理解し、生徒が適性に合った進路選択や職場生活に向かう力をもてるよう指導する力を獲得すること。

講義内容と講義計画

主な内容は次の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第 1 回 進路指導とは 1（概論）
- 第 2 回 進路指導とは 2（憲法や社会との関わり）
- 第 3 回 保育園／幼稚園で「私は〇〇になりたい」と言わせる意義
- 第 4 回 中学 2 年生に「職場体験」に出させる意義
- 第 5 回 「進路意識」は発達心理の中で繰り返し構成／再編される事
- 第 6 回 「進路相談」のロールプレイ実習（進路適性検査など）
- 第 7 回 進路指導論のまとめ

評価方法

授業時のテスト・課題・期末試験の結果（70%）と平常点（30%）で評価する。詳細は初回の授業で指示する。

使用教材

適宜テキストを配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

教育相談（教職関係科目）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

生徒とその保護者等を対象とした相談活動に必要な基礎的事項を説明する。この際には、密室に閉じた相談活動ではなく、学校、さらには地域に開かれた支援を視野に入れる。臨床発達心理士である講師としては、机上の空論や理想論ではなく、より現実的な内容に徹したい。

到達目標

生徒とその保護者等を対象とした相談活動に必要な基礎的事項を理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション：受容と共感
- 第 2 回 他者との距離
- 第 3 回 「気づく」ということ
- 第 4 回 教育相談の場
- 第 5 回 各自の枠組の相違の体験的理解
- 第 6 回 コミュニケーションの困難性
- 第 7 回 性格類型の罫
- 第 8 回 生徒の「性格」理解
- 第 9 回 いじめについて（1）：映像から考える
- 第10回 いじめについて（2）：中学校におけるいじめの実態
- 第11回 校内暴力について
- 第12回 生徒指導と教育相談
- 第13回 教育相談のロールプレイング（1）：ロールプレイングの実践
- 第14回 教育相談のロールプレイング（2）：ロールプレイングの振り返り
- 第15回 まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。

使用教材

教科書は指定しません。必要に応じて、資料を配付します。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介していきます。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。

介護実習（教職関係科目）

担当者

松沼 記代

開講学科と時期・単位

社会福祉学科 3 年後期 選択 1 単位

講義目標

ケアシステムの一員としての介護のあり方や、個々の利用者のニーズに応えるための支援方法について学修する。

到達目標

福祉を担当する高校教員の資格取得として、介護のあり方を実習をとおして学修する。

講義内容と講義計画

〔講義〕

1. オリエンテーション／介護とは
2. コミュニケーション技術
3. 介護実習の方法と心得
4. 実習報告（発表）

〔実習〕

介護実習 7. 5 時間×6 日 45 時間以上

評価方法

①実習態度 ②授業に関連して課すレポート ③実習日誌

使用教材

適時必要に応じてプリント配布

授業外学習の内容

実習先の沿革やサービス内容について調べておくこと。

備考

教職希望者必修

実習先：特別養護老人ホーム、老人保健施設、老人通所施設、知的障害者入所・通所施設、身体障害者入所・通所施設等本人の希望を優先する。

教職指導 I (教職関係科目)

担当者

宮川清、瀧口典子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 1 単位、社会福祉学科 3 年後期 必修 1 単位

講義目標

公私立を問わず『学校教育』に携わる教員は、教育の専門職として必要な指導力・教育力・人間力を具えなければならない。そのための基礎・基本は幅広い領域に及び、かつ、互いに関係しあうものである。ここでは、学生がその基盤をなす「教師力」と言える必修内容を学ぶ。

到達目標

学生がどの教壇に立っても通用する教師力の基礎を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション・学校教育の源流
- 第 2 回 二つのニーズの流れ：国家的ニーズ（ナショナルスタンダード）と両親・市民的ニーズ（シビルミニマム）
- 第 3 回 明治から現代までの学校教育史（職員会議の位置付けを例に）
- 第 4 回 学校現場の手法 I（学習成立の心理）
- 第 5 回 学校現場の手法 II（Ward's Shower 実習）
- 第 6 回 学校現場の手法 III（生徒指導の 3 機能）
- 第 7 回 学校現場の手法 IV（Role-play・DeBate 実習）
- 第 8 回 教育実習までの準備と教材研究
- 第 9 回 「ボイストレーニング」ー身体をほぐし、心を開くー
- 第 10 回 授業実習にあたって：学習指導要領、教科書、板書、発問など
- 第 11 回 『指導案の書き方』と『教育実習ノートの書き方』
- 第 12 回 先輩の経験に学ぶ
- 第 13 回 研究授業と授業研究会
- 第 14 回 学生による模擬授業と授業研究会 I
- 第 15 回 学生による模擬授業と授業研究会 II・講義のまとめ

評価方法

前半は 5 回以上に及ぶ演習問題の評価点。後半は平常点（70%）、提出物（30%）。さらに両者を加味したテストなどで総合的に評価する。

使用教材

配布プリント、演習問題、本学作成の『教育実習の手引き』など

授業外学習の内容

『教育実習の手引き』を事前に読み、諸課題の準備をする。

備考

教職指導Ⅱ（教職関係科目）

担当者

瀧口 典子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期 必修 1 単位、社会福祉学科 4 年前期 必修 1 単位

講義目標

教職指導Ⅰを踏まえて、学生が教育実習前のより実践的な事前学習を行う。さらに、実習後の学習を通して、学生が現場体験の意味を問い直し、今後の課題解決と教職への意識・使命感を確立することを目的とする。

到達目標

学生がどの教壇に立っても通用する教師力の基礎を身につけ、教育実習をやり遂げる。さらに教育実習後、体験記の作成と報告会を通じて総括し、教育実践力を高める。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーションとボイストレーニング
- 第 2 回 初めて生徒に出会う時（自己紹介など、生徒の前に立つ実践）
- 第 3 回 学校で起こる諸問題とその対応について
- 第 4 回 学生による模擬授業と授業検討会
- 第 5 回 学生による模擬授業と授業検討会
- 第 6 回 学生による模擬授業と授業検討会
- 第 7 回 学生による模擬授業と授業検討会
- 第 8 回 学生による模擬授業と授業検討会
- 第 9 回 教育実習（巡回、個別指導など）
- 第10回 教育実習（巡回、個別指導など）
- 第11回 教育実習の交流とまとめ
- 第12回 教育実習体験記の作成
- 第13回 教育実習体験報告会について（話し合い）
- 第14回 教育実習体験報告会の準備
- 第15回 教育実習体験報告会

評価方法

教育実習校の評価（30%）を参考に、授業参加度・参加状況（50%）、「教育実習体験記録」の内容、「報告会」の発表等（20%）を加味して、総合的に評価を行う。

使用教材

本学作成の『教育実習の手引き』、配布プリント

授業外学習の内容

『教育実習の手引き』を事前に読み、模擬授業の指導案作成と教材研究をする

備考

高等学校教育実習（教職関係科目）

担当者

深見 匡

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 4 年前期 必修 2 単位

講義目標

学校教育の現場に実習生として参加し、教科指導、生徒指導、学校の管理運営などについての理解を深める。

到達目標

教師として必要な資質や能力を養い、教科や教職に関する知識・理論・技能を活かして学校現場での生徒の発達や人格形成の促進のための実践的指導を行える。

講義内容と講義計画

4 年次の 5, 6 月、または秋に 2 週間の教育実習を行う。

評価方法

実習校における評価を踏まえて担当教員が評価する。

使用教材

実習校の指導に従う。

授業外学習の内容

教壇実習に必要な教材研究や学校指導案の作成を各自で行う。

備考

教職実践演習（高）（教職関係科目）

担当者

深見匡、瀧口典子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 4 年後期 必修 2 単位

講義目標

学生が、教員としての使命感や責任、教育的愛情を携えた上で、なおかつ情報、福祉、公民の高等学校教員として各教科指導においても十分な責務を果たすことができるような資質・能力を獲得したことを確認し、さらにそれらの向上を目指す。この目的を達成するために、担当教員およびゲスト講師による講義、事例検討、実践レポートの分析、「学校」シリーズ（山田洋次監督作品）など視聴覚教材の活用、ディスカッション、グループワーク、ロールプレー実技などを取り入れ、教職学生の総合的な実力の向上を図る。

到達目標

①教員として教育現場に出るために、自らが克服すべき課題について整理・検討し、具体的かつ効果的な手段を講じることができる。②教員としてのコミュニケーション能力の向上を目的として、事例検討、ロールプレイ、ディスカッションなどに積極的に参加する。③保護者との関わり、学級経営、行事作り、職員会議など、実践的な課題について理解し、これらの課題の教育的重要性や困難さについて、説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション「教員として現場に出るために」：自己分析と克服すべき課題の確認
- 第 2 回 「教師のライフヒストリーを聴く」
- 第 3 回 事例検討：「気になる」生徒の理解とその方法（例：いじめ・発達障害）
- 第 4 回 事例検討：「気になる」生徒の理解とその方法：保護者との関わりを中心に
- 第 5 回 講義とディスカッション：学級経営の実際について
- 第 6 回 授業実践「指導案づくりのワークショップ」
- 第 7 回 講義とディスカッション：教員としての総合的資質について
- 第 8 回 実技：生徒とのコミュニケーションと表現活動
- 第 9 回 実技：他の教員とのコミュニケーションと連携・協力
- 第10回 事例検討：職員会議（テーマ：生徒指導の問題をめぐって）
- 第11回 ロールプレイ実技：職員会議（テーマ：生徒指導の問題をめぐって）
- 第12回 フィールド調査のための話し合い
- 第13回 フィールド調査準備
- 第14回 フィールド調査実施
- 第15回 総括

評価方法

授業への参加度と合わせ克服すべき課題の解決にむけた建設的かつ具体的努力の成果を総合的に評価する。

使用教材

必要に応じて配布資料を使用する。

授業外学習の内容

授業外活動として、レポートの作成を課します。また教員としての現場での連携力を養う目的で、他の教職学生との連絡や協働作業を積極的に行うことが必要となる状況や課題を設定します。

備考

生涯学習社会と図書館（司書科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について理解できる。

到達目標

高齢化社会の到来によって、従来の学歴社会から生涯学習社会への移行が進展している。図書館は、社会教育施設の中でも利用度が高く、「知の拠点」として大きな役割を果たすことが求められている。ここでは、地域住民の課題解決と学習支援サービスに対応できる有為な人材を育成する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 生涯学習へのアプローチ
- 第 2 回 生涯学習・生涯教育論の展開と学習の実際
- 第 3 回 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携
- 第 4 回 生涯学習振興施策の立案と推進
- 第 5 回 教育の原理とわが国における社会教育の意義・発展・特質
- 第 6 回 社会教育行政の意義・役割と一般行政との関係
- 第 7 回 自治体の行財政制度と教育関連法規
- 第 8 回 社会教育の内容・方法・形態（学習情報の提供と学習相談、評価を含む）
- 第 9 回 学習への支援と学習成果の評価と活用
- 第10回 社会教育施設・生涯学習関連施設の管理・運営と連携
- 第11回 社会教育指導者の役割
- 第12回 生涯学習の実際（群馬県生涯学習センターと指導者バンクについて）
- 第13回 生涯学習の実際（高崎市生涯学習推進本部の生涯学習推進計画）
- 第14回 生涯学習の実際（講演会・放送大学・フィールドワーク等）
- 第15回 生涯学習体験報告会・まとめのレポート

評価方法

まとめのミニレポート（各 UNIT の要約と朗読 CD の感想を課題に採点評価する。）

使用教材

朝比奈大作編著『図書館員のための生涯学習概論』（日本図書館協会）定価（本体 1,900 円＋税）

授業外学習の内容

指定した教科書の UNIT を事前に読んでおくこと。

備考

司書資格科目

図書館概論（司書科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

図書館の機能・意義・役割を理解し、図書館の歴史や現状、図書館職員、図書館の自由、各種および各国の図書館、図書館の類縁機関を解説し、今後の図書館を巡る課題や展望を考察する。

到達目標

図書館とは何か。図書館の理論や諸制度の基本的な知識を修得し、図書館を知的関心の対象として、図書館について深く考え、図書館という組織をもつ社会的意味を広い視野から説明できるようになることを目的とする

講義内容と講義計画

- 第 1 回 図書館の現状と動向
- 第 2 回 図書館の構成要素と機能および図書館サービス
- 第 3 回 図書館の業務モデル
- 第 4 回 図書館の社会的意義
- 第 5 回 文化伝承し保存する図書館
- 第 6 回 公共図書館の成立と展開
- 第 7 回 わが国における公共図書館の成立と発展
- 第 8 回 わが国における公共図書館の展開
- 第 9 回 図書館の種類と利用者（1）国立図書館と公共図書館
- 第10回 図書館の種類と利用者（2）大学・学校・専門図書館
- 第11回 図書館の類縁機関と図書館関係団体
- 第12回 図書館員とライブラリアンシップ
- 第13回 知的自由と図書館
- 第14回 図書館の課題
- 第15回 展望

評価方法

レポートによる。期中、期末の 2 回レポートを提出してもらい評価する。
レポート 2 回（80%）、出席状況及び出席態度（20%）

使用教材

使用教材：『図書館の基礎と展望』（ベイシック司書講座・図書館の基礎と展望 1）村健著、学文社

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また、指示した事項は必ず確認すること

備考

司書という資格を取得する上で、必須科目ではある。それだけでなく社会に出て、仕事をこなしていく上で、自分で学ぶということを必ず意識せざるを得ない場面に必ず直面する。その時、図書館という機関がどういふものであり、どういふサービスを提供するところであるか学ぶことは、きっと役に立ちます。指定したテキストの該当 unit を事前に読んでおくこと。本講義は司書科目の最初に受講することが望ましい。

図書館制度・経営論（司書科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

図書館の関係法規、図書館政策のもと、図書館計画、図書館経営、サービス計画、図書館評価、図書館形態について解説する

到達目標

生涯学習社会における図書館という視点を重視して、図書館経営や制度に関わる組織、管理・運営、各種図書館計画について学び、図書館マネジメントや制度的背景について説明できるようになることを目的とする

講義内容と講義計画

第 1 回 図書館の法的基盤（教育基本法、社会教育法、地方自治法）

第 2 回 図書館法

第 3 回 図書館行政

第 4 回 学校図書館・大学図書館の制度

第 5 回 国立国会図書館の制度

第 6 回 その他の図書館関係法規

第 7 回 図書館経営の意義と自治体行政

第 8 回 図書館業務の理論と実際

第 9 回 図書館の組織

第10回 図書館の組織・職員

第11回 図書館計画とマーケティング

第12回 図書館の施設整備計画

第13回 図書館のネットワーク

第14回 図書館業務とサービス評価

第15回 図書館の管理形態の多様化とまとめ

評価方法

レポートによる。期中、期末の 2 回レポートを提出してもらい評価する。レポート 2 回（80%）、出席状況及び出席態度（20%）

使用教材

『図書館経営論』永田治樹著（JLA 図書館情報学テキストシリーズ）日本図書館協会

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また指示した事項は必ず確認すること。

備考

司書という資格を取得する上で、必須科目である。それだけでなく社会に出て、仕事をこなしていく上で、自分で学ぶということを必ず意識せざるを得ない場面に必ず直面する。その時、図書館という機関がどういうものであり、どういったサービスを提供するところであるか学ぶことは、きっと役に立ちます。指定したテキストの該当 unit を事前に読んでおくこと。

図書館情報技術論（司書科目）

担当者

田村 拓郎

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

近年の情報機器の多様化や進歩には目覚ましいものがある。図書館においても CD、DVD、コンピュータソフトなどの多様なメディアやコンピュータに代表される各種の情報機器が整備されてきている。また、これらの図書館資料にネットワーク情報資源を加えて、図書館情報資源としてとらえる必要がある。図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、利用法について学修する。

到達目標

図書館業務やサービスに必要な、情報機器やコンピュータシステム等の情報技術の知識や技術について修得できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体のガイダンス
- 第 2 回 現代の生活と情報技術
- 第 3 回 図書館と情報機器
- 第 4 回 コンピュータにおける情報の表現
- 第 5 回 情報の蓄積媒体と入出力媒体
- 第 6 回 コンピュータネットワーク
- 第 7 回 コンピュータシステム技術
- 第 8 回 図書館業務システム
- 第 9 回 データベースシステム
- 第10回 検索エンジン
- 第11回 情報検索
- 第12回 電子資料の管理
- 第13回 コンピュータシステムの管理
- 第14回 デジタル図書館
- 第15回 まとめ

評価方法

出席・課題の提出状況（70%）、授業への参加態度・貢献度（30%）で評価する。

使用教材

使用教材は未定。

授業外学習の内容

演習課題の提出が遅れる場合は、授業時間外に PC 室を積極的に利用すること。

備考

司書資格必修科目

図書館サービス概論（司書科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

図書館サービスの考え方・構造を理解し、資料・情報提供、様々な図書館サービス、著作権、コミュニケーション等の基本を解説する

到達目標

図書館サービスは図書館の機能の具体化し実践する活動であり、図書館利用者と直結した大切な領域である。これからの図書館のあり方や自分が利用する図書館のサービスを点検できるようになることを目的とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 図書館サービスの意義
- 第 2 回 図書館サービス計画と業務分析
- 第 3 回 図書館サービスに関わる職員と外部資源の活用
- 第 4 回 来館者サービス
- 第 5 回 利用空間の整備
- 第 6 回 貸出サービスの構造
- 第 7 回 資料提供の展開
- 第 8 回 図書館サービスと著作権
- 第 9 回 情報提供サービスの意義
- 第 10 回 情報提供サービスの実際
- 第 11 回 課題解決支援サービス
- 第 12 回 障害者サービスと高齢者サービス
- 第 13 回 多文化サービスとその他のサービス
- 第 14 回 利用者との交流
- 第 15 回 まとめ

評価方法

レポートによる。期中、期末の 2 回レポートを提出してもらい評価する。
レポート 2 回（80%）、出席状況及び出席態度（20%）

使用教材

図書館サービス論（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ 3）小田光宏編著 日本図書館協会

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また、指示した事項は必ず確認すること

備考

司書という資格を取得する上で、必須科目である。それだけでなく社会に出て、仕事をこなしていく上で、自分で学ぶということを必ず意識せざるを得ない場面に必ず直面する。その時、図書館という機関がどういうものであり、どういうサービスを提供するところであるか学ぶことは、きっと役に立ちます。指定したテキストの該当 unit を事前に読んでおくこと。

情報サービス論（司書科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービスや情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源を理解し、利用者に対する図書館利用方法を支援し、発信型の情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

到達目標

高度情報社会といわれる現代社会では、各種の情報サービスが、高度に展開されている。図書館サービスとしてのレファレンス・サービスも資料提供を基にしたサービスだけでは充分でなく、新しい種々の情報サービスが提供されるようになった。その知識や技術を修得し、図書館利用者への資料・情報提供支援を的確に行なえるようにすることが目的である。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 情報サービスの概要
- 第 2 回 情報サービスの基礎（レファレンスサービス、オンライン検索サービス等）
- 第 3 回 情報サービスの基礎（利用案内、レフェラルサービス）
- 第 4 回 情報サービスの展開（読書相談、学習情報提供、地域情報提供、案内・紹介）
- 第 5 回 情報源の種類と評価
- 第 6 回 情報ニーズの理解と情報検索行動
- 第 7 回 レファレンスプロセス、レファレンス質問、インタビュー
- 第 8 回 検索戦略、情報源の選択、検定語の選定
- 第 9 回 データベースの検索機能、検索の実行、回答の提供と評価
- 第10回 情報サービスの管理
- 第11回 事実検索の情報源
- 第12回 文献検索の情報源
- 第13回 電子メディアの活用
- 第14回 発信型情報サービスの意義と活用
- 第15回 図書館利用教育

評価方法

レポートによる。期中、期末の 2 回レポートを提出してもらい評価する。レポート 2 回（80%）、ミニテスト・出席状況及び出席態度（20%）

使用教材

情報サービス論（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ5 4）小田光宏編著日本図書館協会

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また指示した事項は必ず確認すること

備考

司書という資格を取得する上で、必須科目である。それだけでなく社会に出て、仕事をこなしていく上で、自分で学ぶということを必ず意識せざるを得ない場面に必ず直面する。その時、図書館という機関がどうしても

のであり、どういうサービスを提供するところであるか学ぶことは、きっと役に立ちます。指定したテキストの該当 unit を事前に読んでおくこと。

児童サービス論（司書科目）

担当者

案田 順子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

児童サービス（対象は乳幼児からヤングアダルトまで）の概要と意義、担当者の専門的職務、歴史的変遷と発展内容、児童資料の特色と選択、発達と学習への「読書」の役割、児童コレクションの形成と管理、さらにヤングアダルトサービスの概要と資料の特色を認識する。

到達目標

公共図書館における児童サービスの重要性を理解し、年齢別、資料別での具体的な仕事内容の認識と技法を身に付ける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 児童サービスの概要と意義
- 第 2 回 児童サービス担当者の専門的職務
- 第 3 回 児童資料の類型
- 第 4 回 児童資料の特色と選択 1 絵本の種類とグレード
- 第 5 回 児童資料の特色と選択 2 児童文学 創作児童文学、昔話・伝承文学、詩
- 第 6 回 児童資料の特色と選択 3 ノンフィクション、レファレンスブック
- 第 7 回 児童資料の特色と選択 4 児童資料の出版と流通
- 第 8 回 児童資料の特色と選択 5 児童コレクションの形成と評価
- 第 9 回 児童サービスの業務 1 資料提供サービス
- 第 10 回 児童サービスの業務 2 情報サービス
- 第 11 回 児童サービスの業務 3 乳幼児サービス
- 第 12 回 児童サービスの方法・技術（読み聞かせとストーリーテリング）
- 第 13 回 絵本読み聞かせ指導
- 第 14 回 ヤングアダルトサービスの概要と資料の特色
- 第 15 回 児童サービス対象者向けオリジナル図書館案内の作成

評価方法

学期末筆記試験 60%、オリジナル図書館案内（児童向け）の作成 30%、授業参加度 10%による。なおオリジナル図書館案内（児童向け）作成に関する評価基準は、講義時に提示する。

使用教材

『児童サービス論』JAL 図書館情報学テキストシリーズⅡ…テキストは内容改訂が多いので、前年度のものを先輩から譲ってもらわないように!!

授業外学習の内容

近隣の公共図書館を来館し、現在の児童サービスの現状を実際に見聞して来てください。

備考

受講ルール：私語・携帯電話の使用・飲食については、授業の妨げになるため一切禁止。
学習上の助言：生涯教育の一環としての児童サービスの重要性を理解するとともに、どのようにすれば子ども達に読書の楽しさと喜びを伝えられるかについて学ぶ、大変有意義な授業です。特に各自がオリジナルの図書

館案内（児童向け）を作成することによって、児童サービスの内容を認識でき、キャリアプランへの構築へと繋がります。担当教員メールアドレス：janda@takasaki-u.ac.jp

情報サービス演習（司書科目）

担当者

井ノ口雄久、田村拓郎

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年通年 必修 4 単位、社会福祉学科 3 年通年 必修 4 単位

講義目標

情報サービスの設計から評価までの各種の業務、質問回答、情報源の評価、情報検索の実際、発信型情報サービスの実際を演習を通して、実践的な能力を養成する

到達目標

本科目は情報サービス概論の実際を学ぶ科目として、実際のレファレンスブックや様々な情報源を確認し、情報源の評価やデータベースの実際の利用を通して、レファレンスサービスの実際を体験し、図書館の現場できちんとした対応ができるようにすることが目的である。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 レファレンスサービスの方法と実際
- 第 2 回 参考図書の評価の実際（総記・哲学）
- 第 3 回 参考図書の評価の実際（歴史・社会科学）
- 第 4 回 参考図書の評価の実際（自然科学・技術）
- 第 5 回 参考図書の評価の実際（産業と芸術）
- 第 6 回 参考図書の評価の実際（語学・文学）
- 第 7 回 参考図書の評価の実際（総記・哲学）
- 第 8 回 質問回答の実際（総記・哲学・歴史）
- 第 9 回 質問回答の実際（社会科学・自然科学）
- 第10回 質問回答の実際（技術・産業・芸術）
- 第11回 質問回答の実際（語学・文学）
- 第12回 パスファインダーの作成方法
- 第13回 パスファインダーの作成の実際
- 第14回 利用案内の比較の方法
- 第15回 利用案内の比較の実施
- 第16回 情報検索の概要
- 第17回 情報検索システムの基本機能
- 第18回 主要な図書検索システムの概要
- 第19回 NDL-OPAC による検索
- 第20回 NACSIS-CAT による検索
- 第21回 TRC による検索
- 第22回 主要なサーチエンジンの概要
- 第23回 サーチエンジンによる検索の実際 1
- 第24回 サーチエンジンによる検索の実際 2
- 第25回 情報検索の実際 1
- 第26回 情報検索の実際 2
- 第27回 シソーラスの利用
- 第28回 検索システムの仕組み 1
- 第29回 検索システムの仕組み 2
- 第30回 情報機器の構成と利用法

評価方法

毎回のレポート（80％）出席状況及び出席態度（20％）

使用教材

講義中に適宜、レジュメや課題を配布する

授業外学習の内容

講義中に指示する。

備考

司書という資格を取得する上で、必須科目である。それだけでなく社会に出て、仕事をこなしていく上で、自分で学ぶということを必ず意識せざるを得ない場面に必ず直面する。その時、図書館という機関がどういうものであり、どのようなサービスを提供するところであるか学ぶことは、きっと役に立ちます。特にこの演習は、ゼミ及び卒業研究に役立ちます。

図書館情報資源概論（司書科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本について理解できる。

到達目標

高度情報化社会の進展に伴い、図書館環境も大きく変わりつつある。図書館が取り扱う資料も、これまでの印刷メディア・非印刷メディア以外に、情報技術がもたらした電子メディアから通信メディアにまで及ぶ。近未来の電子図書館構想を視野に入れて、多様化する図書館情報資源の有効活用について考えることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 図書館情報資源の意義（定義、情報と資料、類型）
- 第 2 回 図書館情報資源と図書館の自由（表現の自由と検閲）
- 第 3 回 印刷資料の類型と特質（図書・雑誌・新聞等）
- 第 4 回 非印刷資料の類型と特質（映像・音声資料等）
- 第 5 回 電子資料の類型と特質
- 第 6 回 ネットワーク情報資源の類型と特質
- 第 7 回 地域資料、行政資料（政府刊行物）、灰色文献
- 第 8 回 情報資源の生産（出版）と流通（主な出版者に関する基本的知識を含む）
- 第 9 回 図書館業務と情報資源に関する知識（主な著者に関する基本的知識を含む）
- 第 10 回 コレクション形成の理論（資料の選択、収集、評価）
- 第 11 回 コレクション形成の方法（選択ツールの利用、選定、評価）
- 第 12 回 人文・社会科学分野の情報資源とその特性
- 第 13 回 科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性
- 第 14 回 資料の受入・除籍・保存、管理（装備、補修、排架、展示、点検等を含む）
- 第 15 回 学習の整理と展望・まとめのレポート

評価方法

まとめのミニレポート（各 UNIT の要約と朗読 CD の感想を課題に採点評価する。）

使用教材

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』（日本図書館協会）定価（1,900 円＋税）

授業外学習の内容

指定した教科書の UNIT を事前に読んでおくこと。

備考

司書資格科目

情報資源組織論（司書科目）

担当者

太田 克子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

図書館情報資源を利用しやすいように主題によって排列し、資源へのアプローチを主題・タイトル・著者名等から可能にする一連の過程及び技術を資料組織という。これら技術の意義・機能を理解する。

到達目標

「日本十進分類法」による分類作業、「基本件名標目表」による件名作業、「日本目録規則」による書式術を理解する。図書館における資料組織の意義を理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 情報資源組織論の進め方
- 第 2 回 情報資源組織化の意義と理論
- 第 3 回 書誌コントロールと標準化
- 第 4 回 書誌コントロールと標準化・読書ノート
- 第 5 回 情報資源組織化の意義（資料を通して）
- 第 6 回 主題分析と分類①
- 第 7 回 主題分析と分類②
- 第 8 回 主題分析と分類③・読書ノート
- 第 9 回 主題分析と分類④
- 第10回 記述目録法①
- 第11回 記述目録法②
- 第12回 記述目録法③・読書ノート
- 第13回 記述目録法④
- 第14回 ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 70%、平常点（授業貢献度・提出物等） 30%

使用教材

『情報資源組織法』志保田務・高鷲忠美編著（第一法規）

授業外学習の内容

「日本十進分類法」中分類 2 桁まで暗記して授業に臨むこと。授業内容は、必ず復習すること。

備考

情報資源組織演習（司書科目）

担当者

太田 克子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年通年 必修 4 単位、社会福祉学科 2 年通年 必修 4 単位

講義目標

図書館の実際の業務を想定して、情報資源の組織化に関する実習を行う。この過程を通して利用者の資料・情報探索のニーズを考え、図書館の対応のあり方を考える。

到達目標

「日本十進分類法」による分類作業、「基本件名標目表」による件名作業、「日本目録規則」による書誌記述ができるようにする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 情報資源組織演習の進め方
- 第 2 回 日本目録規則による書誌データの作成①
- 第 3 回 日本目録規則による書誌データの作成②
- 第 4 回 日本目録規則による書誌データの作成③・読書ノート
- 第 5 回 日本目録規則による書誌データの作成④
- 第 6 回 日本目録規則による書誌データの作成⑤
- 第 7 回 日本目録規則による書誌データの作成⑥
- 第 8 回 日本目録規則による書誌データの作成⑦・読書ノート
- 第 9 回 日本目録規則による書誌データの作成⑧
- 第10回 日本目録規則による書誌データの作成⑨
- 第11回 日本目録規則による書誌データの作成⑩
- 第12回 日本目録規則による書誌データの作成⑪・読書ノート
- 第13回 集中化・共同化による書誌データ作成
- 第14回 書誌データ管理・検索システムの構築
- 第15回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成
- 第16回 日本十進分類法概説
- 第17回 日本十進分類法による分類作業①
- 第18回 日本十進分類法による分類作業②
- 第19回 日本十進分類法による分類作業③
- 第20回 日本十進分類法による分類作業④
- 第21回 日本十進分類法による分類作業⑤
- 第22回 日本十進分類法による分類作業⑥
- 第23回 日本十進分類法による分類作業⑦
- 第24回 日本十進分類法による分類作業⑧
- 第25回 日本十進分類法による分類作業⑨
- 第26回 日本十進分類法による分類作業⑩
- 第27回 日本十進分類法による分類作業⑪
- 第28回 基本件名標目表による統制語彙①
- 第29回 基本件名標目表による統制語彙②
- 第30回 まとめ

評価方法

筆記試験 70% 平常点（授業貢献度・提出物等） 30%

使用教材

『情報資源組織法』志保田務・高鷲忠美編著（第一法規）、『情報資源組織演習』和中幹雄ほか著（JLA）

授業外学習の内容

「日本十進分類法」中分類 2 桁まで暗記して授業に臨むこと。

備考

図書館サービス特論（司書科目）

担当者

案田 順子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 1 単位、社会福祉学科 3 年後期 必修 1 単位

講義目標

司書資格取得必修科目で学んだ内容を実際に司書業務の中に活かすには、カウンターサービス並びにフロアワークに必要なコミュニケーション能力を伸ばすことが不可欠である。特に日本人に固有なノンバーバル・コミュニケーションの理解と将来の超高齢化・少子化を考慮しながらのコミュニケーション能力の養成により、生涯学習としての図書館利用を促せるサービス環境の構築をめざす。

到達目標

この授業は対人業務に必要なコミュニケーション能力を学び、その能力を具体的に修得できるようにする。第一段階としてコミュニケーションの定義の正確な理解、第二段階では多種多様な利用者との場面設定を具体的に行い、円滑なコミュニケーションの実現と個々学生の対応力の養成を目指す。

講義内容と講義計画

- 第1回 コミュニケーションの必要性
- 第2回 ノンバーバル・コミュニケーションのメッセージ性
- 第3回 マスコミュニケーションと社会
- 第4回 若者文化とコミュニケーション
- 第5回 図書館サービスとコミュニケーションの関係
- 第6回 カウンターサービスとフロアワークの目的と意義
- 第7回 情報化の進展と図書館サービス
- 第8回 「モノ」と「コト」に付けられた「名前」

評価方法

学期末筆記試験は 70%、授業時間内提出物 20%、授業参加度 10%による。なお詳しい評価基準は、初回授業時に提示する。

使用教材

『コミュニケーション学入門』（大修館書店）、オリジナルプリント

授業外学習の内容

授業中だけでなく、普段から自分のコミュニケーション能力を磨くようにつとめましょう。

備考

資格に関する内容：司書資格科目

受講ルール：私語・携帯電話の使用・飲食は授業進行の妨げ、他受講生への迷惑、そして司書資格取得への意欲不足を示す行為であると考え厳禁とする。

キーワード：「ノンバーバルコミュニケーション」「フロアワーク」「カウンターワーク」「生涯学習」

学習上の助言：「コミュニケーションは苦手です…」という学生は積極的に授業に参加すること!!

担当教員メールアドレス：janda@takasaki-u.ac.jp

図書館情報資源特論（司書科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 1 単位、社会福祉学科 3 年後期 必修 1 単位

講義目標

必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し理解を深める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題を選択し、高度化・多様化する学習ニーズに応えられる。

到達目標

図書館情報資源概論では、従来の図書館資料に電子資料とネットワーク情報資源を加えて、図書館情報資源としてとらえた。ここでは、図書館職員の情報資源に関する知識を充実させるために、各分野の情報資源にアクセスし、さらに発展的に学習し理解を深めることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 専門資料の情報アクセスについて
- 第 2 回 人文科学分野の情報資源の特性とアクセス
- 第 3 回 社会科学分野の情報資源の特性とアクセス
- 第 4 回 科学技術分野の情報資源の特性とアクセス
- 第 5 回 生活分野の情報資源の特性とアクセス
- 第 6 回 地域社会分野の情報資源の特性とアクセス
- 第 7 回 NIE（教育に新聞を！）の特性と活用
- 第 8 回 学習の整理と展望・まとめのレポート

評価方法

まとめのミニレポート（各 UNIT の要約と朗読 CD の感想を課題に採点評価する。）

使用教材

『図書館情報資源概論』の継続と新聞記事のスクラップ

授業外学習の内容

指定した教科書の UNIT を事前に読んでおくこと。

備考

司書資格科目

学校経営と学校図書館（司書教諭科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 4 年前期 必修 2 単位

講義目標

学校図書館メディアを収集・整理・保存・提供する図書館サービスは、単に図書館内部の問題として考えられるだけでなく、学校教育の目的達成を支援するという基本的役割を担っていることを理解する。その上で、教師と司書教諭による協調（コラボレーション）の重要性と学校図書館の活動について説明できるようになることを目的とする。

到達目標

学校の教育目標達成のために学校図書館の運営計画を立案できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 教育と学校図書館
- 第 2 回 学校図書館の発達と役割
- 第 3 回 制度としての学校図書館
- 第 4 回 教育課程と学校図書館
- 第 5 回 学校経営と学校図書館
- 第 6 回 学校図書館メディア
- 第 7 回 学校図書館の施設・設備
- 第 8 回 学校図書館経営のための諸組織
- 第 9 回 学校図書館の会計
- 第10 回 学校図書館経営
- 第11 回 学校図書館活動
- 第12 回 学校図書館活動の実際
- 第13 回 学校図書館の評価と改善
- 第14 回 学校図書館の課題と展望
- 第15 回 まとめ

評価方法

レポートによる。期中、期末の 2 回のレポートを提出してもらい評価する。

レポート 2 回（60%）、出席状況及び出席態度（40%）

使用教材

使用教材：『学校経営と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズⅡ・・・1）中村百合子編 樹村房

授業外学習の内容

司書教諭資格科目指定したテキストは事前に読んで、毎回の課題に対して疑問を持ったこと・興味を持ったこと・整理したことを記録する。講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。

備考

学校図書館メディアの構成（司書教諭科目）

担当者

小柳 聡美

開講学科と時期・単位

医療情報学科学科 4 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 4 年前期 必修 2 単位

講義目標

学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性等について学修し、その選択・収集・保存・提供等について考察する。特に各種メディアへのアクセスを容易にするための資料組織化の技術を修得する。

到達目標

学校図書館メディアの収集・組織・提供ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 学校図書館メディアの意義・役割
- 第 2 回 学校図書館メディアの種類・特性
- 第 3 回 学校図書館メディアの選択と構成
- 第 4 回 学校図書館メディアの組織化 (1) 分類の意義と機能
- 第 5 回 学校図書館メディアの組織化 (2) 日本十進分類法の概要
- 第 6 回 学校図書館メディアの組織化 (3) 日本十進分類法の使い方①
- 第 7 回 学校図書館メディアの組織化 (4) 日本十進分類法の使い方②
- 第 8 回 学校図書館メディアの組織化 (5) 日本十進分類法の使い方③
- 第 9 回 学校図書館メディアの組織化 (6) 件名標目表
- 第 10 回 学校図書館メディアの組織化 (7) 目録の意義と機能
- 第 11 回 学校図書館メディアの組織化 (8) 日本目録規則の概要
- 第 12 回 学校図書館メディアの組織化 (9) 日本目録規則の使い方①
- 第 13 回 学校図書館メディアの組織化 (10) 日本目録規則の使い方②
- 第 14 回 学校図書館メディアの組織化 (11) 目録の電算化
- 第 15 回 多様な学習環境と学校図書館メディアの配置

評価方法

筆記試験 80%、授業参加度・受講態度 20%

使用教材

『情報資源組織法』最新版 志保田務 高鷲忠美編著 第一法規 定価 2,600 円（税別）

授業外学習の内容

「日本十進分類法 第 2 次区分表を暗記（使用教材に一覧表有）」

備考

- ・ 司書教諭資格科目
- ・ 教育実習の際、学校図書館をよく観察すること。

学習指導と学校図書館（司書教諭科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

学校図書館が教師の学ぶ場となり、司書教諭が教師の学習活動を支援することができるように、学校図書館メディアの活用について理解を図ることができる。

到達目標

学習指導における学校図書館メディア活用についての理解を図ることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 はじめに(教育課程の展開と学校図書館)
- 第 2 回 学校教育と学校図書館
- 第 3 回 カリキュラム編成と学校図書館
- 第 4 回 学習情報センターとしての学校図書館
- 第 5 回 発達段階に応じた学習指導のあり方
- 第 6 回 生涯学習の理念と学校図書館
- 第 7 回 現代社会におけるメディア活用能力
- 第 8 回 図書館利用の指導－その目的と理念
- 第 9 回 図書館利用の指導－その内容
- 第10 回 図書館利用の指導－その方法と評価
- 第11 回 メディア活用における諸問題
- 第12 回 レファレンス・サービスの実際
- 第13 回 情報の収集と提供
- 第14 回 情報サービスネットワークの活用
- 第15 回 おわりに（まとめのレポート）

評価方法

授業への積極的な参加状況とまとめの課題レポート（各章の要約をと朗読 CD の感想）を総合評価する。

使用教材

教科書：『学習指導と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズ 03）堀川照代編著 樹村房 定価 1,943 円

授業外学習の内容

指定した教科書の各章を読んでおくこと。

備考

司書教諭資格科目

読書と豊かな人間性（司書教諭科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

学校図書館の読書センターとしての仕事の実際を把握し、児童・生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法について理解を図ることができる。

到達目標

児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法について理解を図ることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 はじめに(読書と人間形成)
- 第 2 回 読書の意義と目的
- 第 3 回 児童青少年の読書習慣と心の教育
- 第 4 回 情報社会と読書環境の整備
- 第 5 回 読書と学校図書館の役割
- 第 6 回 発達段階の読書指導
- 第 7 回 出版状況と図書資料の選択
- 第 8 回 読書資料の種類と特性
- 第 9 回 図書館資料としての漫画の利用
- 第10回 読書の指導方法
- 第11回 ストーリーテディング、読み聞かせ、ブックトーク
- 第12回 読書環境の整備(図書委員会活動・読書感想文等)
- 第13回 家庭、地域、公共図書館との連携
- 第14回 学校図書館と公共図書館との連携・協力
- 第15回 おわりに (まとめのレポート)

評価方法

授業への積極的な参加状況とまとめの課題レポート(各章の要約と朗読 CD の感想)を総合評価する。

使用教材

教科書：『読書と豊かな人間性』（司書教諭テキストシリーズ 4）朝比奈大作編著 樹村房 定価 1,943 円

授業外学習の内容

指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。

備考

司書教諭資格科目

情報メディアの活用（司書教諭科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。

到達目標

多様な情報メディアを授業に役立つように利用できること

講義内容と講義計画

- 第 1 回 現代生活と情報メディア
- 第 2 回 情報メディアの歴史
- 第 3 回 伝統的情報メディアとデジタルメディア
- 第 4 回 学習メディアとしての利点と選択
- 第 5 回 インターネットのしくみと活用
- 第 6 回 データベースの検索と利用
- 第 7 回 ソフトウェアとその利用
- 第 8 回 個別学習のための教育用ソフトウェア
- 第 9 回 問題解決学習のための情報探索
- 第10回 学びの共同体と協調学習支援環境
- 第11回 校内における学校図書館メディアの選択と構成
- 第12回 学校図書館と情報技術
- 第13回 知的財産権と著作権制度の概要
- 第14回 デジタル・ネットワーク社会の陥穽
- 第15回 学校図書館と情報メディア

評価方法

レポートによる。期中、期末の 2 回のレポートを提出してもらい評価する。
レポート 2 回（60%）、出席状況及び出席態度（40%）

使用教材

『新版 情報メディアの活用』山本純一他放送大学教育振興会

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また指示した事項は必ず確認すること。

備考

司書教諭資格科目指定したテキストは事前に読んでおくこと。